



BI 起動パッドユーザガイド

■ SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 Support Package 2

2011-05-06

著作権

© 2011 SAP AG. All rights reserved. SAP、R/3、SAP NetWeaver、Duet、PartnerEdge、ByDesign、SAP Business ByDesign、および本書に記載されたその他のSAP製品、サービス、ならびにそれぞれのロゴは、ドイツおよびその他の国々におけるSAP AGの商標または登録商標です。Business ObjectsおよびBusiness Objectsロゴ、BusinessObjects、Crystal Reports、Crystal Decisions、Web Intelligence、Xcelsius、および本書で引用されているその他のBusiness Objects製品、サービス、ならびにそれぞれのロゴは、米国およびその他の国々におけるBusiness Objects S.A.の商標または登録商標です。Business ObjectsはSAPのグループ企業です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。本書に記載されたデータは情報提供のみを目的として提供されています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。これらの文書の内容は、予告なしに変更されることがあります。また、これらの文書はSAP AGおよびその関連会社(「SAPグループ」)が情報提供のためにのみ提供するもので、いかなる種類の表明および保証を伴うものではなく、SAPグループは文書に関する誤記・脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAPグループの製品およびサービスに対する唯一の保証は、当該製品およびサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

2011-05-06

目次

第 1 章	はじめに.....	9
1.1	このドキュメントについて.....	9
1.2	このドキュメントの対象読者.....	9
1.3	BI 起動パッドとは.....	9
1.4	BI 起動パッドの新機能.....	10
1.5	ライセンス.....	11
1.6	開始前の準備.....	11
1.6.1	事前の留意事項.....	11
1.6.2	主要タスク[シュヨウタスク].....	12
第 2 章	BI 起動パッド基本.....	15
2.1	ユーザインタフェース.....	15
2.1.1	ヘッダパネル.....	15
2.1.2	ホームタブ.....	15
2.1.3	ドキュメントタブ.....	17
2.1.4	タブ.....	20
2.2	BI 起動パッドにログインする.....	20
第 3 章	基本設定の設定.....	23
3.1	基本設定の設定.....	23
3.1.1	全般基本設定を設定する.....	23
3.1.2	パスワードを変更する.....	24
3.1.3	優先表示ロケール.....	25
3.1.4	Crystal レポートの表示の基本設定を設定する.....	26
3.1.5	BI ワークスペースの基本設定を設定する.....	27
3.1.6	SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP の基本設定を設定する.....	28
3.1.7	Web Intelligence 基本設定.....	28
第 4 章	オブジェクトの表示.....	35
4.1	オブジェクトの表示.....	35
4.1.1	オブジェクトを表示する.....	35
4.1.2	将来表示するためにタブをピン留めする.....	36

4.2	Crystal レポートの表示.....	37
4.2.1	Crystal レポートビューア.....	37
4.2.2	Crystal レポートビューアのツールバー.....	41
4.2.3	SAP Crystal Reports ビューア 2011.....	42
4.2.4	Crystal レポートデータをドリルダウンする.....	43
4.2.5	Crystal レポートにアラートを表示する.....	43
4.2.6	Web ビューアで Crystal レポートのパラメータを表示および編集する.....	44
4.2.7	Crystal レポートを印刷する.....	44
4.2.8	Crystal レポートをエクスポートする.....	45
4.2.9	データをインタラクティブに並べ替える.....	47
4.3	Web Intelligence ドキュメントの表示.....	47
4.3.1	Web Intelligence ビューアツールバー.....	47
4.3.2	ナビゲーションマップを表示する.....	48
4.3.3	ユーザプロンプトを表示する.....	49
4.3.4	テキストを検索する.....	49
4.3.5	ドキュメントデータをドリルする.....	49
第 5 章	オブジェクトの使用.....	51
5.1	BI 起動パッドでのオブジェクトの管理.....	51
5.2	BI 起動パッドでの新しいオブジェクトの作成と追加.....	52
5.3	BI 起動パッドにオブジェクトを追加します。.....	52
5.3.1	コンピュータから BI 起動パッドにドキュメントを追加する.....	52
5.4	オブジェクトの並べ替えとフィルタ処理.....	53
5.4.1	オブジェクトの並べ替えまたはフィルタ処理.....	53
5.5	オブジェクトのプロパティを設定する.....	54
5.6	オブジェクトをコピーする.....	55
5.7	オブジェクトを移動する.....	55
5.8	オブジェクトへのショートカットを作成する.....	56
5.9	オブジェクトまたはインスタンスを出力先に送信する.....	56
5.10	オブジェクトの OpenDocument リンクを作成する.....	57
5.11	オブジェクトを削除する.....	58
5.12	ハイパーリンクを作成する.....	58
5.13	BI 起動パッドでの検索.....	58
5.13.1	プラットフォーム検索機能.....	59
5.13.2	プラットフォーム検索による検索対象.....	60
5.13.3	プラットフォーム検索のテクニック.....	62
5.13.4	BI 起動パッドで検索を実行する.....	64
5.14	フォルダとカテゴリ.....	65
5.14.1	フォルダまたはカテゴリを作成する.....	65
5.14.2	フォルダまたはカテゴリのプロパティを設定する.....	66
5.14.3	フォルダへのオブジェクトの追加.....	66

5.14.4	オブジェクトをカテゴリに割り当てる.....	66
第 6 章	オブジェクトのスケジュール.....	69
6.1	オブジェクトのスケジュール.....	69
6.2	オブジェクトをスケジュールする.....	69
6.2.1	インスタンスのタイトルを設定する.....	70
6.2.2	定期スケジュールパターンを選択する.....	71
6.2.3	データベースログオン情報を指定する.....	72
6.2.4	インスタンス形式を指定する.....	72
6.2.5	出力先を指定する.....	78
6.2.6	レコード選択式を適用する.....	84
6.2.7	Crystal レポートの印刷設定を設定する.....	84
6.2.8	パラメータまたはプロンプトでオブジェクトをスケジュールする.....	85
6.2.9	イベントでオブジェクトをスケジュールする.....	85
6.2.10	スケジューリングサーバグループを設定する.....	86
6.2.11	Web Intelligence ドキュメントのキャッシュ形式を選択する.....	86
6.2.12	レポートインスタンスの言語を選択する.....	87
6.3	インスタンスの一時停止および再開.....	87
6.3.1	インスタンスを一時停止する.....	88
6.3.2	一時停止したインスタンスを再開する.....	88
6.4	オブジェクトパッケージのスケジュール	88
6.4.1	オブジェクトパッケージをスケジュールする.....	89
6.5	インスタンスの使用.....	89
6.5.1	オブジェクトの最新のインスタンスを表示する.....	89
6.5.2	履歴インスタンスの表示.....	90
6.5.3	BI 受信トレイを空にする.....	91
第 7 章	ディスカッションの使用.....	93
7.1	ディスカッション.....	93
7.1.1	ディスカッションを開く.....	93
7.1.2	メモを追加する.....	93
7.1.3	メモを編集する.....	94
7.1.4	メモに返信する.....	94
7.1.5	メモを削除する.....	95
第 8 章	公開.....	97
8.1	公開について.....	97
8.2	パブリケーションとは.....	97
8.3	パブリケーションの概念.....	97
8.3.1	レポートバースト.....	98

8.3.2	配信ルール.....	99
8.3.3	動的受信者.....	101
8.3.4	出力先.....	102
8.3.5	形式.....	105
8.3.6	パーソナライゼーション.....	107
8.3.7	パブリケーション拡張.....	108
8.3.8	購読.....	109
8.3.9	Crystal レポート向け PFD のマージ.....	110
8.4	公開に必要な権限.....	110
8.4.1	公開者と受信者: 表示する内容とアクセス権.....	112
第 9 章	パブリケーションの使用.....	113
9.1	パブリケーションのデザイン.....	113
9.1.1	SAP BusinessObjects Live Office で使用するためのパブリケーションのデザイン.....	113
9.1.2	SAP 受信者用パブリケーションの設計.....	113
9.1.3	CMC で新しいパブリケーションを作成する.....	114
9.1.4	BI 起動パッドで新しいパブリケーションを作成する.....	114
9.1.5	既存のパブリケーションを開く.....	115
9.1.6	新規パブリケーションに一般プロパティを入力する.....	115
9.1.7	ソースドキュメントを選択する.....	115
9.1.8	Enterprise 受信者を選択する.....	116
9.1.9	動的受信者を指定する.....	116
9.1.10	パブリケーションの出力先を指定する.....	118
9.1.11	動的コンテンツ ソースドキュメントを電子メールに埋め込む.....	118
9.1.12	スケジュール情報を指定する.....	120
9.1.13	Crystal レポートパブリケーションの設計タスク.....	120
9.1.14	Web Intelligence ドキュメントパブリケーションの設計タスク.....	127
9.1.15	追加のパブリケーション機能の使用.....	128
9.2	パブリケーションのデザイン後のタスク.....	137
9.2.1	パブリケーションの最終処理.....	137
9.2.2	パブリケーションをテストする.....	137
9.2.3	パブリケーションを購読または購読解除する.....	138
9.2.4	パブリケーションの実行をスケジュールする.....	139
9.2.5	パブリケーション結果の表示.....	139
9.2.6	パブリケーションインスタンスを再配布する.....	142
9.2.7	失敗したパブリケーションを再試行する.....	143
9.3	パブリケーションパフォーマンスの向上.....	143
9.3.1	ソースドキュメントの追加に関する推奨事項.....	144
9.3.2	動的受信者ソースの使用に関する推奨事項.....	145
9.3.3	電子メールのパブリケーションインスタンスの送受信に関する推奨事項.....	146

第 10 章	アラートの使用.....	147
10.1	アラート.....	147
10.1.1	利用可能なアラートソース.....	147
10.1.2	アラートと Crystal レポートアラート通知の相違点.....	148
10.1.3	アラートワークフロー.....	149
10.1.4	アラートに必要な権限.....	150
10.2	アラートタスク.....	152
10.2.1	BI 起動パッドにおけるアラートソースオブジェクトの検索.....	152
10.2.2	アラートを購読する.....	153
10.2.3	アラートを購読解除する.....	154
10.2.4	ほかのユーザをアラートの購読者として指定する.....	154
10.2.5	ユーザをアラートから除外する.....	155
10.2.6	アラートソースのアラート設定を管理する.....	155
10.2.7	アラート通知の表示.....	156
第 11 章	アプリケーションの使用.....	157
11.1	BI 起動パッドでのアプリケーションの使用.....	157
11.2	BI 起動パッドでアプリケーションを起動する.....	157
11.3	BI 起動パッドでの BEx Web アプリケーション.....	157
11.3.1	BI 起動パッドで Business Explorer Web アプリケーションにアクセスする.....	158
11.3.2	Business Explorer Web アプリケーションをブックマークとして保存する.....	159
付録 A	より詳しい情報.....	161
	索引.....	163

はじめに

1.1 このドキュメントについて

このドキュメントでは、BI プラットフォームと BI 起動パッドの使用に関する情報と手順を示します。

BI 起動パッドは Web ブラウザ内で実行され、BI プラットフォームでオブジェクトを使用する場合の主要なインタフェースです。BI プラットフォームの管理者は、BI プラットフォームプラグインコンポーネントから作成された Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメントなど、さまざまな種類のオブジェクトをデプロイできます。BI 起動パッドを使用すると、ユーザのニーズに合わせてこれらのオブジェクトを表示、整理、操作できます。

注

BI 起動パッドの表示や機能はカスタマイズできるため、実際のユーザインタフェースは、このドキュメントで説明されているものと異なる場合があります。ただし、次の節で説明されている手順の多くは適用することができます。

1.2 このドキュメントの対象読者

このドキュメントは、BI プラットフォームおよび BI 起動パッドを使用して Web を介したオブジェクト操作を行うユーザを対象としています。

製品の詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』および『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームユーザガイド』を参照してください。このガイドのオンラインバージョンは、SAP ヘルプポータル (<http://help.sap.com>) にあります。

1.3 BI 起動パッドとは

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームには BI 起動パッドが付属しています。BI 起動パッドは、会社で役に立つ幅広いビジネス情報への窓口として機能する Web アプリケーションです。BI 起動パッドでは、Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、およびその他のオブジェクトにアクセスし、それらを目的に合わせて構成することができます。

BI 起動パッドで利用できる機能はコンテンツのタイプによって異なりますが、通常は Web ブラウザで情報を表示したり、他の業務アプリケーション (Microsoft Excel など) に情報をエクスポートできます。また、情報は指定した場所に保存できます。BI プラットフォームでは、さまざまな分析ツールを使用して、さらに詳細な情報を見つけ出すこともできます。

適切なアプリケーションライセンスがあれば、BI 起動パッドからさまざまなアプリケーションにアクセスすることもできます。

導入している環境で利用できる機能については、BI プラットフォーム管理者に確認してください。

関連項目

- ・ 157 ページの[BI 起動パッドでのアプリケーションの使用](#)

1.4 BI 起動パッドの新機能

BI 起動パッドでは、ユーザインタフェースが改善され、インタフェースのカスタマイズ用に追加のオプションが提供されています。

BI ワークスペース

BI ワークスペースは、前のリリースの My InfoView に代わる機能です。BI 起動パッドの表示をパーソナライズするには、BI ワークスペースを作成して保存し、それをデフォルトの [ホーム] タブに設定してください。

タブ

新しいユーザインタフェースには、ホームタブとドキュメントタブの 2 つのメインナビゲーションタブがあります。表示または編集するオブジェクトが新しいタブに開きますが、別のウィンドウで開くこともできます。

ピン留め

ピン留めでは、ドキュメントタブが開いたままになるので、BI 起動パッドをログオン、ログオフしても簡単に表示できます。ドキュメントタブは、ユーザがピンを外すまで、ユーザインタフェースにピン留めされたまま (開いたまま) になります。

ホームタブ

デフォルトのホームタブでは、使用頻度の高いドキュメントの管理に便利なモジュールがあります。デフォルトのホームタブレイアウトには、以下のモジュールが含まれています。

- ・ 最近表示したドキュメント
- ・ 最近実行したドキュメント
- ・ マイ受信ボックスの未読メッセージ数
- ・ 未読警告
- ・ マイアプリケーション

ユーザまたはシステム管理者は、異なるユーザやグループ用にホームタブをカスタマイズできます。

ドキュメントタブ

ドキュメントタブ (旧称ドキュメント一覧) を使用すると、さまざまな方法でリポジトリ内を参照できます。ナビゲーションパネルの左側にあるドロワを使用すると、ドキュメントタブから移動しなくても、個人用ドキュメント、フォルダ、カテゴリ、検索結果の間で表示を切り替えられます。一覧パネルには、フォルダまたはカテゴリの内容が表示されます。詳細パネルには、選択したオブジェクトの追加情報が表示されます。

アラート

アラートとは、システムでイベントが発生すると、ユーザと管理者に通知する機能です。

関連項目

- ・ 20 ページの「[タブ](#)」
- ・ 36 ページの「[将来表示するためにタブをピン留めする](#)」
- ・ 15 ページの「[ホームタブ](#)」
- ・ 17 ページの「[ドキュメントタブ](#)」
- ・ 147 ページの「[アラート](#)」

1.5 ライセンス

BI プラットフォームでは、以下のタイプのユーザライセンスをサポートしています。

- ・ BI ビューア
- ・ BI アナリスト
- ・ 同時接続ユーザ
- ・ 指定ユーザ

タスクおよびアプリケーションへのアクセスは、ライセンスタイプによって定められます。お持ちのライセンスによって、特定のアプリケーションへのアクセス、新しいコンテンツの作成、リポジトリへのドキュメントの追加ができないことがあります。ユーザの環境におけるライセンスについては、システム管理者に確認してください。ライセンスの詳細については、SAP ヘルプポータル (<http://help.sap.com>) で入手できる『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

1.6 開始前の準備

1.6.1 事前の留意事項

ここを読む前に、以下の概念について一読することをお勧めします。実行するタスクのタイプによって、これらの概念が該当しないことがあります。

オブジェクト

オブジェクトは、SAP BusinessObjects アプリケーションまたはその他のソフトウェアで作成され、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームリポジトリに保存され管理されるドキュメントおよびファイルです。

カテゴリ

カテゴリは、オブジェクトにラベル付けする、フォルダに代わる整理方法です。

スケジュール

スケジュールは、オブジェクトが指定の時刻に自動的に実行されるようにする処理です。スケジュールによって、オブジェクト内の動的コンテンツまたはデータの最新表示、インスタンスの作成、インスタンスのユーザへの配布、ローカルへの保存が実行されます。

イベント

イベントは、システムでの発生を表すオブジェクトです。イベントタイプによって、イベントはさまざまな目的に使用できます。

- ・ イベントは、スケジュールされたジョブが実行されると特定のアクションをトリガする、スケジュール依存関係として動作します。
- ・ イベントは、アラート通知をトリガします。
- ・ イベントを使って、システム管理者はシステムの健全性を監視できます。

カレンダー

カレンダーとは、スケジュールされたジョブの実行日をカスタマイズしたリストです。

インスタンス

インスタンスとは、オブジェクトを実行した時刻以降のデータを含むオブジェクトのスナップショットです。

公開

公開とは、パーソナライズした動的コンテンツを大量消費するために一般に公開するプロセスです。

プロファイル

プロファイルとは、特定のパーソナライゼーション価値でユーザとグループを関連付けるオブジェクトです。プロファイルは、パーソナライズしたコンテンツを作成し、受信者に配布するために、公開に使用します。

アラート

アラートとは、システムでイベントが発生すると、ユーザと管理者に通知する機能です。

1.6.2 主要タスク[シュウタスク]

この節には、BI 起動パッドで実行できる主なタスクについての説明と、これらのタスクの詳細情報を含むトピックが含まれています。

BI 起動パッドでオブジェクトを表示するには
「オブジェクトの表示」の章を参照してください。

BI 起動パッドでオブジェクトを追加するには
52 ページの「[BI 起動パッドにオブジェクトを追加します。](#)」を参照してください。

追加されたオブジェクトを変更および管理するには
「オブジェクトの使用方法」の章を参照してください。

コンテンツをユーザに配布するには
コンテンツは、スケジュール、公開、およびアラートを使ってユーザに配信できます。これらのオプションの詳細については、次のトピックを参照してください。

- ・ 69 ページの「[オブジェクトのスケジュール](#)」
- ・ 97 ページの「[公開について](#)」
- ・ 147 ページの「[アラート](#)」

個人用の環境を設定するには
「基本設定の設定」の章を参照してください。

BI 起動パッド基本

2.1 ユーザインタフェース

2.1.1 ヘッダパネル

ヘッダパネルは、BI 起動パッドにログオンするためのロゴおよびアカウントのユーザ名を表示します。以下のオプションも表示されます。

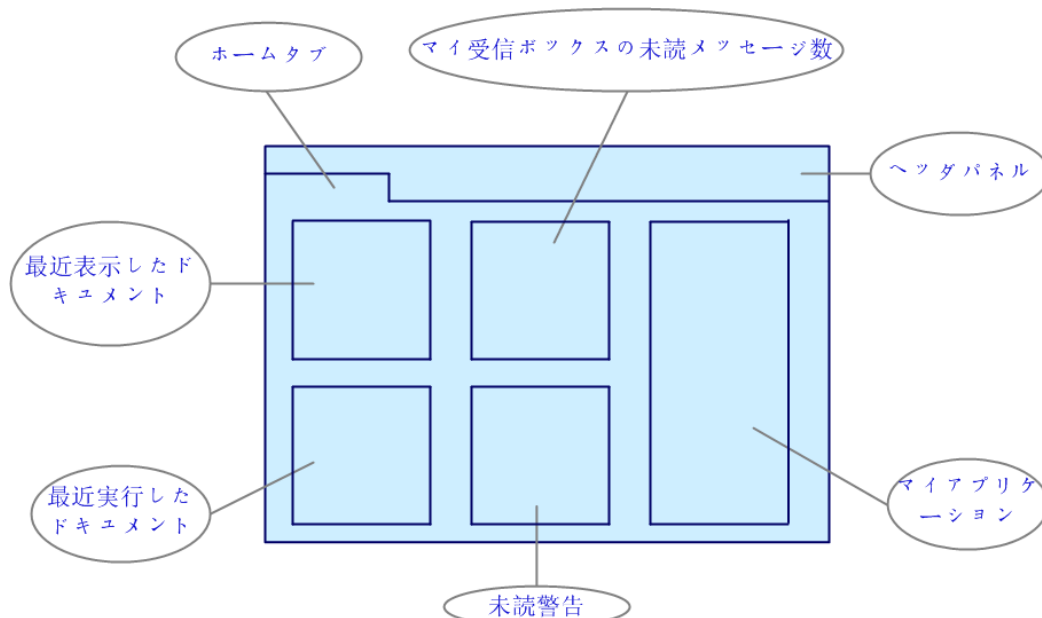
オプション	説明
アプリケーション	BI ワークスペースなど、BI 起動パッドにプラグインするさまざまなアプリケーションにアクセスできるようにします。権限とライセンスに応じて、アクセスできるアプリケーションは異なります。
基本設定	情報の表示方法を設定することができます。
ヘルプ	BI 起動パッドのオンラインヘルプ、または製品に関する情報が含まれる [バージョン情報] ページにアクセスできるようにします。
ログオフ	ユーザをログオフします。

関連項目

- ・ 17 ページの [ドキュメントタブ](#)

2.1.2 ホームタブ

デフォルトのホームタブには、最も頻繁に使用するドキュメントや BI 起動パッド機能を管理しやすくするモジュールが表示されます。



アナリティクス	説明
[最近表示したドキュメント]	最近表示したドキュメントのうち、最新の 10 件のドキュメントが表示されます。一覧には、最も新しい表示日付のドキュメントが最上段に表示されるようにソートされます。
[マイ受信ボックスの未読メッセージ数]	BI 受信ボックスで未読メッセージのうち最新の 10 件が表示されます。
[最近実行したドキュメント]	最近スケジュールした、または実行したリポジトリの最新のドキュメント 10 件が、それぞれのドキュメントインスタンスのステータスとともに表示されます。インスタンスリンクをクリックすると、成功したインスタンス、または失敗したインスタンスの詳細が表示されます。
未読警告	最新の未読警告通知 10 件が表示されます。警告通知をすべて表示するには、[その他を表示] リンクをクリックします。
[マイアプリケーション]	BI 起動パッド内からアプリケーションにアクセスするクイックアクセスを提供します。

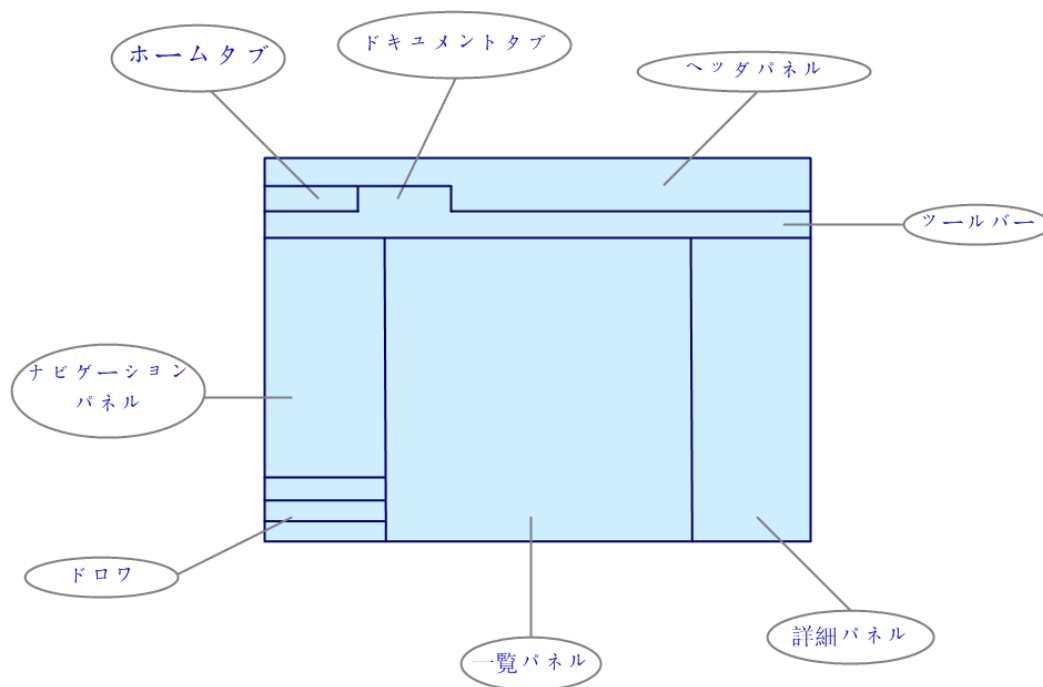
管理者は、別のオブジェクトを使用する別のユーザとグループに対するカスタムホームタブも指定することができます。カスタムホームタブは、カスタマイズされたダッシュボード、ユーザが頻繁に表示する Crystal レポート、またはカスタム Web サイトなどです。適切な権限を持つ場合は、[基本設定] のホームタブ設定を編集することによって、管理者が設定したカスタムホームタブを上書きすることもできます。

関連項目

- 23 ページの [基本設定の設定](#)

2.1.3 ドキュメントタブ

ドキュメントタブでは、リポジトリオブジェクトを表示および管理することができます。



2.1.3.1 ツールバー

ツールバーには、オブジェクトを表示および管理できるようにするメニューが表示されます。

メニュー	説明
表示	オブジェクト、オブジェクトの最新インスタンス、およびオブジェクトプロパティを表示できるようにします。
新規	ドキュメントをアップロードし、以下のタイプの新規オブジェクトを作成できるようにします。 <ul style="list-style-type: none"> ・ パブリケーション[パブリケーション] ・ ハイパーリンク ・ フォルダ ・ カテゴリ
整理	オブジェクトのショートカットを管理し、オブジェクトをカット、コピー、ペースト、および削除できるようにします。
送信	オブジェクトを別の宛先に送信できるようにします。 注 送信できる宛先は、システム管理者が行う設定内容により異なる場合があります。
その他のアクション	以下のタスクを実行できるようにします。 <ul style="list-style-type: none"> ・ オブジェクトをスケジュールする ・ オブジェクトをカテゴリに追加する ・ オブジェクトが属しているカテゴリを表示する ・ オブジェクトに OpenDocument リンクを作成する ・ オブジェクトの履歴を表示する 使用できるオプションは、オブジェクトタイプおよびシステム権限により異なります。
詳細	ディスカッションも含め、[詳細] パネルを表示/非表示にします。

関連項目

- ・ 19 ページの[「詳細パネル」](#)

2.1.3.2 ナビゲーションパネル

ナビゲーションパネルには、システムフォルダおよびカテゴリの最上位のビューが表示され、特定のオブジェクトを参照することができます。

関連項目

- ・ 19 ページの[「ドロワ」](#)

2.1.3.3 ドロワ

ドロワは、ナビゲーションパネルの拡張可能なパネルで、オブジェクトを参照する方法の 1 つです。

注

ユーザの権限によっては、オブジェクトが表示されない場合があります。

ドロワ	説明
マイドキュメント	ユーザのお気に入りフォルダ、BI 受信ボックス、警告通知、および個人用カテゴリが表示されます。
フォルダ	リポジトリのフォルダビューが表示されます。
カテゴリ	リポジトリのカテゴリビューが表示されます。
検索	検索オプションと検索結果が表示されます。

関連項目

- ・ 18 ページの [ナビゲーションパネル](#)

2.1.3.4 一覧パネル

一覧パネルには、フォルダまたはカテゴリにあるオブジェクトの一覧ビューが表示されます。

2.1.3.5 詳細パネル

詳細パネルには、オブジェクトに関する追加情報が表示されます。オブジェクトに関する詳細を表示するには、オブジェクトを選択し、ツールバーの [詳細] ボタンをクリックします。詳細パネルでは、ドキュメントタブの右側が開かれ、以下の情報が表示されます。

- ・ 所有者
- ・ 説明
- ・ オブジェクトタイプ
- ・ インスタンスの数
- ・ 前回実行した日付 (スケジュール可能なオブジェクト)

詳細パネルには、ディスカッションも表示されます。

注

デフォルトでは、ディスカッションは無効になっています。ディスカッションを使用する前に、システム管理者が有効にする必要があります。

2.1.4 タブ

タブには、1 つの Web ブラウザウィンドウに複数のページおよびドキュメントが表示されます。BI 起動パッドには、ホームタブとドキュメントタブの 2 つのデフォルトタブがあります。SAP BusinessObjects Web Intelligence などのアプリケーション、および表示または編集のために選択するオブジェクトも別々のタブで開かれます。

注

ドキュメント表示の基本設定を設定して新規ウィンドウでオブジェクトを開く場合、これらのオブジェクトはタブではなく別のウィンドウで開かれます。

ヒント

大きな表示エリアにドキュメントを表示する場合、タブの右上端で、[新しいウィンドウで開く] をクリックします。



2.2 BI 起動パッドにログオンする

BI 起動パッドを使用するには、以下のいずれかの Web ブラウザをマシンにインストールする必要があります。

- ・ Microsoft Internet Explorer
- ・ Firefox
- ・ Safari (Macintosh ユーザ用)

- 1 Web ブラウザを開きます。
- 2 以下の BI 起動パッドの URL を入力します。

`http://webserver:portnumber/BOE/BI/`

webserver を Web サーバの名称に、portnumber を BI プラットフォームに設定したポート番号に置き換えます。

システム管理者が BI 起動パッドのカスタム URL を設定している場合、管理者に Web サーバの名称、ポート番号、または正確な URL を問い合わせる必要がある場合があります。

ヒント

Windows に BI プラットフォームクライアントツールをインストールしている場合は、[スタート] > [プログラム] > [SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0] > [SAP BusinessObjects Enterprise] > [SAP BusinessObjects Enterprise Java BI 起動パッド] をクリックすることもできます。



SAP BusinessObjects

BI launch pad へのログイン | ヘルプ

ユーザ情報を入力し、[ログイン]をクリックしてください。
(アカウント情報が不明の場合は、システム管理者にお問い合わせください)

ユーザ名: administrator

パスワード:

ログイン

[BI 起動パッドへのログイン] ページが表示されます。

- 3 デフォルトでは、システム名の指定は要求されません。ただし、システム名の指定が要求された場合は、Central Management Server (CMS) の名称を[システム] フィールドに入力します。
- 4 [ユーザ名]フィールドと[パスワード]フィールドにログイン認証情報を入力します。
- 5 デフォルトでは、認証の種類の選択は要求されません。ただし、指定が要求された場合は、[認証] 一覧から認証の種類を選択します。

Enterprise 認証は、デフォルトの認証方法です。LDAP、Windows AD、Windows NT、およびその他のサードパーティの認証の種類には、特別な設定が必要です。使用する認証の種類が不明な場合は、システム管理者にお問い合わせください。別の認証の種類については、『SAP BusinessObjects Enterprise Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

- 6 [ログイン] をクリックします。
[ホーム] タブが表示されます。

基本設定の設定

3.1 基本設定の設定

基本設定では、BI 起動パッドへのログオン方法や、どの作業を実行するときにどのビューを表示するかを決定します。また、Crystal レポート用のビューアや、Web Intelligence ドキュメントの表示形式など、さまざまなオブジェクトに固有の設定も決定します。

注

- ・ 最良の実践としては、BI 起動パッドでオブジェクト作業を開始する前に基本設定を設定する必要があります。ただし、デプロイメントによっては、BI プラットフォームの管理者が、デフォルトで事前に指定された設定を使用するようにシステムを設定している場合があります。
- ・ システム管理者に付与された権限によっては、ユーザ独自の基本設定ができない場合があります。

3.1.1 全般基本設定を設定する

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
- 2 [ヘッダ] パネルで、[基本設定] をクリックします。
[設定] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [全般] が選択されていることを確認します。

管理者によって定義済みのデフォルト設定を維持する場合は、[デフォルト設定を使用する (管理者定義)] が選択されていることを確認します。それ以外の場合は、このチェックボックスを選択解除して、ステップ 4 に進みます。

注

デフォルト設定を使用しないことを選択すると、管理者がユーザグループ用に実装した更新はユーザの BI 起動パッドのビューに反映されなくなります。ただし、ユーザはいつでも [デフォルト設定を使用する (管理者定義)] を選択してカスタム基本設定からデフォルト設定に切り替えることができます。デフォルト設定には、最後に管理者定義のデフォルトを使用してから実装されたすべての更新が含まれます。

- 4 最初に表示するビューを設定します。
 - ・ 最初にログオンしたときに [ホーム] タブを表示する場合は、[[ホーム] タブ] をクリックし、以下のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
[デフォルトのホーム]タブ	管理者が設定したデフォルトのビューを表示します。管理者がデフォルトを設定していない場合は、BI プラットフォームのホームタブが使用されます。
[ホーム] タブの選択	<p>ユーザが選択するリポジトリオブジェクトを表示します。</p> <p>[[ホーム] タブを参照] をクリックします。[[カスタムホーム] タブを選択] ウィンドウで、リポジトリオブジェクトを選択し、[開く] をクリックします。</p>

- ・ 最初にログオンしたときに [ドキュメント] タブを表示する場合は、[ドキュメント] をクリックしてから、デフォルトで開かれるドロワおよびノードを指定します。
- たとえば、最初にログオンしたときに BI 受信ボックスに [マイドキュメント] ドロワを開く場合は、[マイドキュメント] をクリックしてから、[マイ受信ボックス] をクリックします。
- 5 [[ドキュメント] タブに表示される列を選択します] で、[一覧] パネルで各オブジェクトについて表示する概要情報を以下から選択します。
 - ・ 型
 - ・ 最終実行日時
 - ・ インスタンス
 - ・ 説明
 - ・ 作成者
 - ・ 作成日
 - ・ 場所 (カテゴリ)
 - ・ 受信日 (受信ボックス)
 - ・ 差出人 (受信ボックス)
 - 6 [ドキュメントの表示場所の設定] で、ドキュメントの表示方法を選択します。
ドキュメントは、新しいタブ、または新しい Web ブラウザウィンドウを開いて表示することができます。
 - 7 [ページあたりのオブジェクト数 (最大) の設定] フィールドに数値を入力して、オブジェクトの一覧を表示するときに 1 ページに表示するオブジェクトの最大数を指定します。
 - 8 [保存して閉じる] をクリックします。

関連項目

- ・ 20 ページの [BI 起動パッドにログオンする](#)

3.1.2 パスワードを変更する

注

ユーザの権限によっては、このタスクを実行できない場合があります。詳細は BI プラットフォーム管理者にお問い合わせください。

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
- 2 [ヘッダ] パネルで、[基本設定] をクリックします。
- 3 [パスワードの変更] をクリックします。
- 4 [古いパスワード] フィールドに、古いパスワードを入力します。
- 5 [新しいパスワード] フィールドに新しいパスワードを入力し、[新しいパスワードの確認] フィールドに新しいパスワードを再入力して確認し、[保存して閉じる] をクリックします。

次に BI 起動パッドにログオンするときには、新しいパスワードを使用する必要があります。

関連項目

- ・ 20 ページの [BI 起動パッドにログオンする](#)

3.1.3 優先表示ロケール

優先表示ロケール (PVL) では、日付、時間、および数値の書式を設定します。また、多言語オブジェクトの場合は PVL でオブジェクトの名前および説明を表示する言語を設定します。オブジェクトに翻訳された名前および説明が複数ある場合、表示言語は以下のようにして決定されます。

- 1 ユーザの PVL に対応する名前および説明が表示されます。

場合によっては、フォールバックロケールが使用されます。フォールバックロケールはシステムによって決定され、通常はユーザの PVL のバリエーションになります。たとえば、PVL がフランス語 (カナダ) である場合に、オブジェクトにフランス語 (カナダ) に翻訳された名前および説明がないと、フランス語 (フランス) が使用されます。

- 2 PVL が設定されていない場合、製品のロケールと同じ言語で名前および説明が表示されます。
- 3 上記のいずれにも該当しない場合は、オブジェクトのソース言語で名前および説明が表示されます。

3.1.3.1 ロケールとタイムゾーンの基本設定を設定する

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
- 2 [ヘッダ] パネルで、[基本設定] をクリックします。
[設定] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [ロケールおよびタイムゾーン] をクリックします。
- 4 [製品ロケール] 一覧で現在の言語を選択します。

この設定で、BI 起動パッドで使用する言語設定が決まります。

- 5 [優先表示ロケール] 一覧で、オブジェクトの表示中に使用する日付、数字、時刻の書式設定規則を使用するロケールを選択します。
このロケール設定は、多言語オブジェクトの名前および説明の表示に使用する言語も管理します。
- 6 [現在のタイムゾーン] 一覧で、適切なタイムゾーンを選択します。

注

実行するオブジェクトをスケジュールする前にこの設定を確認することが重要です。デフォルトのタイムゾーンは、BI プラットフォームを実行している Web サーバのローカルタイムゾーンであり、各ユーザが接続する Central Management Server (CMS) マシンのローカルタイムゾーンではありません。タイムゾーンを設定すると、スケジュールにユーザのローカルタイムゾーンが反映されます。

- 7 [保存して閉じる] をクリックします。

関連項目

- ・ 20 ページの[BI 起動パッドにログインする](#)

3.1.4 Crystal レポートの表示の基本設定を設定する

- 1 BI 起動パッドにログインします。
- 2 [ヘッダ] パネルで、[基本設定] をクリックします。
[設定] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [Crystal Reports] をクリックします。
- 4 [デフォルトの表示形式を選択] で、Crystal レポートを表示するときに使用するビューアを選択します。
 - ・ Web (ダウンロードは必要ありません)
Web ビューアではダウンロードを行う必要がありません。Java または ActiveX がなくても機能します。
 - ・ Web ActiveX (ActiveX が必要)
ActiveX ビューアは、ActiveX コントロールをサポートする Microsoft Internet Explorer バージョンを使用している場合に有効化されます。
 - ・ Web Java (Java が必要)
Java ビューアは、Java 仮想マシンをサポートする Web ブラウザ用に設計されています。

注

Web ActiveX ビューアおよび Web Java ビューアは、SAP Crystal Reports for Enterprise で作成されたレポートの表示には使用できません。Web ビューアを使用する必要があります。

- 5 Web ビューアを選択した場合は、[プリントコントロールを選択 (Web)] で [PDF 1 クリック印刷 (Adobe Acrobat が必要)] または [ActiveX 1 クリック印刷 (ActiveX が必要)] を選択します。
[PDF 1 クリック印刷 (Adobe Acrobat が必要)] を選択した場合は、[印刷] をクリックするとレポートが PDF 形式でエクスポートされます。この PDF を印刷することができます。

注

印刷時に表示する Flash オブジェクトがレポートに含まれている場合は、PDF に印刷する必要があります。

[ActiveX 1 クリック印刷 (ActiveX が必要)] を選択した場合は、Crystal レポートビューアから直接レポートを印刷できます。

注

ActiveX オプションを使用するには、小さい ActiveX コンポーネントをインストールする必要があります。

- 6 [Web ビューア] を選択した場合は、[描画の解像度を選択 (Web)] で、使用する解像度を選択します。
- 7 [デフォルトの単位を選択] で、[インチ] または [ミリメートル] を選択します。
- 8 [SAP Variable Technical Name を表示 (SAP Crystal Reports 2011 のみ)] を選択、または選択解除します。
このオプションでは、SAP Crystal Reports 2011 形式の SAP 変数レポートの作業中に、SAP 変数の技術名を表示するかどうかを設定します。
- 9 [保存して閉じる] をクリックします。

関連項目

- ・ 20 ページの[BI 起動パッドにログオンする](#)」
- ・ 37 ページの[Web ビューア](#)」
- ・ 39 ページの[Web ActiveX ビューア](#)」
- ・ 40 ページの[Web Java ビューア](#)」

3.1.5 BI ワークスペースの基本設定を設定する

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
- 2 [ヘッダ] パネルで、[基本設定] をクリックします。
[設定] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [BI ワークスペース] をクリックします。
- 4 新規 BI ワークスペースで使用するビジュアルスタイルを選択します。
- 5 自由形式レイアウトモードで作業するときに BI ワークスペースのドラッグ可能要素を自動的にグリッドラインに揃えるかどうかを指定する場合は、[グリッドに配置] を選択します。
- 6 自由形式レイアウトモードで BI ワークスペースを編集するときに表示されるグリッドラインの種類を選択します。
 - ・ なし
 - ・ 小
 - ・ 中
 - ・ 大
- 7 BI ワークスペースおよびモジュールですべてのクライアント/サーバのアクティビティを表示する場合は、[クライアントトレースを有効化] を選択します。
- 8 [保存して閉じる] をクリックします。

3.1.6 SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP の基本設定を設定する

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
- 2 [ヘッダ] パネルで、[基本設定] をクリックします。
[設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [Analysis, edition for OLAP] をクリックします。
- 4 [デフォルトの接続の選択] 一覧で、新規ワークスペースの作成で使用するデフォルトのデータ接続を選択します。
- 5 Web 版の SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP とともにスクリーンリーダーを使用する場合は、[アクセシビリティモード] を選択します。
- 6 [保存して閉じる] をクリックします。

3.1.7 Web Intelligence 基本設定

3.1.7.1 Web Intelligence ドキュメントの読み取りインタフェースを選択する

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
- 2 [ヘッダ] パネルで、[基本設定] をクリックします。
[設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [Web Intelligence]をクリックします。
- 4 [表示] で、Web Intelligence ドキュメントを表示するときに使用するインタフェースを選択します。
PDF インタフェース以外のすべての読み取りインタフェースに、表示モードとデザインモードがあります。表示モードでは単純な表示タスクを実行できますが、デザインモードでは表示しているドキュメントを変更できません。読み取りインタフェースとの唯一の相違点は、コンポーネントのダウンロードが必要になる場合があるという点です。

オプション	説明
Web (ダウンロードは必要ありません)	何もコンポーネントをダウンロードしなくても、オンラインでドキュメントを表示できます。
リッチインターネットアプリケーション (ダウンロードが必要です)	ドキュメントを表示できるようにする Java アプレットをインストールして実行します。
デスクトップ (Windows のみ) (インストールが必要です)	ドキュメントを表示するには、デスクトップにアプリケーションをインストールして実行する必要があります。
PDF	ドキュメントを PDF として表示できます。

- 5 [保存して閉じる]をクリックします。

関連項目

- 20 ページの[BI 起動パッドにログインする](#)

3.1.7.2 Web Intelligence ドキュメントの変更インタフェースを選択する

変更インタフェースを使用すると、Web Intelligence ドキュメントを作成および編集することができます。

- 1 BI 起動パッドにログインします。
- 2 [ヘッダ] パネルで、[基本設定] をクリックします。
[設定] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [Web Intelligence] をクリックします。
- 4 [変更] 領域で、Web Intelligence ドキュメントを作成または編集するときに使用するツールを選択します。

オプション	説明
Web (ダウンロードは必要ありません)	何もコンポーネントをダウンロードしなくても、ドキュメントの作成および変更ができます。
リッチインターネットアプリケーション (ダウンロードが必要です)	Java アプレットをインストールして実行します。
デスクトップ (インストールが必要です)	完全なデスクトップアプリケーションをインストールして実行します。 ヒント オフラインで作業することもある場合は、このオプションを選択します。

変更インタフェースには、どれも同じような機能があります。読み取りインタフェースとの唯一の相違点は、コンポーネントのダウンロードが必要になる場合があるという点です。

- 5 [保存して閉じる]をクリックします。

関連項目

- ・ 20 ページの[BI 起動パッドにログオンする](#)

3.1.7.3 デフォルトユニバースを選択する

Web Intelligence ドキュメントのデフォルトのデータソースとして使用するユニバースを指定できます。

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
- 2 [ヘッダ] パネルで、[基本設定] をクリックします。
[設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [Web Intelligence] をクリックします。
- 4 [デフォルトのユニバースを選択] で、[参照] をクリックし、次のオプションのいずれかを選択します。
 - ・ ドキュメントを作成するときに使用するデフォルトユニバースを選択する場合は、一覧からユニバースを選択します。
 - ・ デフォルトのユニバースを設定しない場合は、[デフォルトのユニバースなし] を選択します。
- 5 [OK] をクリックして [基本設定] ダイアログボックスに戻り、[保存して閉じる] をクリックします。

3.1.7.4 Web Intelligence ドキュメントの書式設定ロケールを選択する

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
- 2 [ヘッダ] パネルで、[基本設定] をクリックします。
[設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [Web Intelligence] をクリックします。
- 4 [ドキュメントの表示] で、使用するロケールを選択します。
Web Intelligence ドキュメント内の数値、時間および日付は、選択したロケールを使用して書式設定、表示されます。
 - ・ ドキュメント作成時に使用したロケールを維持する場合は、[データの書式設定にドキュメントのロケールを使用] を選択します。
 - ・ BI 起動パッドの優先表示ロケールを使用する場合は、[データの書式設定に現在の優先表示ロケールを使用] を選択します。
- 5 [保存して閉じる] をクリックします。

関連項目

- ・ 20 ページの[BI 起動パッドにログオンする](#)
- ・ 25 ページの[優先表示ロケール](#)

3.1.7.5 ドリルオプションを設定する

ドリルセッションを開始する前に、ドリルを実行するときの Web Intelligence ドキュメントの変更方法を指定する必要があります。データをドリルして、表示されるデータの内容を調整できます。たとえば、国別にグループ化されたデータをドリルダウンして地域別にグループ化されたデータを表示したり、都市別にグループ化されたデータをドリルアップして国別にグループ化されたデータを表示できます。

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
- 2 [ヘッダ] パネルで、[基本設定] をクリックします。
[設定] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [Web Intelligence] をクリックします。
- 4 [表示] で、[Web (ダウンロードは必要ありません)] または [リッチインターネットアプリケーション (ダウンロードが必要です)] が読み取りインタフェースとして選択されていることを確認してください。
- 5 [ドリルオプション] で、ドリルセッションに適用する一般的なオプションを選択します。

- ・ ドリル操作でドキュメントにデータを追加するために新しいクエリが必要な場合に必ずプロンプトが表示されるようにする場合は、[ドリルでさらにデータが必要な場合はプロンプトを表示] を選択します。

たとえば、ドキュメントに表示された結果をドリルする場合、そのドキュメントの範囲に含まれない、上位レベルまたは下位レベルの情報をドリルすることがあります。そのような場合、新しいクエリが実行され、データソースから追加のデータが取得されます。新しいクエリが必要な場合は常にメッセージが表示されるようにすることができます。

プロンプトのメッセージでは、追加のクエリを実行するかどうかの入力が求められます。また、新規クエリに含めた追加分析要素にこのプロンプトでフィルタを適用することもできます。その結果、クエリのサイズを制限して分析に必要なデータだけを抽出することができます。ただし、ドリルセッション時に分析範囲外にドリルを実行するには、管理者がその権限を認めている必要があります。

- ・ すべてのレポートブロックのドリルを同期する場合は、[レポートのブロックのドリルを同期化] を選択します。

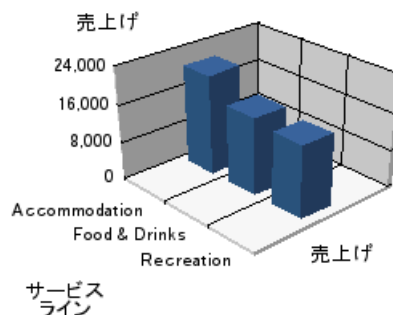
レポート内のテーブル、チャート、独立セルは、それぞれが形式の異なるデータ ブロックです。複数のレポートのブロックがあるレポートをドリルするには、2 つの方法があります。

- ・ レポートのブロックのドリルを同期化する。
- ・ 選択したブロックのみをドリルする。

次の例は、テーブルをドリルダウンしてサービス行ごとの詳細な結果を分析した場合の、各オプションによるレポートへの影響を示しています。

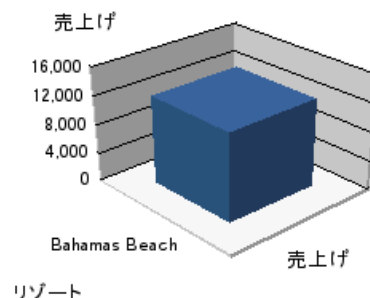
最初の例では、[レポートのブロックのドリルを同期化] が選択されているため、テーブルとチャートの両方にドリルされた値が表示されます。

サービス ライン	売上げ
Accommodation	21,180
Food & Drinks	16,565
Recreation	15,520



次の例では、[レポートのブロックのドリルを同期化] が選択されていません。そのため、ドリルは選択されたブロックでのみ実行され、テーブルのみにドリルされた値が表示されます。

サービス ライン	売上げ
Accommodation	21,180
Food & Drinks	16,565
Recreation	15,520



ドリルモードに切り替えたときに、ドリルツールバーを非表示にする場合は、[スタートアップ時にドリルツールバーを非表示] を選択します。

ドリルモードを開始すると、ドリルされるレポートの上部に [ドリル] ツールバーが自動的に表示されます。ドリルツールバーには、ドリルを実行した値が表示されます。これらの値は、ドリルしたレポートに表示されている結果に適用されているフィルタです。

たとえば、2001 年でドリルを実行すると、ドリルされたテーブルに表示される結果は、2001 年の第 1 四半期、第 2 四半期、第 3 四半期、および第 4 四半期になります。これは、ドリルする四半期ごとの値が 2001 でフィルタされることを意味します。[ドリル] ツールバーには、ドリルした結果をフィルタする値 2001 が表示されます。

[ドリル] ツールバーによって他の値を選択してフィルタし、異なる結果を得ることができます。たとえば、[ドリル] ツールバーを使用して 2002 を選択すると、ドリルを実行したテーブルに表示される結果は、2002 年の第 1 四半期、第 2 四半期、第 3 四半期、および第 4 四半期になります。

ドリルしたレポートに複数のクエリからの分析要素が含まれている場合、フィルタの値にカーソルを置くとツールヒントが表示されます。ツールヒントには、クエリ名と分析要素の値が表示されます。

ドリルモードの開始時に [ドリル] ツールバーを表示しないよう設定することもできます。この設定は、ドリルセッション中に別のフィルタを選択する必要がない場合に便利です。

- 6 [ドリルセッションの開始] で、ドリルセッションに適用するオプションを選択します。
 - ・ 元のドキュメントのコピーを保持して、ドリルした結果を元のドキュメントのデータと比較する場合は、[レポートのコピーで] を選択します。

元のレポートの複製が作成されます。ドリルモードを終了すると、元のレポートとドリルされたレポートの両方が表示用にドキュメントに維持されます。
 - ・ レポートをドリルしてレポートをドリル操作で変更する場合は、[既存のレポートで] を選択します。

ドリルモードを終了すると、レポートにはドリルした値が表示されます。
- 7 [保存して閉じる]をクリックします。

関連項目

- ・ 20 ページの[BI 起動パッドにログインする](#)

3.1.7.6 MS Excel 形式を選択する

このオプションでは、Excel 形式でドキュメントをスケジュールまたはエクスポートする場合に Web Intelligence ドキュメントのインスタンスのデータの表示を指定します。

- 1 BI 起動パッドにログインします。
- 2 [ヘッダ] パネルで、[基本設定] をクリックします。

[設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [Web Intelligence]をクリックします。
- 4 [MS Excel へ保存する優先順位の選択] で、ニーズに最も適合するオプションを選択します。
 - ・ Web Intelligence で作業する場合と同じような形式でデータを表示する場合は、[ドキュメントの書式設定の優先順位をつける]を選択します。
 - ・ テキスト形式でデータを表示する場合は、[Excel 内で容易なデータ処理の優先順位をつける]を選択します。
- 5 [保存して閉じる]をクリックします。

関連項目

- ・ 20 ページの[BI 起動パッドにログインする](#)

オブジェクトの表示

4.1 オブジェクトの表示

BI 起動パッドでは、ホームタブとドキュメントタブを使用し、メインナビゲーションインターフェースおよび表示または編集するために開いたオブジェクトを表示します。ドキュメントタブで表示または編集するドキュメントを選択すると、独自のタブで開かれます。タブからは、必要に応じて独自のウィンドウでドキュメントを起動できます。

オブジェクトの表示方法によって表示されるものが異なります。

- ・ リストパネルでオブジェクトをダブルクリックして動的コンテンツドキュメント（たとえば、Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメント）を表示する場合は、ドキュメントの最新のインスタンスが開きます。最新のインスタンスがない場合は、オブジェクト自体が開きます。
- ・ [ビュー] > [ビュー] をクリックして、オブジェクトを表示すると、オブジェクトが開きます。
- ・ [ビュー] > [最新のインスタンスを表示] をクリックすると、最新のオブジェクトインスタンスが開きます。
- ・ パブリケーションまたはプログラムオブジェクトを表示し、最新のインスタンスがない場合は、BI 起動パッドにオブジェクトプロパティが表示されます。

関連項目

- ・ 20 ページの [タブ](#)
- ・ 35 ページの [オブジェクトを表示する](#)

4.1.1 オブジェクトを表示する

Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメントを BI 起動パッドで表示する場合、管理者が選択したユーザーアクセス権とデフォルト設定によって表示されるデータが決まります。データソースから直接取得されたデータ、オブジェクトの最新インスタンス、または保存データを含むレポートを表示できます。必要なアクセス権がある場合は、レポートまたはドキュメントをそのデータソースからの新しいデータで最新表示することもできます。

注

オブジェクトを最新表示すると、非常に大量のシステム リソースが使用される場合があります。オブジェクトは、データが変更された可能性があるためと判断できる場合にのみ最新表示してください。

- ・ ドキュメントタブでオブジェクトに移動してダブルクリックします。
オブジェクトが動的コンテンツドキュメントの場合（たとえば、Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメント）は、ドキュメントの最新のインスタンスが開きます。最新のインスタンスがない場合は、オブジェクト自

体が開きます。パブリケーションおよびプログラムオブジェクトでは、最新インスタンスが使用できない場合はオブジェクトのプロパティが表示されます。

オブジェクトをオンデマンドで表示するには、オブジェクトビューアで[最新表示]をクリックします。それより前のインスタンスを表示するには、リストパネルでオブジェクトを選択し、[その他のアクション] > [履歴] をクリックし、表示するインスタンスをダブルクリックします。

注

これらのオプションが有効でない場合、オブジェクトのそれらのオプションにアクセスするために必要なアクセス権を持っていないことになります。

関連項目

- ・ 69 ページの [オブジェクトのスケジュール](#)
- ・ 90 ページの [オブジェクトの履歴を表示する](#)

4.1.2 将来表示するためにタブをピン留めする

注

基本設定が、タブ付きのドキュメントの表示を有効化するように設定されている必要があります。


ドキュメントおよびインスタンスをユーザインタフェースにピン留めし、BI 起動パッドに次回ログオンしたときにタブを開いたままにすることができます。ピン留めは、頻繁に表示するドキュメントに使用すると便利です。

- 1 [ドキュメント] タブを開きます。
- 2 リストパネルで、表示するオブジェクトを選択します。
- 3 以下のいずれかを実行して、オブジェクトまたはオブジェクトインスタンスを開きます。
 - ・ オブジェクトをピン留めするには、[ビュー] > [ビュー] をクリックします。
 - ・ 最新のインスタンスをピン留めするには、[ビュー] > [最新のインスタンスを表示] をクリックします。
 - ・ それより前のインスタンスをピン留めするには、[その他のアクション] > [履歴] をクリックし、[履歴] ダイアログボックスでインスタンスをクリックします。

オブジェクトが独自のタブで開きます。

- 4 右上隅にあるピンアイコンをクリックします。

 ピンアイコンが下向きになり、タブがピン留めされたことを示します。

 タブのピン留めを外すには、ピンが横向きになるようピンアイコンをクリックします。

関連項目

- ・ 20 ページの [タブ](#)
- ・ 23 ページの [全般基本設定を設定する](#)

4.2 Crystal レポートの表示

Crystal レポートをクリックすると、そのレポートがビューアに表示されます。所持しているビューアの種類に応じて、さまざまな操作を実行できます。次の節には、Crystal レポートビューアのツールバーに関する情報とレポートの使用方法に関する指示が含まれています。

関連項目

- ・ 37 ページの[Crystal レポートビューア](#)」

4.2.1 Crystal レポートビューア

Crystal レポートビューアを使用すると、レポートの表示、ページ間の移動、データの最新表示、またドリルダウンによるチャートおよび集計データから得られる詳細情報の確認、パラメータの選択などが可能です。また、強力な印刷およびエクスポート機能も使用できます。

Crystal レポートビューアは ActiveX、Java および Web 限定の表示形式をサポートしています。通常は、BI プラットフォームの管理者が企業のニーズに合わせて、最も適切なタイプのビューアを選択します。ただし、基本設定で、手動で好みのビューアを選択することもできます。

また、BI プラットフォームに接続していない場合でもレポートを表示することができます。

注

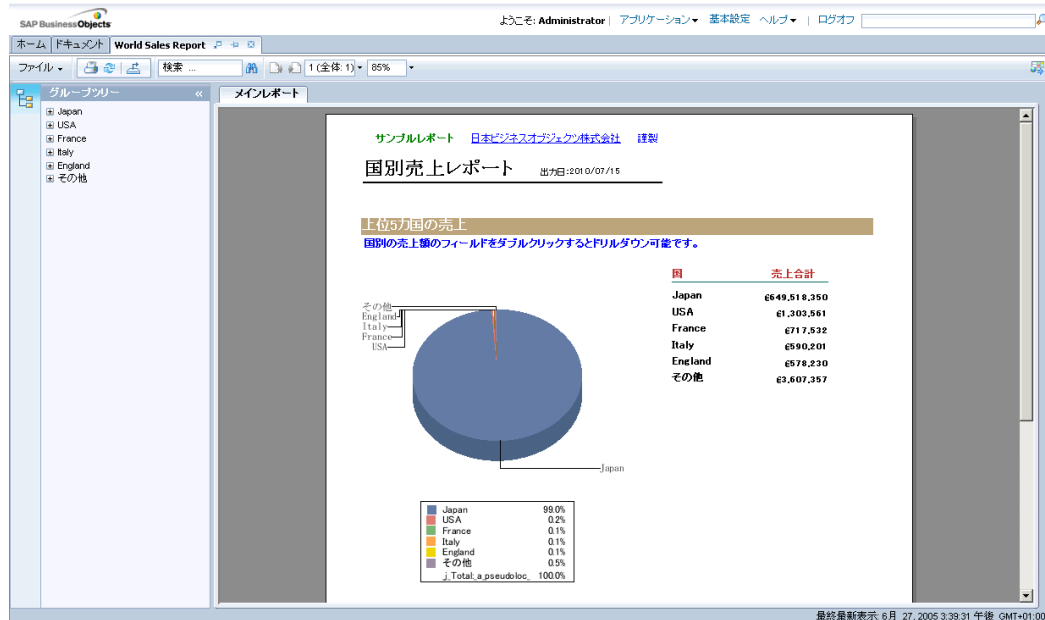
Crystal レポートビューアの一部の機能は、BI プラットフォームの管理者によって無効にされている場合があります。詳細については、管理者にお問い合わせください。

関連項目

- ・ 26 ページの[Crystal レポートの表示の基本設定を設定する](#)」
- ・ 42 ページの[SAP Crystal Reports ビューア 2011](#)」

4.2.1.1 Web ビューア

Web ビューアには、プラグインをダウンロードしなくてもブラウザを使用してアクセスできます。レポートの表示、最新表示、印刷、パラメータの編集、およびさまざまな形式へのレポートのエクスポートを実行できます。



Web ビューアでは、カスタムツールバーから次の機能を使用できます。

- ・ [ファイル] メニュー
 - ・ 開く
 - ・ 送信
 - ・ お気に入りショートカットを作成
 - ・ 明細表
 - ・ 履歴
- ・ このレポートの印刷
- ・ レポートを最新表示
- ・ このレポートのエクスポート
- ・ テキストの検索
- ・ 前ページに移動
- ・ 次のページに進む
- ・ ページフィールド
- ・ 先頭ページに移動
- ・ 最終ページに移動
- ・ ズーム

[ファイル] > [開く] オプションにより、リポジトリに保存された他のレポートを開くことができます。[ファイル] メニューの他のオプションは、BI 起動パッドの他の部分と同様に動作します。[グループツリー] または [パラメータパネル] にアクセスするには、Web ビューアの左側にあるアイコンをクリックします。

注

- ・ Web ビューアは、[パラメータパネル] にアクセスできる唯一の Crystal レポートビューアです。

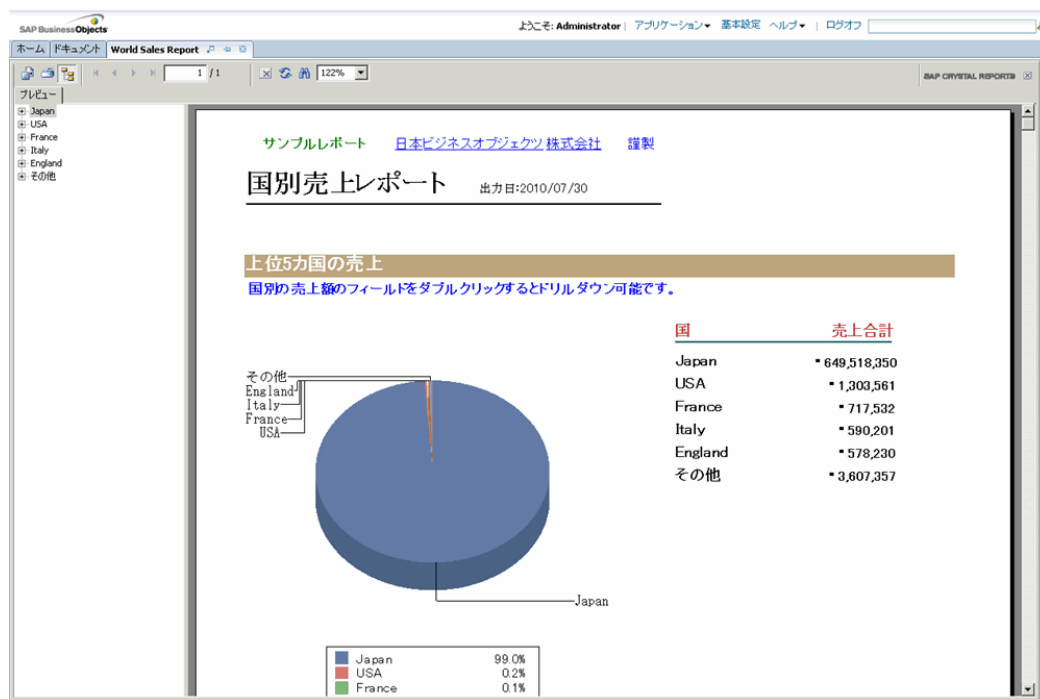
- Web ビューアは、SAP Crystal Reports for Enterprise で作成されたレポートをユーザが表示できる唯一の Crystal レポートビューアです。

関連項目

- 37 ページの[Crystal レポートの表示](#)

4.2.1.2 Web ActiveX ビューア

Web ActiveX ビューアは、ActiveX コントロールをサポートする Microsoft Internet Explorer バージョンと共に使用できます。Web ActiveX ビューアを使用するには、ActiveX コンポーネントをダウンロードおよびインストールする必要があります。このビューアでは、さまざまな形式でレポートを表示、最新表示、印刷、およびエクスポートできます。



Web ActiveX ビューアでは、カスタムツールバーから次の機能を使用できます。

- レポートのエクスポート
- レポートの印刷
- グループツリーの切り換え
- 最初のページに移動
- 前のページに移動
- 次のページに移動

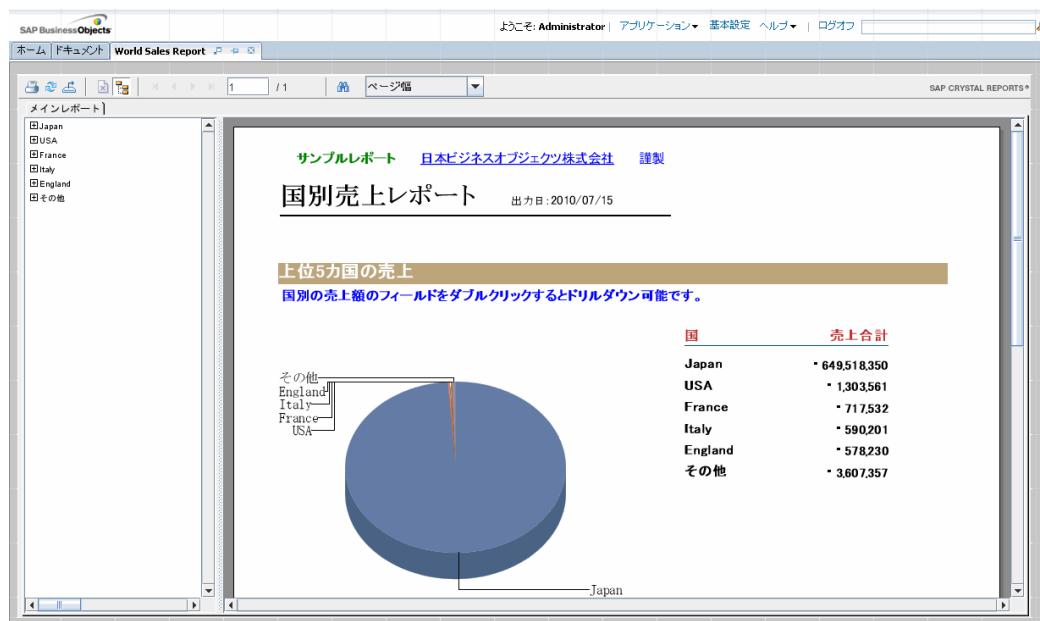
- ・ 最後のページに移動
- ・ ページ指定
- ・ ロードの中止
- ・ 最新表示
- ・ テキストの検索
- ・ ズーム
- ・ 現在のビューを閉じる

関連項目

- ・ 37 ページの[Crystal レポートの表示](#)

4.2.1.3 Web Java ビューア

Web Javaビューアにアクセスするには、Java 仮想マシンをサポートする Web ブラウザを使用します。このビューアでは、さまざまな形式でレポートを表示、最新表示、印刷、およびエクスポートできます。



Web Java ビューアでは、カスタムツールバーから次の機能を使用できます。

- ・ レポートのエクスポート
- ・ レポートの印刷
- ・ グループツリーの表示/非表示
- ・ 停止
- ・ データの最新表示

- ・ 最初のページに移動
- ・ 前のページに移動
- ・ 次のページに移動
- ・ 最後のページに移動
- ・ 現在と最後のページの番号
- ・ テキストの検索
- ・ 拡大率

マウスポインタをカスタムツールバーのボタンの上に置くと、関連する説明がブラウザのステータスバーの左側の下に表示されます。





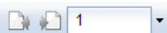

注

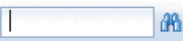

Java ビューアでレポート内をスクロールするときに、不具合が発生する場合があります。この問題は、特定の Web ブラウザに Java 仮想マシンを実装すると発生します。このような問題が発生した場合には、スクロールボタンを繰り返しクリックして、スクロールしてください。スクロールボタンを押したままにはしないでください。

関連項目

- ・ 37 ページの[Crystal レポートの表示](#)

4.2.2 Crystal レポートビューアのツールバー

オプション	説明
	[このレポートをエクスポートする]: Crystal レポートをローカルマシンまたはネットワーク上の場所にエクスポートします。
	[このレポートを出力する]: レポートを出力します。
 グループツリー	[グループツリー]: [グループツリー]を表示/非表示にします。グループツリーが表示されているときには、グループツリーを使ってレポート内のデータ間を移動できます。
 [パラメータパネル]	[パラメータパネル]: [パラメータパネル]を表示/非表示にします。パラメータツリーが表示されているときには、パラメータツリーを使ってレポート内のデータを変更できます。[パラメータパネル]には、Web ビューアからのみアクセスできます。
	[ナビゲーション]: レポートのページ間を移動できます。[最初のページへ]、[前のページへ]、[指定のページへジャンプ]、[次のページへ]、および[最後のページへ]のオプション。
	レポートを最新表示: レポートのデータソースから最新のデータを取得します。レポートを最新表示するには、ユーザが必要な権限を持ち、サーバには必要なデータソース情報が含まれる必要があります。

オプション	説明
	[テキストの検索]: 特定のテキストを検索できます。
	[ズーム]: レポートを拡大または縮小できます。

ヒント

レポート内をドリルダウンした後、レポートの各タブを使用してレポートのさまざまな領域に移動することができます。

関連項目

- ・ 37 ページの [Web ビューア](#)」

4.2.3 SAP Crystal Reports ビューア 2011

SAP Crystal Reports ビューア 2011 はローカルコンピュータにインストールされます。このため、BI プラットフォームに接続しなくても、ダウンロードした Crystal レポートを表示することができます。ビューアは、BI 起動パッドに含まれている Crystal レポートビューアと同様に機能します。

ビューアを使用して、次のタスクを実行します。

- ・ レポートの印刷またはエクスポート
- ・ レポートの保存
- ・ 表示するデータの選択
- ・ レポート内の詳細なドリルダウン
- ・ 複数のレポートの表示

実行できるタスクの詳細については、SAP Crystal Reports Viewer 2011 のオンラインヘルプメニューにアクセスしてください。

4.2.3.1 SAP Crystal Reports ビューア 2011 をインストールする

SAP Crystal Reports Viewer 2011 は、インストール時には、クライアント側のビューアとしてローカルに存在します。

注

この手順は、英語版の Web サイトにだけ適用されます。

- 1 <http://www.sap.com/solutions> にログインします。
- 2 [SAP BusinessObjects Portfolio] をポイントし、[SAP Crystal Solutions] をクリックします。

- 3 [Query, Reporting & Analysis] をポイントし、[SAP Crystal Reports Viewer] をクリックします。
画面右側に、[Download Now] リンクが表示されます。
- 4 SAP Crystal Reports 2011 ビューアインストールプログラムをダウンロードして実行します。
- 5 画面の指示に従い、可能な限りデフォルト値を使用します。
- 6 インストールが完了したら、[完了] をクリックします。

4.2.3.2 SAP Crystal Reports ビューア 2011 を起動する

SAP Crystal Reports Viewer 2011 は、コンピュータで Crystal レポート (.rpt) ファイルを選択してダブルクリックすると起動します。

注

SAP Crystal Reports がコンピュータにインストールされている場合、SAP Crystal Reports ビューア 2011 に優先して、デフォルトで SAP Crystal Reports にレポートが表示されます。

4.2.4 Crystal レポートデータをドリルダウンする

レポートデータ内をドリルダウンして、チャートと集計したグループのすぐ下にデータを表示できます。チャートまたは集計したデータをクリックして、ドリルダウンビューを表示します。

- 1 表示するレポートを開きます。
- 2 Crystal レポートビューアでレポート内のリンクをダブルクリックすると、詳細にドリルダウンします。

4.2.5 Crystal レポートにアラートを表示する

注

このタスクおよび機能は、SAP Crystal Reports で作成されたレポートのみに適用されます。

BI プラットフォームでは、アラートのトリガとなるレポートインスタンスに関する情報を記録します。このタスクを実行すると、Crystal レポートで使用できるアラートの一覧が表示されます。

- 1 表示する Crystal レポートが含まれるフォルダ/カテゴリに移動します。
- 2 オブジェクトを選択し、[その他のアクション] > [アラート] をクリックします。
[アラート] ダイアログボックスが表示されます。

アラート - Sale Revenue

☐ 時間でインスタンスを絞り込む

タイトル	説明	更新時間	前のアイテム
Sale Revenue		2010/07/15 13:14	Sales: Sales are greater than 5,000,00
Sale Revenue		2010/07/15 13:15	Sales: Sales are greater than 5,000,00

注


アラートを含むレポートの場合にのみ、アラートにアクセスできます。[アラート]ダイアログボックスには、アラートを生成したインスタンスだけが表示されます。

- 3 タイトルをダブルクリックしてレポートインスタンスを開きます。

関連項目

- ・ 148 ページの[アラートと Crystal レポートアラート通知の相違点](#)

4.2.6 Web ビューアで Crystal レポートのパラメータを表示および編集する

- 1 表示する Crystal レポートに移動して、選択します。
- 2 [ビュー] > [ビュー] をクリックします。
パラメータ値の入力を求められた場合は、レポートを表示する前にレポートパラメータに値を入力する必要があります。表示するデータを選択し、[OK]をクリックします。それ以外の場合は、どのパラメータにも入力する必要はなく、レポートを直接開くことができます。
- 3  レポート内でアクセスできるパラメータを表示するにはパラメータアイコンをクリックします。
- 4 パラメータを [パラメータパネル] に表示します。
- 5 パラメータをクリックして選択します。
- 6 次のいずれかの方法でパラメータ値を編集します。
 - ・ [パラメータパネル] で新規の値を入力してパラメータを直接編集します。
 - ・ [>] をクリックして詳細編集ダイアログボックスを開き、指示に従って新しい値を入力して [OK] をクリックします。
- 7 必要な場合は、ほかのパラメータも編集します。
- 8 新規のパラメータ値が適用されたレポートを表示するには、[適用]をクリックします。


4.2.7 Crystal レポートを印刷する

必要に応じて、成功したレポートのインスタンスや表示したレポートを印刷できます。

注

- ・ この節に記載されている手順は使用している Crystal レポートビューアによって異なる場合がありますが、レポートを印刷するための一般原則は同じです。
- ・ 画面に手順が表示される場合は、この節に記載されている手順ではなく画面の手順に従ってください。
- ・ ページの方向は、レポートデザイナーがレポートを作成するときに設定します。

1 表示するドキュメントを開きます。

2  ビューアのツールバーにある[レポートの印刷]をクリックします。

[印刷] ダイアログボックスが表示されます。

3 [印刷範囲]領域で、すべてのページを選択するか、またはページの特定範囲を指定します。

4 [部数] 領域で、レポートの印刷部数を選択します。

ヒント

[部単位で印刷] オプションを選択すると、ページが順番に印刷されます。たとえば、4 ページのレポートを 2 部印刷する場合、まず 1 部目の 1、2、3、4 ページを印刷してから、2 部目の 1、2、3、4 ページを印刷します。

5 [用紙] 領域では、用紙サイズとソースオプションを設定します。

注

これらのオプションは、Web および Web ActiveX ビューアでのみ使用できます。

6 [オプション] 領域では、必要に応じてこれらの追加の印刷オプションを選択します。

- ・ Crystal レポートの幅が広く、印刷時にレポートをページの大きさに合わせるには、[横方向のページを 1 ページに合わせる]を選択します。
- ・ Crystal レポートに埋め込まれた Flash オブジェクトを印刷するには、[現在のページの Flash オブジェクトを印刷する]を選択します。

注

これらのオプションは、Web および Web ActiveX ビューアでのみ使用できます。

7 [OK] をクリックします。


4.2.8 Crystal レポートをエクスポートする

Crystal レポートの成功したインスタンスだけでなく、オンデマンドで表示したレポートも、広範な対象ユーザに配布できるようにいくつかの形式にエクスポートできます。たとえば、売上動向の予測データを Excel スプレッドシートにエクスポートしてから、営業チームに電子メールで送信することができます。

ヒント

- ・ レポートからエクスポートするページの範囲を選択できます。
- ・ ドリルダウンできるレポートでは、ドリルダウンしたビューをエクスポートします。

1 表示する Crystal レポートを開きます。

2  ビューアのツールバーにある[レポートのエクスポート]をクリックします。

[エクスポート]ダイアログボックスが表示されます。

- 3 [ファイル形式] 一覧でファイル形式を選択します。
- 4 [印刷範囲]領域で、すべてのページを選択するか、ページの特定範囲を指定します。
- 5 [エクスポート]をクリックします。

4.2.8.1 エクスポート形式のオプション

BI プラットフォームには、エクスポート用のファイル形式に関して次に示す複数のオプションが用意されています。



- ・ SAP Crystal Reports (.rpt)
- ・ SAP Crystal Reports 読み取り専用形式 (.rptra)
- ・ Adobe Portable Document 形式 (.pdf)
- ・ Microsoft Excel 1997 ～ 2003 (.xls)
- ・ Microsoft Excel 1997 ～ 2003 (.xls) – データのみ
- ・ Microsoft Word 1997 ～ 2003 (.doc)
- ・ Microsoft Word 1997 ～ 2003 (.doc) – 編集可能
- ・ リッチ テキスト形式 (.rtf)
- ・ カンマ区切り (CSV)
- ・ 拡張マークアップ言語 (.xml)

注

- ・ SAP Crystal Reports (.rpt) 以外のファイル形式にレポートをエクスポートすると、レポートの形式の一部またはすべてが失われる場合があります。ただし、レポートの書式は、そのエクスポート形式で再現できるだけの設定が維持されます。
- ・ Excel と Excel – データのみとの違いは、Excel が元のレポートの外観を保持しようとする点です。
- ・ Microsoft Word 1997 ～ 2003 形式では、グラフィックを含むできるだけ多くの書式設定が維持されます。各オブジェクトは、個別のテキストフィールドに表示されます。Microsoft Word 1997 ～ 2003 – 編集可能形式では、ほとんどの書式設定が維持されません。また、テキストが行に表示され、イメージがテキストに沿って配置されます。リッチ テキスト形式は、Microsoft Word 1997 ～ 2003 に類似した形式です。
- ・ カンマ区切り値 (CSV) 形式は、Web ビューアでのみ使用できます。
- ・ ドリルダウンビューから SAP Crystal Reports (RPT) 形式にエクスポートすることはできません。
- ・ Flash オブジェクトは、Crystal Reports 形式または PDF 形式にエクスポートした場合にのみ表示されます。それ以外のすべての形式にエクスポートした場合は、代替イメージが表示されます。

Crystal レポートを特定の形式にスケジュールするために設定しなければならないオプションの詳細については、74 ページの「[Crystal レポートの追加の書式設定オプション](#)」および『SAP Crystal Reports ユーザガイド』のエクスポートに関する節を参照してください。

4.2.9 データをインタラクティブに並べ替える

- 1 インタラクティブソートを使用する Crystal レポートを開きます。
- 2 並べ替えの基準とする値を選択します。
- 3 該当する矢印をクリックして、レポート内のデータを必要に応じて昇順または降順に並べ替えます。
 - ・ 昇順に並べ替えたデータのリストを作成する場合は、 をクリックします。
 - ・ 降順に並べ替えたデータのリストを作成する場合は、 をクリックします。










4.3 Web Intelligence ドキュメントの表示

Web Intelligence ドキュメントを開くと、ドキュメントがビューアに表示されます。実行できる操作は、配置するビューアの種類、および BI プラットフォームの管理者が有効にする機能に応じて異なります。次の節では、Web Intelligence ツールバーの詳細、およびナビゲーションマップの使用、ユーザプロンプトの表示、テキストの検索、ドキュメントデータのドリルダウンの方法を説明します。

Web Intelligence ドキュメントで分析を実行する手順については、SAP BusinessObjects Web Intelligence のドキュメントを参照してください。

4.3.1 Web Intelligence ビューアツールバー

Web Intelligence ビューアツールバーで利用できるオプションは以下の表のとおりです。


オプション	説明
Web Intelligence	[Web Intelligence] メニューでは、ユーザインタフェースの以下の部分を表示または非表示にできます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ フィルタバー ・ アウトライン ・ 左ペイン ・ レポートタブ ・ ステータスバー
 開く	Web Intelligence ドキュメントをもう 1 つ開きます。
 保存	変更を保存、名前を変更してドキュメントを保存、またはさまざまな形式でドキュメントをローカルに保存します。
 印刷	ドキュメントの PDF バージョンを作成して印刷できるようにします。
 検索	ドキュメント内のテキストを検索します。
 履歴	ドキュメントインスタンスの日付を表示します。
 送信	さまざまな送信先にドキュメントを送信します。使用できる送信先は、システム管理者が有効化した設定によって異なります。
 元に戻す	前の操作に戻ります。
 やり直し	元に戻した操作をやり直します。
 最新表示	現在のタブまたはドキュメント全体を最新表示します。
トラック	変更の追跡オプションを設定できます。
ドリル	ドキュメントデータをドリルアップまたはドリルダウンできます。
フィルタバー	フィルタバーの表示/非表示を切り替えます。
アウトライン	ドキュメントのアウトラインの表示/非表示を切り替えます。
読み取り	ドキュメントを HTML または PDF モードで表示できます。
デザイン	現在表示しているドキュメントを変更できます。

4.3.2 ナビゲーションマップを表示する

ナビゲーションマップを使用して、Web Intelligence ドキュメントのレポートに移動します。


- 1 表示するドキュメントを開きます。
- 2 [Web Intelligence] > [左のペイン] > [標準] をクリックします。

左のペインが開きます。



- 3  左のペインの横にある [ナビゲーションマップ] アイコンをクリックします。

4.3.3 ユーザプロンプトを表示する

プロンプトはユーザから情報を収集します。Web Intelligence ドキュメントの場合は、ここで指定した情報によって、ドキュメントに表示されるデータが決まります。たとえば、営業で使用するドキュメントには、ユーザに地域の選択を求めるプロンプトが表示されます。ユーザが地域を選択すると、ドキュメントには、ドキュメント内のすべての地域の結果が表示されるのではなく、その指定した地域の結果が表示されます。

- 1 表示するドキュメントを開きます。
- 2 [Web Intelligence] > [左のペイン] > [標準] をクリックします。
- 3  左のペインの横にある [ユーザプロンプト入力] アイコンをクリックします。

4.3.4 テキストを検索する

- 1 表示するドキュメントを開きます。
- 2  ビューアのツールバーにある [検索] をクリックします。
[検索] パネルが、ドキュメントの下部に表示されます。
- 3 [検索] フィールドに、検索するテキストを入力します。
- 4  [検索を実行] ボタンの横にある矢印をクリックし、[大文字と小文字を区別しない] または [大文字と小文字を区別する] を選択します。
- 5 [検索を実行] をクリックします。
- 6 必要に応じて、前の項目を検索するか、次の項目を検索するかを選択します。

4.3.5 ドキュメントデータをドリルする

ドキュメントデータをドリルダウンして、チャートと集計したグループの下位にあるデータを表示できます。

- 1 表示するドキュメントを開きます。
- 2 [ドリル] > [ドリルモードの開始] をクリックしてから、ドキュメント内のリンクをクリックします。
ビューアがドリルモードに入ると、次の表に要約されているアクションのいずれかを実行できます。

オプション	説明
スナップショット	ドリルしたビューのスナップショットを撮り、ビューアの中の新しいタブでドリルしたビューを開きます。このオプションを使用するには、[ドリル] > [スナップショット] をクリックします。
フィルタバー	フィルタバーがビューアで開き、ドキュメントのビューにフィルタを適用できます。このオプションを使用するには、Web Intelligence ビューアツールバーにある [フィルタバー] ボタンをクリックします。

- 3 完了したら [ドリル] > [ドリルモードの終了] をクリックしてドリルセッションを終了します。

オブジェクトの使用

5.1 BI 起動パッドでのオブジェクトの管理

この節では、BI 起動パッドでのオブジェクトへのアクセス、オブジェクトの整理、使用方法、および検索方法について説明します。

BI プラットフォーム内のドキュメントとファイルは、すべてオブジェクトとみなされます。たとえば、ハイパーリンク、ショートカット、Crystal レポート、および Web Intelligence ドキュメントなどです。

BI プラットフォームがオブジェクトを整理する方法には、フォルダ別とカテゴリ別の 2 種類があります。オブジェクトは 1 つのフォルダに所属している必要があります。所属できるのは 1 つのフォルダだけです。カテゴリはオブジェクトを整理するためのもう 1 つの方法です。オブジェクトは 1 つのカテゴリだけに割り当てる必要はなく、複数のカテゴリに割り当てることができます。

カテゴリは、パブリック(会社用)カテゴリと個人用カテゴリのどちらでもかまいません。パブリックまたは会社用フォルダ/カテゴリは、必要な権限を持っているすべての BI 起動パッドユーザが表示できます。フォルダやカテゴリ内のオブジェクトを追加または編集できるのは、それらの操作に必要な権限を持っているユーザだけです。個人用カテゴリまたは[お気に入り]フォルダは、ユーザ個人が使用します。フォルダとカテゴリを新規に作成し、必要に応じてその中にオブジェクトを含めることができます。これらは個人専用で、他の BI 起動パッドユーザはそれらを表示または変更できませんが、BI プラットフォーム管理者は必要に応じてそれらを編集できます。

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームでは、他のユーザにオブジェクトまたはインスタンス(あるいはオブジェクト/インスタンスへのショートカット)を送信することもできます。これらのオブジェクトおよびインスタンスは、BI 受信ボックス、電子メールアドレス、FTP サーバ、またはファイルのデフォルトの場所へ送信できます。送信可能な場所は、システム管理者が行う設定内容により異なる場合があります。ドキュメントタブを開覧してそこからオブジェクトを送信したり、ドキュメントを表示してタブからオブジェクトを送信したりできます。また、オブジェクトの[履歴]からインスタンスを送信することもできます。受信したオブジェクトを表示するには、ドキュメントタブで[マイドキュメント]ドロワを展開して、[マイ受信ボックス]をクリックします。

ヒント

オブジェクトのタイトルを右クリックすると、そのオブジェクトで実行可能なすべてのアクションにアクセスできます。たとえば、オブジェクトの履歴を表示するには、オブジェクトを右クリックし、[履歴]を選択します。

注

システム管理者によって付与された権限によっては、特定のフォルダやカテゴリにアクセスできない場合があります。たとえば、システム管理者が会社内で使われていないカテゴリを無効にする場合があります。

5.2 BI 起動パッドでの新しいオブジェクトの作成と追加

管理者または権限を持つその他のユーザが BI 起動パッドに追加したオブジェクトで作業する以外に、必要な権限があれば、BI 起動パッドで独自のオブジェクトを作成することもできます。BI 起動パッドに既存のオブジェクトを追加することもできます。

関連項目

- ・ 52 ページの[BI 起動パッドにオブジェクトを追加します。」](#)
- ・ 58 ページの[ハイパーリンクを作成する」](#)
- ・ 114 ページの[BI 起動パッドで新しいパブリケーションを作成する」](#)
- ・ 65 ページの[フォルダまたはカテゴリを作成する」](#)
- ・ 157 ページの[BI 起動パッドでのアプリケーションの使用」](#)

5.3 BI 起動パッドにオブジェクトを追加します。

必要な権限を持っているユーザは、ローカルコンピュータから BI 起動パッド にオブジェクトを追加できます。

たとえば、最近の合併が販売に与えた影響についてのレポートをビジネスアナリストが作成し、社内でそのレポートを共有する必要があるとします。ビジネスアナリストが SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームにレポートを追加すると、必要な権限を持つ社内のすべてのユーザがそのレポートを読むことができます。

関連項目

- ・ 157 ページの[BI 起動パッドでのアプリケーションの使用」](#)

5.3.1 コンピュータから BI 起動パッドにドキュメントを追加する

- 1 [ドキュメント] タブを開きます。
- 2 [フォルダ] ドロウを展開し、ドキュメントを追加するフォルダに移動します。
フォルダを選択すると、そのコンテンツがリストパネルに表示されます。
- 3 [新規] > [ローカルドキュメント] をクリックします。
[新しいローカルドキュメント] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 [参照] をクリックして、追加するドキュメントを選択します。

- 5 ドキュメントのタイトル、説明、およびキーワードを入力します。
 - 6 ドキュメントが Crystal レポートの場合は、以下の手順を実行します。
 - ・ レポートの概要情報を保持する場合は、[レポートからの説明を使用する] を選択します。
 - ・ レポートの保存データを保持する場合は、[保存済みデータを保持] を選択します。
 - 7 必要に応じて、ファイルの MIME タイプを [MIME] フィールドに入力します。
 - 8 [カテゴリ] エリアで、ドキュメントを割り当てるカテゴリを選択します。
- この手順は省略できます。


注

システム管理者によって付与された権限によっては、カテゴリにオブジェクトを追加できない場合があります。

- 9 [追加] をクリックします。

5.4 オブジェクトの並べ替えとフィルタ処理

デフォルトでは、オブジェクトはタイトルの文字順に並んでいます。ただし、BI 起動パッドでも、他の基準に従ってオブジェクトを並べ替えたりフィルタ処理したりできます。列見出しをクリックすると、オブジェクトが昇順で並べ替えられます。その列見出しを再度クリックすると、オブジェクトが降順で並べ替えられます。


より複雑な並べ替えを適用するには、並べ替えるまたはフィルタ処理をする列の見出しにマウスを置きます。じょうごアイコン () が、列見出し名の隣に表示されます。じょうごアイコンをクリックし、オプションを設定します。列によって、使用できるオプションが異なります。

関連項目

- ・ 53 ページの [オブジェクトの並べ替えまたはフィルタ処理](#)

5.4.1 オブジェクトの並べ替えまたはフィルタ処理

デフォルトでは、フォルダまたはカテゴリのコンテンツを表示するときに、BI 起動パッドにはユーザが表示権限を持っているすべてのオブジェクトが表示されます。レポジトリオブジェクトの表示をフィルタ処理するには、この手順を実行します。

- 1 [ドキュメント] タブを開きます。
- 2 リストパネルで、以下の列見出しの 1 つにマウスを置き、列の見出し名の横に表示されるじょうごアイコン () をクリックします。
 - ・ タイトル
 - ・ 型
 - ・ 最終実行日時

- ・ 作成者
- ・ 作成日

フィルタオプションが表示されます。

- 3 フィルタオプションを設定します。

列	フィルタの設定方法
タイトル	検索フィールドに、オブジェクトのタイトルを入力します。
型	表示するオブジェクトのタイプを選択します。
最終実行日時	開始時間と終了時間を指定します。
作成者	[Everyone] または [Me] をクリックします。
作成日	開始時間と終了時間を指定します。

- 4 [OK] をクリックします。

選択した種類のオブジェクトだけが、リストパネルに表示されます。

フィルタ結果を使った作業が終了したら、ファンネルアイコンをクリックして[フィルタのクリア]チェックボックスを選択すると、フィルタが削除されます。オブジェクトタイプを条件にフィルタ処理した場合は、じょうごアイコンをクリックし、[すべての種類] をクリックし、[OK] をクリックするとフィルタが削除されます。

関連項目

- ・ 53 ページの [オブジェクトの並べ替えとフィルタ処理](#)

5.5 オブジェクトのプロパティを設定する

必要なアクセス権がある場合は、オブジェクトに関する次のプロパティを変更できます。

- ・ タイトル
- ・ 説明
- ・ キーワード
- ・ カテゴリ

- 1 ドキュメントタブを表示し、[フォルダ] ドロワを展開します。

- 2 リストパネルでオブジェクトに移動し選択します。

- 3 [ビュー] > [プロパティ] をクリックします。

[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

- 4 必要に応じて、オブジェクトのタイトル、説明、またはキーワードを変更します。

- 5 [保存して閉じる] をクリックします。

- 6 オブジェクトを再度選択し、[その他のアクション] > [カテゴリ] をクリックします。

この手順は省略できます。

注

システム管理者によって付与された権限によっては、カテゴリにオブジェクトを追加できない場合があります。

- 7 オブジェクトの割り当て先とするカテゴリを選択します。
- 8 [OK]をクリックします。

5.6 オブジェクトをコピーする

BI 起動パッドでは、オブジェクトのコピーを作成し、ユーザが必要な権限を持つフォルダに保存することができます。これにより、元のオブジェクトを保持したまま新しいオブジェクトを編集できます。

BI 起動パッドの[コピー]コマンドではオブジェクトをクリップボードにコピーできますが、同じフォルダに自動的にコピーが作成されるわけではありません。コピーしたオブジェクトを出力先フォルダに保存するには、フォルダに移動し、[貼り付け] コマンドを選択する必要があります。

- 1 ドキュメントタブを表示し、[フォルダ]ドロワを展開します。
- 2 コピーするオブジェクトに移動して選択します。

ヒント

一度に複数のオブジェクトを選択すると、複数のオブジェクトを同時にコピーできます。CTRL または SHIFT キーを押したまま、オブジェクトをクリックします。

- 3 [整理] > [コピー]をクリックします。
オブジェクトはクリップボードにコピーされます。
- 4 コピーを保存するフォルダに移動します。
- 5 [整理] > [貼り付け] をクリックします。

関連項目

- ・ [56 ページの「オブジェクトへのショートカットを作成する」](#)

5.7 オブジェクトを移動する

- 1 [ドキュメント] タブを開きます。
- 2 移動するオブジェクトを探して選択します。
- 3 [整理] > [切り取り] をクリックします。

注

[切り取り]をクリックするとすぐにオブジェクトがクリップボードにコピーされます。切り取ったオブジェクトは新しい場所に貼り付けるまで削除されません。

- 4 オブジェクトの移動先のフォルダを探します。

- 5 [整理] > [貼り付け] をクリックします。

これで、オブジェクトは貼り付け先のフォルダにのみ存在します。移動したオブジェクトへのショートカットは、これまでどおり正しく機能します。

5.8 オブジェクトへのショートカットを作成する

- 1 ドキュメントタブを表示し、[フォルダ] ドロワを展開します。
- 2 ショートカットを作成するオブジェクトに移動して選択します。
- 3 [整理] > [ショートカットのコピー] をクリックします。
- 4 ショートカットを作成するフォルダに移動します。
- 5 [整理] > [ショートカットの貼り付け] をクリックします。

ヒント

お気に入りフォルダで表示する頻度の多いオブジェクトのショートカットを作成することもできます。作成するには、リストパネルでオブジェクトを選択し、[整理] > [お気に入りにショートカットを作成] をクリックします。

5.9 オブジェクトまたはインスタンスを出力先に送信する

[送信] を使用すると、既存のオブジェクトまたはオブジェクトのインスタンスを別の出力先に送信できます。[送信] コマンドでは、既存のオブジェクトまたはインスタンスのみ処理できます。このコマンドでは、システムでのオブジェクトの実行や新しいインスタンスの作成、レポートインスタンスのデータの最新表示は実行できません。

オブジェクトのコピーかインスタンスのどちらか、またはオブジェクトインスタンスのショートカットを送信できます。出力先 (FTP や BI 受信ボックスなど) も選択できます。すべてのタイプのオブジェクトがすべての出力先に送信できるわけではありません。

ヒント

タブにオブジェクトやインスタンスが表示されている場合、タブ内からオブジェクトやインスタンスを送信できます。

- 1 ドキュメントタブで、送信するオブジェクトに移動します。
- 2 送信するオブジェクトまたはインスタンスを選択します。
 - ・ オブジェクトを送信する場合は、[送信] をクリックして出力先を選択します。
 - ・ インスタンスを送信する場合は、オブジェクトを選択し、[その他のアクション] > [履歴] をクリックします。[履歴] ダイアログボックスでインスタンスを選択し、[送信] をクリックして、出力先オプションをクリックします。

ステータスが“成功”または“失敗”のインスタンスのみを選択します。ステータスが“定期”または“待機”のインスタンスはスケジュールされており、まだデータが格納されていません。

出力先オプション	説明
BI 受信ボックス	オブジェクトをユーザの BI 受信ボックスに送信します。
電子メール	オブジェクトをユーザの電子メールアドレスに送信します。
FTP の場所へ	オブジェクトを FTP サーバの場所に送信します。
ファイルの場所	オブジェクトをローカルディスクの場所へ送信します。

注

- ・ システム管理者による BI プラットフォームの設定内容によっては、出力先が利用できない場合もあります。
- ・ Web Intelligence ドキュメントは、BI 受信ボックスだけに、または BI プラットフォーム内で設定された電子メールの出力先に送信されます。

ヒント

複数のオブジェクトを選択するには、Shift + クリックまたは Ctrl + クリックを使用します。

3 出力先オプションを設定します。

Adaptive Job Server のデフォルト設定を使用するか、独自の設定を使用するか選択できます。独自の設定を使用する場合は、次を指定します。

- ・ オブジェクトを受信するユーザとグループ (BI 受信ボックスまたは電子メールの出力先に送信する場合)
- ・ オブジェクトのコピーまたはそのオブジェクトにリンクするショートカットを送信するかどうか
- ・ 送信するオブジェクトの名前
- ・ オブジェクトを送信した後にインスタンスをクリーンアップするかどうか
- ・ 出力先の種類に固有の設定 (ファイルの場所の場合はディレクトリ、FTP サーバの場合はホスト名と接続ポートなど)

4 指定が完了したら、[送信]をクリックします。

5.10 オブジェクトの OpenDocument リンクを作成する

ドキュメントの OpenDocument リンクを作成するには、次の手順を実行します。OpenDocument リンクは、ダイレクトリンクを他のユーザに送信する場合や、他のユーザがフォルダやカテゴリ内を探す手間を省く場合に便利です。受信者がリンクをクリックすると、BI 起動パッドログオンページが Web ブラウザに表示されます。受信者が有効なログオン認証情報を入力すると、ドキュメントが開きます。

- 1 ドキュメント タブで、ユーザに送信するドキュメントに移動し、リストパネルで選択します。
- 2 [その他のアクション] > [ドキュメントのリンク] をクリックします。
[リンク] フィールドに OpenDocument リンクの付いた [ドキュメントのリンク] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [リンク] フィールドのリンク全体が選択されていることを確認し、CTRL + C を押します。
- 4 リンクを貼り付ける場所 (電子メールの本文など) にカーソルを置き、CTRL + V を押します。

これでリンクが貼り付けられました。

- 5 BI 起動パッドセッションで、[OK] をクリックして[ドキュメントのリンク] ダイアログボックスを閉じ、ドキュメントタブに戻ります。

5.11 オブジェクトを削除する

ユーザが必要な権限を持っている場合は、BI 起動パッドでオブジェクトを削除できます。

- 1 [ドキュメント] タブを開きます。
- 2 削除するオブジェクトを探して選択します。
- 3 [整理] > [削除] をクリックします。
- 4 確認を求めるメッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。

5.12 ハイパーリンクを作成する

- 1 ドキュメントタブを表示し、[フォルダ] ドロワを展開します。
- 2 ハイパーリンクを作成するフォルダに移動します。

ヒント

[マイドキュメント] ドロワの [お気に入り] ではハイパーリンクも作成できます。

- 3 [新規] > [ハイパーリンク] をクリックします。
[ハイパーリンク] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 [一般プロパティ] が選択されていることを確認します。
- 5 ハイパーリンクのタイトル、説明、およびキーワードを入力します。
- 6 [URL] をクリックします。
- 7 [URL] フィールドに、ハイパーリンクを作成する Web ページの完全な URL を、http:// を含めて入力します。
- 8 必要な場合は、[カテゴリ] を選択し、ハイパーリンクを割り当てるカテゴリを選択します。
- 9 [OK] をクリックします。

5.13 BI 起動パッドでの検索

ここでは、BI 起動パッドでの検索について説明します。プラットフォーム検索では、入力した内容とオブジェクトのキーワード、タイトル、説明、所有者情報、およびコンテンツの一致が検索されます。検索を実行すると、[検

索] ドロワに検索内容が表示されます。[検索] ドロワを使用すると、常に、BI 起動パッドセッション中に検索結果を参照することができます。

5.13.1 プラットフォーム検索機能

検索テクニック

他の検索エンジンで使用されているものと同様のテクニックを使用して検索を実行することができます。

別のスペリング(綴り)の提案

検索語のスペリングが誤っている場合や結果が得られない場合、別のスペリングが提案されます。提案は、元の検索語を、それに似たスペリングの語で置換することで行われます。たとえば、Euroe sales trent を検索しようとする、システムはスペルミスを認識し、Europe sales trend を提案します。

注

- ・ 代替スペリングの提案は、元の検索語で検索結果が得られず、提案した検索語では一致する結果がある場合にのみ行われます。
- ・ この機能は、中国語、日本語、または韓国語のテキストでは使用できません。

一致した語の強調表示

検索しているテキストがオブジェクトのタイトルや説明に含まれる語と一致すると、一致した語は太字で表示されます。

ファセットおよび検索結果のグループ化

検索から返される結果が多すぎて、すべての結果を簡単に参照できない場合があります。検索では、結果に含まれる情報および結果に関する情報を使用して、結果をファセットという名前のグループに分類します。検索結果の分類先の各種ファセットには、ドキュメントの種類、公開カテゴリ、レポート内のデータ、レポートコンテンツのさまざまな側面が含まれます。グループを選択して、そのグループを構成する検索結果を参照することができます。

たとえば、2006 sales by employeeを検索するとします。公開カテゴリのファセットには、人事レポート、法的ドキュメントおよび売上げレポートが含まれます。これらの各カテゴリには、検索結果に表示されるオブジェクトが割り当てられています。売上げレポートを探している、Sales reportをクリックして、そのカテゴリに割り当てられている検索結果だけを表示します。

ファセットは、メタデータおよびドキュメントコンテンツに基づいて生成されます。コンテンツベースのファセットは、ドキュメントに存在するフィールドまたは変数に基づいて生成されます。たとえば、変数 Product を多くの売上げレポートで使用している場合、検索ではそれに対応するファセットが生成されます。この場合、製品名で検索を絞り込み、その製品に関連する結果のみ参照できます。

検索を絞り込んだら、絞り込み結果を閉じて結果の全一覧に戻るか、他のファセットからオプションを選択して一覧をさらに絞り込むことができます。現在有効なすべての絞り込み結果が、[検索条件の絞り込み]パネルの上部に表示されます。

注

- ・ レポートコンテンツ内のフィールドによるファセットのグループ分けは Crystal レポートと Web Intelligence ドキュメントでのみ使用可能です。

- ・ オブジェクトタイプによるファセットのグループ化では、他のタイプのオブジェクトを含めることができます。たとえば、Crystal レポートファセットの検索結果を表示すると、結果に同じ名前の Crystal レポート、PDF ドキュメント、および Word ドキュメントが表示される場合があります。この動作は、他のオブジェクトが Crystal レポートのインスタンスであるために発生します。

検索結果のランク

検索結果ページのすべてのオブジェクトに、検索語との関連度に応じて 1 から 5 までのランクを示すスコアが付けられます。スコア 5 は、オブジェクトの一致率が非常に高いことを示し、スコア 1 は、一致率が低いことを示します。

関連項目

- ・ 60 ページの[プラットフォーム検索による検索対象](#)」
- ・ 62 ページの[プラットフォーム検索のテクニック](#)」

5.13.2 プラットフォーム検索による検索対象

次の表は、各オブジェクトタイプの検索可能コンテンツを示したものです。

オブジェクトタイプ	検索可能コンテンツ
Crystal レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイトル ・ 説明 ・ 選択式 ・ 保存データ ・ テキストフィールド ・ パラメータ値 ・ サブレポート
Web Intelligence ドキュメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイトル ・ 説明 ・ ユニバースフィルタ名 ・ 保存データ ・ ドキュメントで定義されたフィルタ条件の定数 ・ ユニバースメジャー名 ・ ユニバースオブジェクト名 ・ レコードセット内のデータ ・ セル内の静的テキスト
Microsoft Excel ファイル	<ul style="list-style-type: none"> ・ データ ・ ドキュメントプロパティ(タイトル、件名、作成者、会社、カテゴリ、キーワード、およびコメント) ・ ヘッダおよびフッタテキスト ・ 計算値または式値 ・ 番号および日付/時間値
Word ドキュメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ テキスト ・ ドキュメントプロパティ(タイトル、件名、作成者、会社、カテゴリ、キーワード、およびコメント) ・ ヘッダおよびフッタテキスト ・ 数値
RTF、PDF、PowerPoint、および TXT ファイル	テキスト
	メタデータ

オブジェクトタイプ	検索可能コンテンツ
<ul style="list-style-type: none"> ・ その他のオブジェクト ・ 分析ビュー ・ BI ワークスペース ・ Dashboard Design オブジェクトおよび Xcelsius オブジェクト ・ ディスカッション ・ イベント ・ Flash オブジェクト ・ ハイパーリンク ・ ライフサイクルマネジメントコンソールジョブ ・ メタデータ (インフォメーションデザイン) ・ モジュール ・ オブジェクトパッケージ ・ プロファイル ・ プログラムオブジェクト ・ パブリケーション ・ クエリ (Web サービスとしてのクエリ) ・ ユニバース ・ ウィジェット ・ ワークスペース (SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP で作成) 	

5.13.3 プラットフォーム検索のテクニック

プラットフォーム検索は、他の検索エンジンで使用されているものと同様のテクニックを使用して検索を実行することができるように最適化された検索ツールです。このトピックでは、プラットフォーム検索をより効果的に実行するためのテクニックを紹介します。

テクニック	例	説明
検索語をスペースで区切る	finance report	<p>ドキュメント内ですべての語が見つかった場合のみ、検索結果が生成されます。</p> <p>注 検索語をスペースで区切ることは、AND 区切りと同等です。</p>

テクニック	例	説明
ワイルドカード文字としてのアスタリスクまたは疑問符の使用方法	売上げ 199* L?st	最初の例では、用語 売上げと 1990 から 1999 年の任意の年度を含む結果が生成されます。2 番目の例では、用語 Last または Lost を含む結果が生成されます。 注 このテクニックを使用する場合、入力する検索文字列に大文字と小文字を混在させることはできません。
検索語を引用符で囲む	total sales growth	ドキュメント内で完全に同じフレーズが見つかった場合のみ、検索結果が生成されます。
検索語の後ろに + を付ける	episode +I	ドキュメント内ですべての語が見つかった場合のみ、検索結果が生成されます。このテクニックは、検索プロセスで一般的には除外される語を検索する場合に便利です。たとえば、a、for、by、is、the などです。
検索語の後ろに - を付ける	Europe sales -revenue	- 記号の直後の語が含まれず、その他のすべての語が見つかった場合にのみ、検索結果が生成されます。
検索語を大文字の OR で区切る	bug OR defect count report	ドキュメント内に OR で区切られた語のどちらかが見つかった場合に検索結果が生成されます。
属性検索	タイプ: Crystal Reports 国: 米国	属性検索では特定の属性値を検索でき、メタデータまたはコンテンツに使用することができます。属性検索を実行するには、属性、コロン、検索する値を入力します。引用符を使用して、複数の単語を含む属性値を囲みます。 最初の例では、オブジェクトタイプ値が Crystal Reports の結果が生成されます。2 番目の例では、国の値が米国の結果が生成されます。
異なる検索テクニックの組み合わせ	marketing OR sales -finance increase OR decrease trend	この例では、ドキュメントに marketing または sales が含まれ、かつ、フレーズ increase or decrease trend が含まれ、finance は含まれない場合に結果が生成されます。


5.13.4 BI 起動パッドで検索を実行する

検索は、必要な権限を持つユーザによって明示的に検索から除外されない限り、BI 起動パッドのほとんどのオブジェクトに対して実行されます。

1 [ドキュメント] タブを開きます。

2 ツールバーの検索フィールドに検索する単語を入力します。

入力時に一時停止すると、クイック検索機能により、入力したテキストに基づいて上位 6 つの一致が表示されます。これらの一致の 1 つをクリックして表示できます。一致するものがすぐに表示されない場合は、検索文字列の入力を続行します。

3  [検索] をクリックします。

結果は、一覧パネルに表示されます。次のファセットは、[検索] ドロワにも表示される場合があります、フィルタ処理した結果を見ることができます。

- ・ 場所
- ・ 型
- ・ 最新表示時刻
- ・ 作成者
- ・ データソース

[データソース] は表示されることも表示されないこともあります。他のファセットも、結果の内容に基づいて表示されることがあります。検索によって 5 つを超えるファセットが生成される場合、[その他] リンクをクリックすると、他のファセットが表示されます。

4 以下のいずれかを実行して、検索結果の 1 つを表示します。

- ・ [一覧] パネルで、オブジェクトリンクをダブルクリックします。
- ・ [検索] ドロワで、ファセットをクリックして表示される結果を絞り込み、次に [一覧] パネルでオブジェクトリンクをダブルクリックします。

Web Intelligence ドキュメントまたは Crystal レポートをダブルクリックすると、レポート内で検索語が最初に一致した場所がビューアに表示されます。

注

- ・ この機能は、HTML ビューアの場合にのみ動作します。Java ビューアや ActiveX ビューアでは動作しません。
- ・ オブジェクトタイプによるファセットのグループ化では、他のタイプのオブジェクトを含めることができます。たとえば、Crystal レポートファセットの検索結果を表示すると、結果に同じ名前の Crystal レポート、PDF ドキュメント、および Word ドキュメントが表示される場合があります。この動作は、他のオブジェクトが Crystal レポートのインスタンスであるために発生します。

関連項目

- ・ 62 ページの [プラットフォーム検索のテクニック](#)
- ・ 35 ページの [オブジェクトの表示](#)

5.14 フォルダとカテゴリ

すべてのユーザーがアクセスできるフォルダやカテゴリは、通常 BI プラットフォーム管理者が作成します。ただし、必要な権限がある場合は、他のユーザーが BI 起動パッドでフォルダやカテゴリを作成することもできます。

BI プラットフォームには次の 2 つのタイプのフォルダがあります。

- ・ お気に入り

[お気に入り] には、任意の数のフォルダを作成し、BI 起動パッド内のオブジェクトを整理することができます。[マイドキュメント] ドロウを展開し、[お気に入り] をクリックすると、作成したフォルダが表示されます。作成した [お気に入り] フォルダにオブジェクトを追加したり、パブリック フォルダ内のオブジェクトへのショートカットやオブジェクトのコピーを作成したりすることができます。新規のオブジェクトを作成することもできます。BI 起動パッド 内の [お気に入り] フォルダへのアクセス権があるのはそのフォルダを作成したユーザーのみですが、管理者もそのフォルダを管理できます。

- ・ パブリックフォルダ

パブリック フォルダは、通常管理者または必要な権限が付与されているユーザーによって作成されます。適切な権限がある場合は、パブリックフォルダを作成し、必要な権限を持つ他のユーザーが表示できるオブジェクトを含めることができます。パブリックフォルダを表示するには、[フォルダ] ドロウを展開します。

BI プラットフォームには次の 2 つのタイプのカテゴリがあります。

- ・ 個人用カテゴリ

任意の数の個人用カテゴリを作成し、オブジェクトを整理することができます。[マイドキュメント] ドロウを展開し、[個人用カテゴリ] をクリックすると、作成したカテゴリが表示されます。

- ・ 会社用カテゴリ

会社用カテゴリは、通常管理者または必要な権限が付与されているユーザーによって作成されます。適切な権限がある場合、会社用カテゴリを作成できます。会社用カテゴリを表示するには、[カテゴリ] ドロウを展開します。

5.14.1 フォルダまたはカテゴリを作成する

- 1 [ドキュメント] タブを開きます。
- 2 以下のいずれかの方法を使用して、新しいフォルダまたはカテゴリを作成する場所に移動します。
 - ・ 個人用フォルダを作成するには、[マイドキュメント] ドロウを展開し、[お気に入り] をクリックします。
 - ・ パブリックフォルダを作成するには、[フォルダ] ドロウを展開します。
 - ・ 個人用カテゴリを作成するには、[マイドキュメント] ドロウを展開し、[個人用カテゴリ] をクリックします。
 - ・ パブリックカテゴリを作成するには、[カテゴリ] ドロウを展開します。
- 3 [新規] > [フォルダ]、または [新規] > [カテゴリ] をクリックします。

- 4 新しいフォルダまたはカテゴリの名前の入力が必要とされたら、名前を入力します。
- 5 [OK] をクリックします。

5.14.2 フォルダまたはカテゴリのプロパティを設定する

ユーザ自身が作成した、または必要な権限を持っているフォルダやカテゴリのプロパティを編集できます。これにより、フォルダまたはカテゴリの名前、説明、およびキーワードを変更できます。フォルダおよびカテゴリの検索にはキーワードを使用できます。

- 1 [ドキュメント] タブを開きます。
- 2 次のいずれかの方法で、フォルダまたはカテゴリに移動します。
 - ・ 個人用フォルダを編集するには、[マイドキュメント] ドロワを展開し、[お気に入り] をクリックします。
 - ・ パブリックフォルダを編集するには、[フォルダ] ドロワを展開します。
 - ・ 個人用カテゴリを編集するには、[マイドキュメント] ドロワを展開し、[個人用カテゴリ] をクリックします。
 - ・ パブリックカテゴリを編集するには、[カテゴリ] ドロワを展開します。
- 3 フォルダまたはカテゴリを選択し、[ビュー] > [プロパティ] をクリックします。
[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 必要に応じて、フォルダ名、説明、キーワードを編集します。
- 5 [OK] をクリックします。

5.14.3 フォルダへのオブジェクトの追加

必要な権限を持っているユーザは、[新規] > [ローカルドキュメント] を使って、フォルダに個別にオブジェクトを追加できます。必要な権限がある場合は、BI 起動パッドで新しいオブジェクトを作成することもできます。詳細については、52 ページの [「BI 起動パッドでの新しいオブジェクトの作成と追加」](#) を参照してください。

5.14.4 オブジェクトをカテゴリに割り当てる

- 1 カテゴリに割り当てるオブジェクトを含むフォルダに移動します。
- 2 オブジェクトを選択し、[その他のアクション] > [カテゴリ] をクリックします。
[カテゴリ] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 オブジェクトの割り当て先とするカテゴリを選択します。

ヒント

カテゴリを展開するには、カテゴリ名の横にある“+”記号をクリックします。

- 4 [OK]をクリックします。

オブジェクトのスケジュール

6.1 オブジェクトのスケジュール

オブジェクトをスケジュールすると、指定した時間に自動的にそれを実行できます。インスタンスは、オブジェクトが正常に実行されるたびに作成されます。インスタンスは、オブジェクトを実行した時刻以降のデータを含むオブジェクトのバージョンです。

オブジェクトの履歴にはインスタンスの一覧が表示され、どのインスタンスでも表示することができます。オンデマンドでオブジェクトを表示する権限を持っていれば、任意のインスタンスを最新表示して、データソースから最新のデータが取得できます。

インスタンスをスケジュールおよび表示することにより、常にオブジェクトの最新情報を表示、印刷および配布することができます。

注

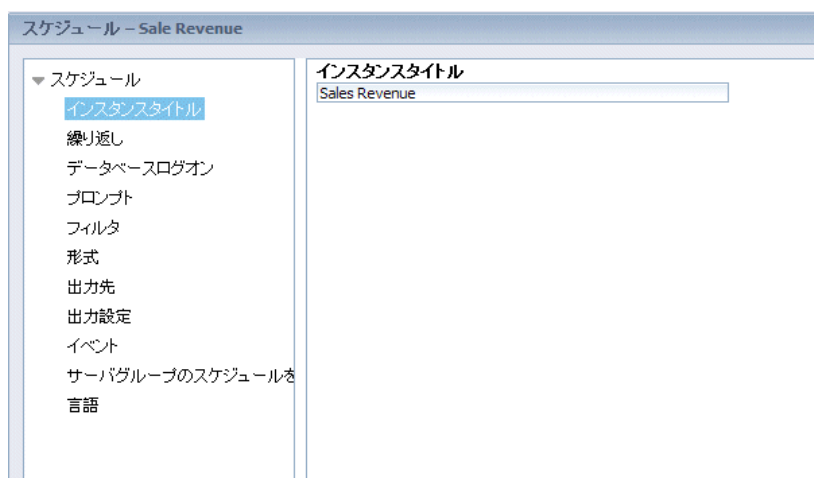
オブジェクトをスケジュールする前に、BI 起動パッドの [基本設定] でタイムゾーン設定を確認します。デフォルトのタイムゾーンは、ユーザが接続している CMS のローカルタイムゾーンではなく、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームを実行している Web サーバのローカルタイムゾーンです。タイムゾーンを自分の地域に合わせて設定し、スケジュールしたオブジェクトが自分の地域のタイムゾーンに従って処理されるようにします。基本設定を表示または設定する権限がない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

関連項目

- 23 ページの [基本設定の設定](#)

6.2 オブジェクトをスケジュールする

- 1 [ドキュメント] タブで、スケジュールするオブジェクトを探して選択します。
- 2 [その他のアクション] > [スケジュール] をクリックします。
[スケジュール] ダイアログボックスが表示されます。



3 使用するスケジュールオプションを指定します。

各オプションの詳細については、次のタスクを参照してください。

- ・ インスタンスタイトル: 70 ページの「[インスタンスのタイトルを設定する](#)」
- ・ 繰り返し: 71 ページの「[定期スケジュールパターンを選択する](#)」
- ・ データベースログオン情報: 72 ページの「[データベースログオン情報を指定する](#)」
- ・ パラメータまたはプロンプト: 85 ページの「[パラメータまたはプロンプトでオブジェクトをスケジュールする](#)」
- ・ フィルタ: 84 ページの「[レコード選択式を適用する](#)」
- ・ 書式設定: 72 ページの「[インスタンス形式を指定する](#)」
- ・ 出力先: 78 ページの「[出力先を指定する](#)」
- ・ 印刷設定: 84 ページの「[Crystal レポートの印刷設定を設定する](#)」
- ・ イベント: 85 ページの「[イベントでオブジェクトをスケジュールする](#)」
- ・ サーバグループ: 86 ページの「[スケジュールリングサーバグループを設定する](#)」
- ・ 言語: 87 ページの「[レポートインスタンスの言語を選択する](#)」
- ・ キャッシュ: 86 ページの「[Web Intelligence ドキュメントのキャッシュ形式を選択する](#)」

注

スケジュールオプションによっては、管理者がそのオブジェクトに指定した設定が、そのオプションを選択するときに既に選択されている場合があります。これらのオプションを使用してオブジェクトをスケジュールしたり、独自のオプションを選択したりすることができます。

4 [スケジュール]をクリックします。

[履歴] ダイアログボックスが開き、スケジュールされたジョブが [実行中] ステータスのインスタンスとして表示されます。ステータスは 10 秒ごとに最新表示されます。

6.2.1 インスタンスのタイトルを設定する

スケジュールされた各インスタンスに使用する名前を入力できます。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスでナビゲーションペインから [インスタンスタイトル] をクリックします。
- 2 [インスタンスのタイトル] フィールドに名前を入力します。

6.2.2 定期スケジュールパターンを選択する

定期スケジュール設定では、オブジェクトを実行するためのスケジュールを指定します。[オブジェクトの実行] リストの各パラメータには、それぞれ固有のデータの入力が必要です。

[可能な再試行回数] フィールドでは、サーバがジョブの実行に失敗した場合の再試行の回数を設定できます。[再試行間隔 (秒単位)] フィールドでは、サーバが再試行を開始するまでの待機時間も設定できます。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスで [定期] をクリックします。
- 2 [オブジェクトの実行] リストから繰り返しオプションのいずれかを選択して必要なオプションを設定します。

次のオプションがあります。

- ・ 今すぐ

[スケジュール] をクリックすると、オブジェクトがすぐに 1 回実行されます。

- ・ 1 回

このオプションには開始時刻および終了時刻パラメータを指定します。オブジェクトは指定した時刻に 1 度だけ実行されます。イベントを使用してオブジェクトをスケジュールする場合、開始時刻と終了時刻の間にイベントが発生すると、オブジェクトは 1 度だけ実行されます。

- ・ 時間単位

このオプションには、オブジェクトを実行する頻度を時間と分で指定します。インスタンスは、入力したパラメータに合わせて定期的に作成されます。最初のインスタンスは指定した開始時刻に作成され、オブジェクトは、指定した終了時刻に時間単位のスケジュールでの実行を停止します。

- ・ 日単位

このオプションには開始時刻および終了時刻パラメータを指定します。オブジェクトは N 日に 1 回指定した時刻に実行されます。オブジェクトは、指定した終了時刻後は実行されません。

- ・ 週単位

このオプションには開始時刻および終了時刻パラメータを指定します。オブジェクトは、毎週指定した日数だけ、指定した時刻に実行されます。オブジェクトは、指定した終了時刻後は実行されません。

- ・ 月単位

このオプションには、開始日時と、月単位で指定する定期的なスケジュールが必要です。オブジェクトは N か月ごとに指定した日時に実行されます。オブジェクトは、指定した終了時刻後は実行されません。

- ・ N 日

このオプションでは、毎月オブジェクトが実行される日付を指定する必要があります。インスタンスは、毎月選択した日の指定開始時刻に定期的に作成されます。オブジェクトは、指定した終了時刻後は実行されません。

- ・ 第 1 月曜日

このオプションには開始時刻および終了時刻パラメータを指定します。インスタンスは、毎月第 1 月曜日の指定した時刻に作成されます。オブジェクトは、指定した終了時刻後は実行されません。

- ・ 月末日

このオプションには開始時刻および終了時刻パラメータを指定します。インスタンスは、毎月末日の指定した時刻に作成されます。オブジェクトは、指定した終了時刻後は実行されません。

- ・ 第 N 週の X 日

このオプションには開始時刻および終了時刻パラメータを指定します。インスタンスは毎月指定した曜日に作成されます。オブジェクトは、指定した終了時刻後は実行されません。

- ・ カレンダ

このオプションには、カレンダー日を指定します。カレンダーは、BI プラットフォーム管理者が作成する、カスタマイズされたスケジュール日付のリストです。カレンダーで指定された各日に 1 つのインスタンスが作成され、指定した開始時刻から開始され、指定した終了時刻まで継続されます。

- 3 必要に応じて他のスケジュールパラメータを設定し、[スケジュール] をクリックします。

6.2.3 データベースログオン情報を指定する

オブジェクトの中には、正しくスケジュールするために、事前にデータベースへのログオンを必要とするものもあります。オブジェクトのデータソースに対する認証情報を持っていれば、[スケジュール] ダイアログボックスで指定できます。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスで [データベースログオン] をクリックします。
- 2 必要に応じて、オブジェクトのデータソースのログオン情報を変更します。
- 3 必要に応じて他のスケジュールパラメータを設定し、[スケジュール] をクリックします。

6.2.4 インスタンス形式を指定する

スケジュールするオブジェクトの種類に応じて、BI プラットフォームで生成されるときオブジェクトのインスタンスの保存形式を選択できます。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスで、[形式] または [形式および出力先] をクリックします。
- 2 スケジュール先の形式を選択します。
たとえば、Crystal レポートの場合は、[選択したドキュメントの形式オプション] 一覧から形式を選択します。
- 3 必要に応じて他の書式設定オプションを選択します。

一部の Crystal レポート形式オプションでは、追加の書式設定オプションを指定する必要があります。これらのオプションは、選択した形式に応じて異なります。

- 4 必要に応じて他のスケジュールパラメータを設定し、[スケジュール]をクリックします。

関連項目

- ・ 74 ページの[Crystal レポートの追加の書式設定オプション](#)

6.2.4.1 使用可能な形式

特定のオブジェクトの種類を送信またはスケジュールできる形式を次に示します。

Crystal レポート形式

Crystal レポートの場合は、次の形式の中からいずれかを選択できます。

- ・ SAP Crystal Reports
- ・ SAP Crystal Reports 読み取り専用 (RPTR)
- ・ Microsoft Excel (97-2003)
- ・ Microsoft Excel (97-2003) (データのみ)
- ・ Microsoft Excel (2007) (データのみ)
- ・ Microsoft Word (97-2003)
- ・ PDF
- ・ リッチ テキスト形式 (RTF)
- ・ Microsoft Word – 編集可能 (RTF)
- ・ テキスト
- ・ ページ区切り付きテキスト
- ・ タブ区切りテキスト (TTX)
- ・ カンマ区切り値 (CSV)
- ・ XML

注

- ・ SAP Crystal Reports 以外のファイル形式を選択すると、エクスポート形式で許可されている書式設定のほとんどがそのまま維持されます。ただし、レポートに表示されている一部またはすべての書式設定を失う場合もあります。
- ・ Excel と Excel (データのみ) の違いは、Excel はレポートのオリジナルの外観を保持し、Excel (データのみ) はデータの保持に重点を置き、セルをマージしないという点です。
- ・ タブ区切りテキスト形式では、値の間にタブ文字が配置され、レポートの書式設定が保持されます。カンマ区切り値形式では、値の間に指定された文字が配置され、書式設定は保持されません。
- ・ Microsoft Word (97-2003) 形式では、グラフィックを含め、できるだけ多くの書式設定が維持されます。各オブジェクトは、個別のテキストフィールドに表示されます。Microsoft Word: 編集可能形式では、ほとんどの書式設定が維持されません。テキストは行内に表示され、イメージはテキストとともに行内に配置されます。リッチ テキスト形式は、Microsoft Word (97-2003) 形式に類似した形式です。

Crystal レポートを特定の形式にスケジュールするために設定しなければならないオプションの詳細については、74 ページの「[Crystal レポートの追加の書式設定オプション](#)」および『SAP Crystal Reports ユーザガイド』のエクスポートに関する節を参照してください。

公開形式

指定できるパブリケーション形式の詳細については、106 ページの「[指定可能な形式](#)」を参照してください。

Web Intelligence ドキュメント形式

Web Intelligence ドキュメントの場合は、次の形式の中からいずれかを選択できます。

- ・ Web Intelligence
- ・ Microsoft Excel
- ・ PDF

6.2.4.2 Crystal レポートの追加の書式設定オプション

Crystal レポートをいくつかの形式にスケジュールする場合、追加のオプションの設定が必要になる場合があります。このトピックでは、追加のオプションについて、適用される形式ごとに詳しく説明します。

表 6-1: Microsoft Excel(97-2003)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none">・ レポートのすべてのページを含めるには、[すべて]を選択します。・ ページ範囲を含めるには、[開始ページ:]を選択して最初を含めるページを入力し、[終了:] フィールドに最後を含めるページを入力します。
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで定義されているエクスポートオプションを使用する場合は、このオプションを選択します。他の追加の書式設定オプションは設定できなくなります。
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none">・ レポート内のオブジェクトに基づいて Excel 列の幅を設定するには、[列幅を次のオブジェクトに合わせる]を選択し、列幅を取得するレポート領域を選択します。・ 一定の列幅を設定するには、[列幅を一定にする(ポイント単位)]を選択し、幅を入力します。
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	<ul style="list-style-type: none">・ インスタンスにページヘッダとページフッタを含めるには、[レポートごとに 1 回]または[各ページ]のどちらかでそれらをエクスポートするか選択します。・ インスタンスからページヘッダおよびページフッタを除外するには、[なし]を選択します。
ページごとにページ区切りを作成	ページ区切りを作成する場合は、このオプションを選択します。

オプション	説明
日付の値を文字列に変換する	日付値をテキスト文字列としてエクスポートするには、このオプションを選択します。
グリッドラインの表示	エクスポートしたドキュメントにグリッドラインを表示するには、このオプションを選択します。

表 6-2: Microsoft Excel (97-2003, 2007) (データのみ) および Microsoft Excel ブック (データのみ)

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで定義されているエクスポートオプションを使用する場合は、このオプションを選択します。他の追加の書式設定オプションは設定できなくなります。
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none"> レポート内のオブジェクトに基づいて Excel 列の幅を設定するには、[列幅を次のオブジェクトに合わせる:]を選択し、列幅を取得するレポート領域を選択します。 一定の列幅を設定するには、[列幅を一定にする(ポイント単位)]を選択し、幅を入力します。
オブジェクトの書式設定をエクスポートする	オブジェクトの書式設定を維持する場合は、このオプションを選択します。
画像をエクスポートする	レポート内の画像をエクスポートする場合は、このオプションを選択します。
集計にワークシートの関数を使用する	レポートで集計を使用して Excel でワークシート関数を作成するにはこのオプションを選択します。
オブジェクトの相対位置を維持する	別のオプションと相対的なオブジェクトの位置を維持する場合は、このオプションを選択します。
列の配置を維持する	レポートのテキスト幅の列の配置を維持する場合は、このオプションを選択します。
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	インスタンスにヘッダおよびフッタを含める場合は、このオプションを選択します。

オプション	説明
ページヘッダを簡略化する	ページヘッダを簡略化する場合は、このオプションを選択します。
グループのアウトラインを表示する	グループのアウトラインを表示する場合は、このオプションを選択します。

表 6-3: Microsoft Word (97-2003)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> レポートのすべてのページを含めるには、[すべて]を選択します。 ページ範囲を含めるには、[開始ページ:]を選択して最初を含めるページを入力し、[終了:] フィールドに最後を含めるページを入力します。

表 6-4: PDF

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> レポートのすべてのページを含めるには、[すべて]を選択します。 ページ範囲を含めるには、[開始:]を選択して最初を含めるページを入力し、[終了:]フィールドに最後を含めるページを入力します。
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで定義されているエクスポートオプションを使用する場合は、このオプションを選択します。他の追加の書式設定オプションは設定できなくなります。
グループツリーからブックマークを作成	レポートの構造に基づいて PDF ファイルにブックマークを作成する場合は、このオプションを選択します。これにより、レポート内での移動が簡単になります。

表 6-5: リッチ テキスト形式 (RTF)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> レポートのすべてのページを含めるには、[すべて]を選択します。 ページ範囲を含めるには、[開始ページ:]を選択して最初を含めるページを入力し、[終了:] フィールドに最後を含めるページを入力します。

表 6-6: Microsoft Word – 編集可能(RTF)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポートのすべてのページを含めるには、[すべて]を選択します。 ・ ページ範囲を含めるには、[開始:]を選択して最初に含めるページを入力し、[終了:]フィールドに最後に含めるページを入力します。
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで定義されているエクスポートオプションを使用する場合は、このオプションを選択します。他の追加の書式設定オプションは設定できなくなります。
レポートのページごとに改ページする	レポートのページごとに RTF ファイルにページ区切りを挿入する場合は、このオプションを選択します。

表 6-7: テキスト

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで定義されているエクスポートオプションを使用する場合は、このオプションを選択します。他の追加の書式設定オプションは設定できなくなります。
インチあたりの文字数	インチあたりに含める文字数として 8 ～ 16 の値を入力します。この設定では、テキストファイルの表示方法と書式設定方法を制御します。

表 6-8: ページ区切り付きテキスト

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで定義されているエクスポートオプションを使用する場合は、このオプションを選択します。他の追加の書式設定オプションは設定できなくなります。
1 ページあたりの行数	ページ区切り間に含めるテキストの行数を入力します。
インチあたりの文字数	インチあたりに含める文字数として 8 ～ 16 の値を入力します。この設定では、テキストファイルの表示方法と書式設定方法を制御します。

表 6-9: カンマ区切り値 (CSV)

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで定義されているエクスポートオプションを使用する場合は、このオプションを選択します。他の追加の書式設定オプションは設定できなくなります。
囲み文字	囲み文字として使用する文字を入力します。
区切り文字	区切り文字の値として使用する文字を入力するか、[タブ]を選択します。
モード	標準モードかレガシー モードを選択します。標準モードでは、インスタンスに含めるレポートセクション、ページ セクション、およびグループ セクションを選択できます。レガシー モードでは、これらのオプションを設定できません。
レポートセクションとページ セクション	標準モードを選択した場合は、レポートセクションとページ セクションをエクスポートするかどうかを指定します。エクスポートする場合は、それらを分離するかどうかも指定します。
グループ セクション	標準モードを選択した場合は、グループ セクションをエクスポートするかどうかを指定します。エクスポートする場合は、それらを分離するかどうかも指定します。

表 6-10: XML

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで定義されているエクスポートオプションを使用する場合は、このオプションを選択します。他の追加の書式設定オプションは設定できなくなります。
XML エクスポート形式	使用する XML エクスポート形式を選択します。

6.2.5 出力先を指定する

オブジェクトのインスタンスは、コンピュータまたはネットワークの特定の出力先、ファイルのデフォルトの保存場所、電子メール、または FTP に送信するようにスケジュールできます。管理者がオブジェクトに特定の出力先を指定している場合は、この出力先オプションが表示されます。この出力先のフィールドを更新するか、別の出力先が選択できます。このような出力先では、追加情報の入力が必要になる場合があります。

注

選択可能な出力先は、システム管理者が有効化した出力先、および付与されているユーザ権限によって異なります。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスで、出力先オプションを表示します。
たとえば、Crystal レポートの場合は、[出力先] をクリックします。
- 2 送信先を選択します。
たとえば、Crystal レポートの場合は、[出力先] 一覧から出力先を選択します。
- 3 インスタンスのコピーを保存する場合は、[履歴にインスタンスを保持する] を選択します。
- 4 該当の場所でデフォルト設定を使用する場合は、[Job Server のデフォルト値を使用する] を選択します。
- 5 必要に応じて他のスケジュールパラメータを設定し、[スケジュール] をクリックします。

関連項目

- ・ 80 ページの[出力先オプション](#)
- ・ 73 ページの[使用可能な形式](#)

6.2.5.1 出力先の場所

BI プラットフォームのオブジェクトとパブリケーションは、次の出力先の場所にスケジュール、送信、または公開できます。

- ・ デフォルトの Enterprise の場所

このオプションを選択すると、インスタンスが BI プラットフォームのデフォルトの保存場所 (Output File Repository Server) に保存されます。

- ・ BI 受信ボックス

このオプションでは、指定に従って Output File Repository Server および BI 受信ボックスにインスタンスが保存されます。

- ・ [Job Server のデフォルト値を使用する] オプションを選択した場合、インスタンスのコピーは Job Server に設定された BI 受信ボックスに保存されます。
- ・ [Job Server のデフォルト値を使用する] オプションを選択しない場合は、インスタンスを保存する BI 受信ボックスを指定できます。

- ・ ファイルの場所

このオプションでは、Output File Repository Server および指定されたファイルの保存場所にインスタンスが保存されます。

- ・ [Job Server のデフォルト値を使用する] オプションを選択した場合、インスタンスのコピーは Job Server に設定されたアンマネージドディスクの場所に保存されます。
- ・ [Job Server のデフォルト値を使用する] オプションを選択しない場合、インスタンスのコピーは指定したファイルの場所に保存されます。
- ・ FTP サーバ
このオプションでは、Output File Repository Server および指定された FTP サーバにインスタンスが保存されます。
 - ・ [Job Server のデフォルト値を使用する] オプションを選択した場合、インスタンスのコピーは Job Server に設定された FTP サーバに保存されます。
 - ・ [Job Server のデフォルト値を使用する] オプションを選択しない場合は、インスタンスを保存する FTP サーバを指定できます。
- ・ 電子メール受信者
このオプションでは、Output File Repository Server および指定された電子メール受信者にインスタンスが保存されます。
 - ・ [Job Server のデフォルト値を使用する] オプションを選択した場合、インスタンスのコピーは Job Server に設定された電子メール受信者に電子メールで送信されます。
 - ・ [Job Server のデフォルト値を使用する] オプションを選択しない場合は、インスタンスのコピーを電子メールで送信する受信者を指定できます。

注

[デフォルトの Enterprise の場所] 以外のオプションを選択し、Job Server のデフォルト値オプションを使用する場合は、保存場所が管理者によって適切な Job Server に既に設定されている必要があります。詳細については、SAP ヘルプポータル (<http://help.sap.com>) にある、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

6.2.5.2 出力先オプション

出力先にスケジュールしているオブジェクトに対してオプション (BI 受信ボックスでインスタンスを受信するユーザの名前、電子メール受信者のアドレス、インスタンスをアップロードする FTP サーバなど) を設定する場合は、選択した出力先に応じて異なる出力先情報を入力する必要があります。

注

これらの出力先は、スケジューリングジョブを実行するサーバで設定する必要があります。導入している環境でこれらの出力先が設定されているかどうかについては、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者に確認してください。

表 6-11: BI 受信ボックス

オプション	説明
選択した受信者	[利用可能な受信者] 一覧からユーザまたはグループを選択し、[>]をクリックしてユーザまたはグループを [選択した受信者] 一覧に追加します。
ターゲット名	<ul style="list-style-type: none"> BI プラットフォームでインスタンスの名前が自動的に生成されるようにするには、[自動で生成された名前を使用する] を選択します。 特定のファイル名を使用するには、[指定の名前を使用する] を選択して、フィールドに名前を入力します。 <p>ヒント 特定のファイル名を使用する場合、フィールドの横にある一覧から名前に含める変数を選択できます。変数はボックスのテキストに追加されます。使用可能な変数は、オブジェクトのタイトル、ID、所有者、日時、電子メールアドレス、および名前です。</p>
送信者の名前	<ul style="list-style-type: none"> インスタンスへのショートカットを受信者に送信するには、[ショートカット] を選択します。 受信者にインスタンスのコピーを送信するには、[コピー] を選択します。

表 6-12: ファイルシステム

オプション	説明
ディレクトリ	インスタンスを送信するディレクトリへのパスを入力します。
ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> BI プラットフォームでインスタンスの名前が自動的に生成されるようにするには、[自動で生成された名前を使用する] を選択します。 特定のファイル名を使用するには、[指定の名前を使用する] を選択して、フィールドに名前を入力します。 <p>ヒント 特定のファイル名を使用する場合、フィールドの横にある一覧から名前に含める変数を選択できます。変数はボックスのテキストに追加されます。使用可能な変数は、オブジェクトのタイトル、ID、所有者、日時、電子メールアドレス、および名前です。</p>
ユーザ名	ファイルの場所へのアクセスに必要なユーザ名を入力します。
パスワード	ファイルの場所へのアクセスに必要なパスワードを入力します。

表 6-13: FTP サーバ

オプション	説明
ホスト	FTP サーバを入力します。
ポート	FTP へのアクセスに使用するポートを入力します。デフォルトのポート番号は 21 です。
ユーザ名	FTP サーバへのアクセスに必要なユーザ名を入力します。
パスワード	FTP サーバへのアクセスに必要なパスワードを入力します。
Account	必要に応じて、FTP サーバへのアクセスに必要なアカウントを入力します。
ディレクトリ	インスタンスを送信するディレクトリへのパスを入力します。
ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> BI プラットフォームでインスタンスの名前が自動的に生成されるようにするには、[自動で生成された名前を使用する] を選択します。 特定のファイル名を使用するには、[指定の名前を使用する] を選択して、フィールドに名前を入力します。 <p>ヒント 特定のファイル名を使用する場合、フィールドの横にある一覧から名前に含める変数を選択できます。変数はボックスのテキストに追加されます。使用可能な変数は、オブジェクトのタイトル、ID、所有者、日時、電子メールアドレス、および名前です。</p>

表 6-14: 電子メール受信者

オプション	説明
差出人	<p>返信電子メールアドレスを入力します。</p> <p>注 システム設定によっては、このフィールドを使用できない場合があります。</p> <p>ヒント 横の一覧から [差出人] フィールドに含める変数を選択できます。使用可能な変数は、オブジェクトのタイトル、ID、所有者、日時、電子メールアドレス、および名前です。</p>

オプション	説明
宛先	<p>インスタンスを送信する電子メールアドレスを入力します。複数の電子メールアドレスはセミコロンで区切ります。</p> <p>ヒント 横の一覧から [宛先] フィールドに含める変数を選択できます。使用可能な変数は、オブジェクトのタイトル、ID、所有者、日時、電子メールアドレス、および名前です。</p>
CC	<p>インスタンスのコピーを送信する電子メールアドレスを入力します。複数の電子メールアドレスはセミコロンで区切ります。</p> <p>ヒント 横の一覧から [宛先] フィールドに含める変数を選択できます。使用可能な変数は、オブジェクトのタイトル、ID、所有者、日時、電子メールアドレス、および名前です。</p>
件名	<p>電子メールの件名を入力します。</p> <p>ヒント 横の一覧から [宛先] フィールドに含める変数を選択できます。使用可能な変数は、オブジェクトのタイトル、ID、所有者、日時、電子メールアドレス、および名前です。</p>
メッセージ	<p>電子メールの本文に表示されるメッセージを入力します。</p> <p>ヒント 横の一覧からメッセージに含める変数を選択できます。使用可能な変数は、オブジェクトのタイトル、ID、所有者、日時、電子メールアドレス、および名前です。</p>
ドキュメントを添付ファイルとして配信	<p>インスタンスを添付ファイルとして電子メールに追加する場合は、このチェックボックスをオンにします。さらに、添付ファイル名を指定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> BI プラットフォームでインスタンスの名前が自動的に生成されるようにするには、[自動で生成された名前を使用する] を選択します。 特定のファイル名を使用するには、[指定の名前を使用する] を選択して、フィールドに名前を入力します。 <p>ヒント 特定のファイル名を使用する場合、フィールドの横にある一覧から名前に含める変数を選択できます。変数はボックスのテキストに追加されます。使用可能な変数は、オブジェクトのタイトル、ID、所有者、日時、電子メールアドレス、および名前です。</p>

6.2.6 レコード選択式を適用する

オブジェクトにレコードまたはグループの選択式が含まれている場合、レポートをスケジュールする前に選択式を変更できます。選択式を使用すれば、どのデータをレポートに表示するかを決定できます。また、不要なレコードを取り除いて、パフォーマンスを向上させることができます。レコード選択式の詳細については、『SAP Crystal Reports ユーザガイド』を参照してください。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスで [フィルタ] をクリックします。
- 2 必要に応じてレコードまたはグループの選択式を変更します。
- 3 必要に応じて他のスケジュールパラメータを設定し、[スケジュール] をクリックします。

6.2.7 Crystal レポートの印刷設定を設定する

Crystal レポートをスケジュールする際、生成されたオブジェクトインスタンスを印刷させるように選択することができます。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスで、[出力設定] をクリックします。
- 2 Web ビューアの印刷モードを選択します。
 - ・ レポートを PDF 形式で印刷する場合は、[常に PDF に印刷する (プレビュー)] をクリックします。
 - ・ レポートの印刷設定を使用する場合は、[Crystal Reports の基本設定に従う] をクリックします。
- 3 レポートを実行時に印刷する場合は、[スケジュール時に Crystal レポートを印刷する] チェックボックスをオンにして、以下を実行します。
 - a [通常使用するプリンタ] を選択してデフォルトのプリンタを使用するか、[プリンタの指定] を選択して適切なプリンタ情報を指定します。
 - b [部数] フィールドに印刷する部数を入力します。
 - c [ページ範囲] で、[すべて] (レポートのすべてのページを印刷する場合) を選択するか、[ページ] を選択して印刷する最初のページと最後のページを入力します。
 - d [部単位で印刷するオプションを設定] 一覧でインスタンスを部単位で印刷するかどうかを選択します。
 - e [ページの拡大縮小] 一覧で拡大縮小設定を指定します。
 - f 各ページを中央揃えにする場合は、[ページの中央揃え] を選択します。
 - g 横方向のページを用紙に合わせる場合は、[横方向のページを 1 ページに合わせる] を選択します。
- 4 [レポートのページレイアウトを設定] で、使用するレイアウトを選択します。
 - ・ [指定のプリンタ設定] を選択した場合は、使用するプリンタ設定を指定します。
 - ・ [カスタム設定] を選択した場合は、標準のレイアウト設定とカスタム レイアウト設定のどちらを使用するか指定します。カスタムレイアウト設定の場合は、使用する用紙の向きとサイズを選択します。
- 5 必要に応じて他のスケジュールパラメータを設定し、[スケジュール] をクリックします。

6.2.8 パラメータまたはプロンプトでオブジェクトをスケジュールする

パラメータによって、ユーザは情報の入力を要求されます。レポートオブジェクトの場合、この入力情報によってレポートに表示されるデータが異なります。たとえば、営業で使用するレポートには、ユーザに地域の選択を求めるパラメータを設定します。ユーザが地域を選択すると、レポートには、指定した地域の結果のみが表示されます。

注

Web Intelligence ドキュメントでは、パラメータはプロンプトと呼ばれます。

パラメータは、[スケジュール] ダイアログボックスで設定することができます。スケジュールしたオブジェクトにパラメータが含まれない場合、[プロンプト] オプションは表示されません。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスで、[プロンプト] をクリックします。

注

[スケジュール] ダイアログボックスでのパラメータオプションの表示は、どのようにパラメータフィールドが作成されたかによって、オブジェクトごとに異なります。プログラムオブジェクトでは、代わりに[引数]フィールドが表示されることがあります。

- 2 必要に応じてパラメータ値を変更します。

Crystal レポートの場合は、変更するパラメータの値をクリックします。Web Intelligence ドキュメントの場合は、[変更] をクリックしてプロンプト値を編集します。

- 3 必要に応じてスケジュールパラメータを設定し、[スケジュール] をクリックします。

6.2.9 イベントでオブジェクトをスケジュールする

イベントベースのスケジュールを使用すると、オブジェクトをスケジュールするときにより詳細に制御できます。たとえば、指定したイベントが発生した後にのみオブジェクトが実行されるように、システムを設定できます。イベントに関する作業は、イベントの作成と、オブジェクトのスケジュールという2つの手順によって成り立ちます。一度イベントを作成すれば、オブジェクトをスケジュールする際にそれを依存関係として選択できます。これにより、スケジュールされたジョブは、イベントの発生時にのみ処理されます。

オブジェクトをスケジュールするときに、セントラル管理コンソール (CMC) でイベントを作成してから、BI 起動パッドでイベントを選択します。イベントの作成や CMC の詳細については、SAP ヘルプポータル (<http://help.sap.com>) にある、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスで [イベント] をクリックします。
- 2 スケジュールされたオブジェクトを発生させるイベントを指定するには、[利用可能なイベント] リストでイベントを選択してから、[>] をクリックして [待機するイベント] リストに移動します。

- 3 スケジュールされたジョブの終了時に発生させるイベントを指定するには、スケジュールされたイベントを [利用可能なイベント] リストで選択してから、[>] をクリックして [完了時に発生させるイベント] リストに移動します。
- 4 必要に応じてその他のスケジュールオプションを設定し、[スケジュール] をクリックします。
イベントのスケジュールの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム ユーザーガイド』の「オブジェクトのスケジュール」の章を参照してください。

6.2.10 スケジューリングサーバグループを設定する

オブジェクトをスケジュールする場合は、システムがオブジェクトを実行するために使用するサーバグループを選択できます。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスで、[スケジューリングサーバグループ] をクリックします。
- 2 必要なスケジューリングサーバグループオプションを選択します。
 - ・ 最初に見つかった利用可能なサーバを使用する
これはデフォルトオプションです。BI プラットフォームは、スケジュール時に空きリソースが最も多いサーバを使用します。
 - ・ 選択したグループに所属するサーバを優先して使用する
リストからサーバグループを選択します。このオプションでは、サーバグループ内にあるサーバでオブジェクトを処理するよう試みます。指定したサーバが使用できない場合、オブジェクトは次の利用可能なサーバで処理されます。
 - ・ 選択したグループに所属するサーバだけを使用する
このオプションを使用すると、BI プラットフォームは選択したサーバグループ内の指定したサーバのみを使用します。サーバグループのすべてのサーバが使用できない場合、オブジェクトは処理されません。
- 3 BI プラットフォームのデプロイメント環境でフェデレーションを使用し、オブジェクトが配置されているサイトでオブジェクトを実行する場合は、[元のサイトで実行] を選択します。
- 4 必要に応じて他のスケジュールパラメータを設定し、[スケジュール] をクリックします。

6.2.11 Web Intelligence ドキュメントのキャッシュ形式を選択する

注

キャッシュオプションを選択するには、そのオブジェクトの出力形式として Web Intelligence を指定する必要があります。これ以外の形式を選択した場合には、指定したキャッシュオプションが無効になります。

スケジュールされた Web Intelligence ドキュメントをシステムが実行する際には、インスタンスが生成され、Output File Repository Server に保存されます。また、ドキュメントのキャッシュ形式を選択することにより、適切な Report

Server にレポートをキャッシュすることもできます。キャッシュ形式を選択しない場合、ドキュメントはキャッシュされません。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスで、[キャッシュ] をクリックします。
- 2 キャッシュを事前ロードする際に使用する形式を選択します。
- 3 キャッシュを事前ロードする際に使用するロケールを選択します。

ドキュメントをスケジュールする場合、BI プラットフォームは指定したロケールにキャッシュされたドキュメントを生成します。

- 4 その他のスケジュールオプションを設定し、[スケジュール] をクリックします。

6.2.12 レポートインスタンスの言語を選択する

注

このタスクは、Crystal レポートのみに適用されます。

このタスクは、レポートインスタンスを異なる言語で生成する場合に実行します。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスで、[言語] をクリックします。
- 2 言語オプションを選択します。

- ・ 優先表示ロケールでレポートをスケジュール

このオプションを選択すると、基本設定で設定した優先表示ロケールに従ってレポートがスケジュールされ、そのロケールだけを使用してインスタンスが生成されます。

- ・ 複数のロケールでレポートをスケジュール

このオプションを選択すると、レポートが複数の言語でスケジュールされます。このオプションを選択した場合は、ロケールの選択も必要になります。このためには、[すべてのロケール] 一覧から [選択インスタンスロケール] 一覧にロケールを移動します。

- 3 必要に応じて他のスケジュールパラメータを設定し、[スケジュール] をクリックします。

6.3 インスタンスの一時停止および再開

必要に応じて、オブジェクトのインスタンスを一時停止して再開できます。たとえば、Job Server をメンテナンスのためにダウンさせる場合は、Job Server が実行されていないときにスケジューリングジョブが失敗しないように、スケジュールしたインスタンスを一時停止してオブジェクトを実行しないようにします。Job Server が再始動したら、このスケジュールされたオブジェクトを再開することができます。

注

一時停止と再開はスケジュールされたインスタンスにのみ適用できます。つまり、[待機]または[定期]のステータスを持つオブジェクトにのみ適用されます。

6.3.1 インスタンスを一時停止する

- 1 オブジェクトに移動し、選択します。
- 2 [その他のアクション] > [履歴] をクリックします。
[履歴] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 一時停止するスケジュール済みインスタンスを選択します。
- 4 [一時停止] をクリックします。

6.3.2 一時停止したインスタンスを再開する

- 1 オブジェクトに移動し、選択します。
- 2 [その他のアクション] > [履歴] をクリックします。
[履歴] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 再開する一時停止されているインスタンスを選択します。
- 4 [再開] をクリックします。

6.4 オブジェクトパッケージのスケジュール

オブジェクトパッケージは、他のオブジェクトまたはコンポーネントのコンテナとして機能するオブジェクトの一種です。オブジェクトパッケージは CMC でのみ作成または編集することができ、スケジュール可能なオブジェクトタイプを含むことができます。オブジェクトをオブジェクトパッケージに追加するには、必要なアクセス権を持っているユーザーが、CMC でオブジェクトをコピーして、オブジェクトパッケージに貼り付ける必要があります。オブジェクトパッケージ内のオブジェクトは、コピー元のオブジェクトとは区別され、オブジェクトパッケージのコンポーネントになります。オブジェクトパッケージをスケジュールすると、コンポーネントごとにインスタンスが作成されて、複数のオブジェクトを同時にスケジュールできます。1 つのオブジェクトパッケージの 1 つのコンポーネントを独自にスケジュールすることはできません。

オブジェクトパッケージのスケジュールは、個々のオブジェクトのスケジュールとは若干異なります。いくつかのスケジュールリングオプションをオブジェクトパッケージレベルで設定する必要があります。これらのスケジュールリングオプションは、繰り返し、出力先、イベント、およびサーバグループ設定です。その他のスケジュールオプションは、オブジェクトパッケージのコンポーネントごとに設定されます。これらのスケジュールリングオプションは、通知、データベースログオン設定、フィルタ(適用可能な場合)、形式、出力設定、パラメータ、プロンプト、または引数(適用可能な場合)です。

6.4.1 オブジェクトパッケージをスケジュールする

- 1 オブジェクトパッケージを選択し、[アクション]をクリックして、[スケジュール]を選択します。
- 2 オブジェクトに設定する場合と同様に、インスタンスのタイトル、繰り返し、出力、イベント、およびサーバグループ設定を設定します。

これらの設定の詳細については、以下のトピックを参照してください。

- ・ 70 ページの「[インスタンスのタイトルを設定する](#)」
- ・ 71 ページの「[定期スケジュールパターンを選択する](#)」
- ・ 78 ページの「[出力先を指定する](#)」
- ・ 85 ページの「[イベントでオブジェクトをスケジュールする](#)」
- ・ 86 ページの「[スケジューリングサーバグループを設定する](#)」

- 3 [コンポーネント]をクリックします。
- 4 各コンポーネントの名前をクリックし、コンポーネントごとに必要に応じて通知、データベースログオン、フィルタ、形式、印刷、キャッシュ、パラメータ/プロンプト設定を設定します。

これらの設定の詳細については、以下のトピックを参照してください。

- ・ 72 ページの「[データベースログオン情報を指定する](#)」
- ・ 84 ページの「[レコード選択式を適用する](#)」
- ・ 72 ページの「[インスタンス形式を指定する](#)」
- ・ 84 ページの「[Crystal レポートの印刷設定を設定する](#)」
- ・ 86 ページの「[Web Intelligence ドキュメントのキャッシュ形式を選択する](#)」
- ・ 85 ページの「[パラメータまたはプロンプトでオブジェクトをスケジュールする](#)」

コンポーネントへのスケジューリングパラメータの設定が完了したら [保存して閉じる] をクリックし、オブジェクトパッケージのスケジューリングページに戻って、その他のスケジューリングパラメータを設定します。


6.5 インスタンスの使用

6.5.1 オブジェクトの最新のインスタンスを表示する

Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、パブリケーション、およびオブジェクトパッケージなどのオブジェクトのインスタンスを表示できます。

- 1 オブジェクトに移動し、選択します。
- 2 [表示] > [最新のインスタンスを表示] をクリックします。

関連するビューアにオブジェクトの最新インスタンスが表示されます。

 必要な権限が与えられている場合は、レポートまたはドキュメントビューアツールバーの [最新表示] をクリックして、レポートまたはドキュメントをデータソースの最新データで最新表示できます。

関連項目

- ・ 35 ページの [オブジェクトの表示](#)

6.5.2 履歴インスタンスの表示

BI プラットフォームは、スケジュール済みのオブジェクトの実行後、オブジェクトインスタンスの履歴を保存します。履歴一覧は日付順(最新のインスタンスが最初)に並べられ、次のような情報が含まれます。

- ・ インスタンスの日時
- ・ タイトル
- ・ ステータス
- ・ 作成者
- ・ タイプ
- ・ ロケール
- ・ パラメータ

注

使用可能な情報は、表示しているオブジェクトのタイプに応じて変わります。

6.5.2.1 オブジェクトの履歴を表示する


- 1 オブジェクトに移動し、選択します。
- 2 [その他のアクション] > [履歴] をクリックします。

[履歴] ダイアログボックスが表示されます。

履歴 - Sale Revenue					
表示 ▾ 整理 ▾ Send ▾ その他のアクション ▾					
<div>   <div>1 / 1</div>  </div>					
インスタンスの日時 ▾	タイトル	ステータス	作成者	種類	ロケール
 2010/07/15 13:15	Sale Revenue	成功	Administrator	Crystal Reports	
 2010/07/15 13:14	Sale Revenue	成功	Administrator	Crystal Reports	

- 3 [インスタンスの日時]列の下にあるリンクをクリックして、オブジェクトインスタンスを表示します。

ヒント

 [インスタンスの日時]、[タイトル]、[実行者]、または[ステータス]の隣にあるじょうごアイコンをクリックすると、さまざまな基準に従ってインスタンスを並べ替え、表示できます。このアイコンは、列の見出しにマウスを置くと表示されます。

6.5.3 BI 受信トレイを空にする

BI 受信トレイからすべてのインスタンスを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメントタブで [マイドキュメント] ドロワを展開し、[受信トレイ] ノードをクリックします。
BI 受信トレイのコンテンツがリストパネルに表示されます。
- 2 [整理] > [すべてのメッセージを削除] をクリックします。
- 3 確認を求めるメッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。

ディスカッションの使用

7.1 ディスカッション

ディスカッション機能を使用すると、BI 起動パッドでレポート、ハイパーリンク、プログラム、およびその他のオブジェクトのメモを作成することができます。適切な権限のある SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームユーザは、メモを表示したり、ディスカッションスレッドにコメントを追加したりすることができます。ディスカッションスレッドは、階層形式で表される一連の関連メモです。アクセス権のあるオブジェクトに対して、ディスカッションスレッドを作成したり、ディスカッションスレッドにメモを追加したりすることができます。

注

ディスカッションを使用するには、オブジェクトとそれに関連するメモに対する表示権限があり、システム管理者が BI 起動パッドのディスカッションを有効化する必要があります。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。


7.1.1 ディスカッションを開く

各オブジェクトのディスカッションメモとスレッドは、オブジェクトの詳細パネルにあります。



- 1 ドキュメントタブの一覧パネルからオブジェクトを選択します。
- 2 [詳細] をクリックします。
詳細パネルがドキュメントタブの右側に開きます。
- 3 [ディスカッション] ドロワを展開します。
選択したオブジェクトに関連するすべてのメモとスレッドが表示されます。

7.1.2 メモを追加する

表示権限のあるオブジェクトにメモを追加できます。

- 1 ディスカッションを開きます。
- 2  [新規メッセージ] をクリックします。
- 3 [件名] フィールドに、メモの見出しを入力します。

このフィールドに入力できる文字の最大数は 255 文字です。

- 4 [メッセージ]フィールドに、メモのメッセージを入力します。
このフィールドに入力できる文字の最大数は 1,000 文字です。
- 5   必要に応じて、[重要度 - 高] または [重要度 - 低] をクリックして、メモの重要性を設定します。
- 6 [投稿]をクリックします。

関連項目

- ・ 93 ページの [ディスカッションを開く](#)

7.1.3 メモを編集する

作成したメモはいつでも編集できます。

- 1 ディスカッションを開きます。
- 2 編集するメモを選択します。
- 3 [件名] のテキストを編集し、[メッセージ] フィールドを編集します。
- 4 [投稿]をクリックします。



注

他のユーザが作成したメモや、管理権限のないディスカッションスレッド内で返信したメモは編集できません。

関連項目

- ・ 93 ページの [ディスカッションを開く](#)

7.1.4 メモに返信する

- 1 ディスカッションを開きます。
- 2 返信するメモを選択します。
+ 記号をクリックして、そのオブジェクトに関連したメモのレベルを展開します。返信の投稿は、グループ全体に行うことも、メモを投稿したユーザにのみ行うこともできます。未読のメモは太字で表示されます。
- 3  [グループに返信] または  [送信者に返信] をクリックします。
[グループに返信] を選択すると、オブジェクトに関連付けられたメモを表示する権限のあるすべてのユーザが返信を表示することができます。
- 4 [件名] の内容と [メッセージ] フィールドを編集します。


- 5 [投稿]をクリックします。

関連項目

- ・ 93 ページの[ディスカッションを開く](#)」

7.1.5 メモを削除する

作成したメモはいつでも削除できます。

- 1 ディスカッションを開きます。
- 2 削除するメモを選択します。
- 3  [削除]をクリックします。

注

他のユーザが作成したメモや、管理権限のないディスカッションスレッド内で返信したメモは削除できません。

関連項目

- ・ 93 ページの[ディスカッションを開く](#)」

公開

8.1 公開について

公開とは、Crystal レポートおよび Web Intelligence ドキュメントなどのドキュメントを多くの利用者が利用できるようにするプロセスのことです。公開することで、電子メールまたは FTP を介して自動的にレポートおよびドキュメントを配布できます。ドキュメントはディスクに保存するか、BI プラットフォームで管理して取得、表示、およびアーカイブすることができます。BI 起動パッドまたは CMC 内からは、ドキュメントを異なるユーザ（受信者）用にカスタマイズしたり、パブリケーションをスケジュールして指定した間隔で実行したり、またそのパブリケーションを BI 受信ボックスや電子メールアドレスなどに送信したりすることができます。

8.2 パブリケーションとは

パブリケーションは、不特定多数の受信者に配信するドキュメントのコレクションです。ドキュメントを配信する前に、公開者はメタデータのコレクションを使用してパブリケーションを定義します。このメタデータには、パブリケーションのソース、受信者、および適用されるパーソナライゼーションが含まれます。

パブリケーションを使用すると、組織内への情報提供をより効果的に行うことができます。

- ・ 個人またはユーザグループに個人用またはグループ用にカスタマイズしたフィルタを適用して、情報を簡単に配信できます。
- ・ イン트라ネット、エクストラネット、またはインターネット経由でパスワード保護されたポータルを使って個人またはグループに必要なビジネス情報を提供することができます。
- ・ ユーザが自分でドキュメント処理要求を送信する手間が省かれるので、データベースへのアクセスを最小限に抑えることができます。

Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメントに基づいて、さまざまな種類のパブリケーションを作成できます。

8.3 パブリケーションの概念

8.3.1 レポートバースト

公開中、ドキュメント内のデータがデータソースに対して最新表示され、パーソナライズされてから、パブリケーションが受信者に配信されます。この結合されたプロセスをレポートバーストと呼びます。パブリケーションのサイズや、対象受信者の数に応じて、いくつかのレポートバースト方法の中から選択できます。

- すべての受信者のデータベースフェッチ

このレポートバースト方法を使用すると、パブリケーションのすべてのドキュメントが一度だけ最新表示され、ドキュメントは受信者ごとにパーソナライズされて配信されます。このレポートバーストの方法では、公開者のデータソースログオン認証情報を使用して、データを最新表示します。

これは、Web Intelligence ドキュメントパブリケーションのデフォルトオプションです。このオプションは、データベースにおける公開の影響をできる限り抑える場合にも推奨されます。このオプションは、ソースドキュメントが静的ドキュメントとして配信される場合にも安全です。たとえば、Web Intelligence ドキュメントをその元の形式で受信した受信者は、ドキュメントを変更したり、他の受信者に関連するデータを表示できます。ただし、ドキュメントが PDF として配信された場合は、そのデータは安全です。

注

- このオプションは、Crystal レポートが元の形式で配信されたかどうかに関係なく、ほとんどの Crystal レポートに対して安全です。
- このオプションのパフォーマンスは、受信者数によって異なります。
- 受信者のバッチごとのデータベースフェッチ

このレポートバースト方式を使用すると、パブリケーションは最新表示され、パーソナライズされてから、受信者にバッチで配信されます。このレポートバースト方式では、公開者のデータソースログオン認証情報を使用してデータが最新表示されます。バッチは受信者に対して指定したパーソナライゼーション値に基づきます。バッチ サイズは、指定したパーソナライゼーション値に応じて異なり、設定できません。

これは、Crystal レポートパブリケーションのデフォルトオプションです。大容量のシナリオでも、このオプションが推奨されます。このオプションを使用すると、さまざまなサーバでバッチを同時に処理できるので、大量のパブリケーションに必要な処理負荷や時間を大幅に削減できます。

注

このオプションは、Web Intelligence ドキュメントでは使用できません。

- 受信者ごとのデータベース フェッチ

ドキュメント内のデータは受信者ごとに最新表示されます。たとえば、1 つのパブリケーションに受信者が 5 人いる場合、パブリケーションは 5 回最新表示されます。このレポートバースト方式では、受信者のデータソースログオン認証情報を使用してデータが最新表示されます。

このオプションは、パブリケーションをできる限り安全に配信する必要がある場合に推奨されます。

注

ユニバースまたはビジネスビューに基づく Crystal レポートは、セキュリティを最大化するために[受信者ごとのデータベースフェッチ]をサポートします。

関連項目

- ・ 136 ページの[レポートバースト方式を指定する](#)

8.3.2 配信ルール

注

この機能は、Web Intelligence ドキュメントでは使用できません。

配信ルールは、パブリケーション内のドキュメントの処理および配布方法に影響します。ドキュメントに配信ルールを設定する場合は、ドキュメント内の内容が特定の条件と一致する場合にのみパブリケーションが配信されることを指定します。配信ルールには次の 2 種類があります。

- ・ 受信者配信ルール

受信者のインスタンス内のデータが配信ルールに一致すると、そのインスタンスは受信者に配信されます。

- ・ グローバル配信ルール

指定されたドキュメント内のデータが配信ルールに一致すると、パブリケーションはすべての受信者に配信されます。

注

グローバル配信ルールに対して指定されるドキュメントは、パブリケーションで使用されている 1 つまたは複数のドキュメントと異なる場合があります。たとえば、パブリケーション内のドキュメントではなく、動的受信者ソースとして使用されるドキュメントにグローバル配信ルールを設定できます。

パブリケーションに受信者配信ルールとグローバル配信ルールが設定されている場合、グローバル配信ルールが最初に評価され、パブリケーションが処理されるかどうか決まります。パブリケーションがグローバル配信ルールに一致すると、システムによって受信者配信ルールが評価され、受信者ごとにどのインスタンスを処理および配布するかが決定されます。

配信ルールの設定方法は、公開するドキュメントの種類に応じて異なります。Crystal レポートの場合は、レポートデザイナーが Crystal レポートで作成した名前の付いたアラートに基づいて配信ルールを指定します。配信ルールは、パーソナライズされたパブリケーションにデータが含まれているかどうかに基づいて設定することもできます。

「グローバル配信ルールに一致している場合」の図は、アラートに基づくグローバル配信ルールの動作を示しています。この図の例では、グローバル配信ルールは、パブリケーション内のドキュメントに設定されています。Crystal レポートには、100,000 を超える金額に対する“売上げ”アラートが含まれています。公開者は“売上げ”アラートに基づいてグローバル配信ルールを作成し、売上げが 100,000 を超えた場合にだけ Crystal レポートがすべての受信者に配信されるようにします。この場合、配信ルールに一致すると、Crystal レポートが配信されます。

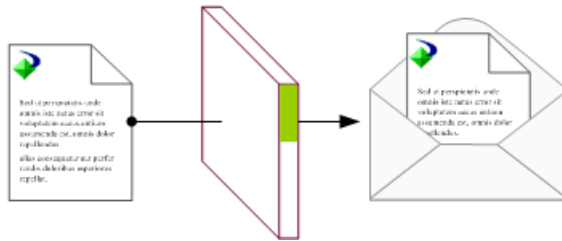


図 8-1: グローバル配信ルールに一致している場合

「受信者配信ルールに一致しない場合」の図は、受信者配信ルールの動作を示しています。公開者は、レポートに特定の受信者のデータが含まれている場合にのみレポートがその受信者に配信されるよう、Crystalレポートに受信者配信ルールを設定します。レポートが受信者ごとにパーソナライズされている場合、緑の受信者はCrystalレポートにデータを持っていません。つまり、青の受信者とオレンジの受信者だけがパブリケーションを受信します。

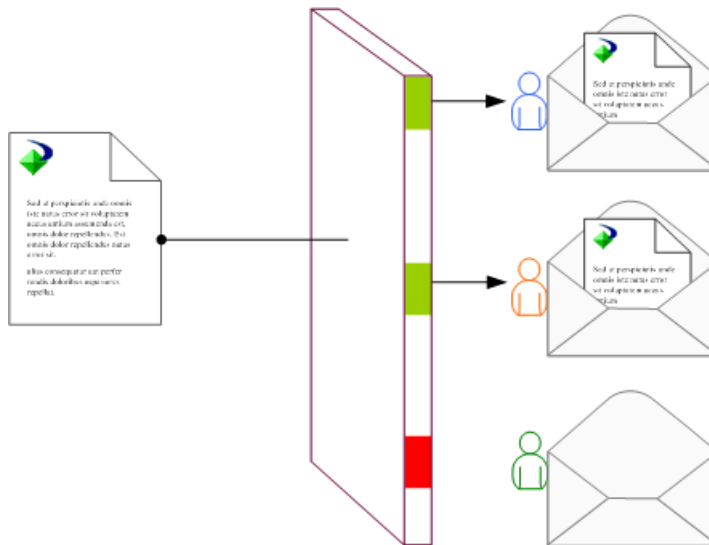


図 8-2: 受信者配信ルールに一致しない場合

複数のドキュメントおよびオブジェクトを含むパブリケーションの場合、ドキュメントごとに独自の受信者配信ルールを設定できます。これを行う場合、次の処理および配信オプションを使用できます。

- ・ パブリケーション内のあるドキュメントが、ある受信者の受信者配信ルールに一致しない場合、パブリケーション全体がその受信者に対して配信されません。
- ・ パブリケーション内のあるドキュメントが、その受信者の受信者配信ルールに一致しない場合、そのドキュメントは配信されませんが、パブリケーション内の他のドキュメントはすべてその受信者に配信されます。

配信ルールは、多くの受信者を対象とするパブリケーションを効率的に処理および配布できるので有用です。保険会社の公開者が、次のオブジェクトを含む顧客向けのパブリケーションを作成する例を考えてみます。

- ・ 保険請求書（パーソナライズされた Crystal レポート）
- ・ 月間ステートメント（パーソナライズされた Crystal レポート）
- ・ 支払方法に関するパンフレット（PDF）

保険請求書には、0 を超える金額に対して“支払額”アラートが存在します。公開者は、保険請求書に対して“支払額”受信者配信ルールを作成して、顧客が支払を行う必要がある場合にのみ保険請求書が発行および

配布されるようにします。また、公開者は、顧客が保険料を支払わない場合に月間ステートメントやパンフレットを顧客が受信しないようにする必要があるため、保険請求書が配信ルールに一致しない場合、パブリケーション全体が公開されないように指定します。パブリケーションを実行すると、パブリケーションが処理されて、支払義務のある顧客にのみ配信されます。

注

パブリケーションの実行時に Crystal レポートパブリケーションの印刷がスケジュールされている場合、パブリケーション内のドキュメントが配信ルールに一致せず、受信者に配信されない場合でも、印刷ジョブは実行されます。これは、印刷ジョブがパーソナライゼーションのときに処理され、配信ルールはパーソナライズ後のパブリケーションに適用されるからです。

関連項目

- ・ 130 ページの[Crystal レポートのグローバル配信ルールを設定する](#)」
- ・ 129 ページの[Crystal レポートの受信者配信ルールを設定する](#)」

8.3.3 動的受信者

動的受信者は、BI プラットフォーム外に存在するパブリケーション受信者です。動的受信者は、データベースや LDAP または AD ディレクトリなどの外部データソースのユーザ情報をすでに持っていますが、BI プラットフォームのユーザアカウントは持っていません。

パブリケーションを動的受信者に配布するには、動的受信者ソースを使用します。動的受信者ソースは、BI プラットフォーム以外のパブリケーション受信者に関する情報を提供するドキュメントまたはカスタムデータプロバイダです。動的受信者ソースでは、外部のデータソースに直接リンクして最新データを取得することで、動的受信者の情報を簡単に維持できます。また、動的受信者ソースを使用すると、パブリケーションを動的受信者に配布する前に動的受信者の BI プラットフォームユーザアカウントを作成する必要がないため、管理コストが削減されます。

請求元の会社が、BI プラットフォームユーザではない顧客に請求書を配布する状況を考えてみます。顧客情報は既に外部データベースに存在します。公開者は、外部データベースに基づいてドキュメントを作成し、パブリケーションの動的受信者ソースとしてドキュメントを使用します。顧客は請求パブリケーションを受信し、公開者とシステム管理者は動的受信者ソースを使用して最新の連絡先情報を管理できます。

動的受信者ソースを使用して、次のことを実行できます。

- ・ 1 つのパブリケーションを、動的受信者と BI プラットフォームユーザに同時に配布できます。

注

- ・ パブリケーションごとに 1 つの動的受信者ソースのみ使用できます。
- ・ 動的受信者はパブリケーションから自身を自動的に購読解除できません。
- ・ パブリケーションを作成するときに動的受信者の一覧をプレビューできます。
- ・ パブリケーションをすべての動的受信者に配布するか、特定の動的受信者を含めたり除外するか指定できます。
- ・ パブリケーションを電子メールや FTP サーバなどの外部の宛先に配布できます。

注

動的受信者は BI プラットフォームユーザアカウントを持たないため、BI 受信ボックスは動的受信者には無効な宛先です。

動的受信者ソースを使用するには、次の値ごとに 1 つの列を指定します。

- ・ 受信者 ID (必須)
- ・ 受信者のフルネーム
- ・ 電子メールアドレス

受信者 ID 列によって、パブリケーションを受信する動的受信者の数が決まります。動的受信者ソースは受信者 ID に従って並べ替えることをお勧めします。

SAP Crystal Reports での動的受信者ソースの作成については、『SAP Crystal Reports ユーザガイド』を参照してください。カスタムコーディングされた動的受信者ソースの作成については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Java SDK 開発者ガイド』を参照してください。

関連項目

- ・ 116 ページの[動的受信者を指定する](#)

8.3.4 出力先

出力先はパブリケーションの配信先です。出力先には、パブリケーションが格納される BI プラットフォーム内の場所、BI 受信ボックス、電子メールアドレス、FTP サーバ、およびファイルシステム上のディレクトリを指定できます。1 つのパブリケーションに複数の出力先を指定できます。

複数の Crystal レポートを公開している場合は、それらを出力先ごとに 1 つの PDF にマージすることもできます。

パブリケーションを 1 つの ZIP ファイルとして公開する場合は、出力先ごとにインスタンスを ZIP ファイルに圧縮または解凍することができます。たとえば、電子メール受信者用のインスタンスは ZIP に圧縮し、BI 受信ボックスではそれらのインスタンスを解凍した状態にしておくことができます。

関連項目

- ・ 118 ページの[パブリケーションの出力先を指定する](#)
- ・ 102 ページの[指定可能な出力先](#)
- ・ 118 ページの[動的コンテンツ ソースドキュメントを電子メールに埋め込む](#)

8.3.4.1 指定可能な出力先

出力先	説明
デフォルトの Enterprise の場所	<p>パブリケーションには、そのパブリケーションを作成したフォルダからアクセスできます。デフォルトの出力先について、次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すべての PDF ドキュメントをマージする(Crystal レポートのみ)。 ・ パブリケーションを Zip ファイルとしてパッケージ化する。 <p>注 パブリケーションをデフォルトの場所に配布するか、またはショートカットを受信者の BI 受信ボックスに配布する場合は、すべての受信者がアクセスできるフォルダをパブリケーションの場所として選択する必要があります。</p>
BI 受信ボックス	<p>パブリケーションは、受信者の BI 受信ボックスに送信されます。BI 受信ボックス出力先には、次のような選択肢があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各ユーザにオブジェクトを配信する。 ・ ターゲット名が自動生成されるようにする、名前を指定する、またはプレースホルダの一覧から適切な名前を選択する。 ・ パブリケーションをショートカットまたはコピーとして送信する。 ・ すべての PDF ドキュメントをマージする(Crystal レポートのみ)。 ・ パブリケーションを Zip ファイルとしてパッケージ化する。
電子メール	

出力先	説明
	<p>パブリケーションは、電子メールで受信者に送信されます。電子メール受信者の場合は、[差出人]フィールドに必要な情報を入力することをお勧めします。[差出人]フィールドに入力しない場合、BI プラットフォームでは、パブリッシャのアカウントに関連付けられている電子メールアドレスが使用されます。パブリッシャのアカウントに電子メールアドレスがない場合、BI プラットフォームでは、Adaptive Job Server の設定が使用されます。</p> <p>注</p> <p>[差出人] フィールド、パブリッシャのアカウント、または Adaptive Job Server で [差出人] が指定されていない場合は、パブリケーションは失敗します。</p> <p>次のような選択肢もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各ユーザにオブジェクトを配信する。 ・ [宛先]フィールドに入力する、または電子メールアドレスのプレースホルダを入力する。 ・ [Cc]フィールドに入力する。 ・ 件名を入力するか、またはこのフィールドに使用するプレースホルダを選択する。 ・ パブリケーションと一緒に配信される [メッセージ] フィールドにテキストを入力する。プレースホルダの一覧から [メッセージ] フィールドに挿入する内容や、電子メールの本文に埋め込む動的なコンテンツのドキュメントの内容を選択することもできます。 ・ ソースドキュメントのインスタンスを電子メールに添付する。 ・ 添付ファイル名が自動生成されるようにする、名前を指定する、またはプレースホルダの一覧から適切な名前を選択する。 ・ すべての PDF ドキュメントをマージする(Crystal レポートのみ)。 ・ パブリケーションを Zip ファイルとしてパッケージ化する。 <p>注</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この出力先を使用する前に、Adaptive Job Server で電子メール設定が正しく設定されていることを確認します。 ・ パブリケーションを電子メールで送信している場合は、[宛先]フィールドにプレースホルダ %\$EMAIL_ADDRESS% があり、[各ユーザにオブジェクトを配信]が選択されていることを確認してください。
FTP サーバ	

出力先	説明
	<p>FTP サーバの場合は、[ホスト]フィールドに入力します。[ホスト] フィールドに入力しない場合、Adaptive Job Server に設定されているオプションが使用されます。次のような選択肢もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポート番号、ユーザ名とパスワード、およびアカウントを指定する。 ・ ディレクトリ名を入力する。 ・ ファイル名が自動生成されるようにする、名前を指定する、またはプレースホルダの一覧名から適切な名前を選択する。[指定の名前]を選択した場合、ファイルの拡張子も追加することができます。 ・ すべての PDF ドキュメントをマージする(Crystal レポートのみ)。 ・ パブリケーションを Zip ファイルとしてパッケージ化する。
ローカルディスク	<p>出力先としてローカルディスクを選択した場合、パブリケーションのディレクトリを入力する必要があります。次のような選択肢もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各ユーザにオブジェクトを配信する。 ・ ファイル名が自動生成されるようにする、名前を指定する、またはプレースホルダの一覧名から適切な名前を選択する。名前を指定する場合は、ファイルの拡張子を選択して追加することもできます。 ・ ファイルの場所にアクセスするためのユーザ名とパスワードを入力する。 ・ すべての PDF ドキュメントをマージする(Crystal レポートのみ)。 ・ パブリケーションを Zip ファイルとしてパッケージ化する。

注

- ・ デフォルトでは、すべての出力先に対して [各ユーザにオブジェクトを配信] がオンになっています。ただし、場合によっては、各ユーザにオブジェクトを配信しないようにする場合もあります。たとえば、3 人の受信者が同一のパーソナライズ値を持っていると、各パブリケーションインスタンスの同じデータが受信されます。[各ユーザにオブジェクトを配信] をオフにした場合は、1 つのパブリケーションインスタンスが生成され、それが 3 人の受信者すべてに配信されます。[各ユーザにオブジェクトを配信] をオンにした場合は、同じパブリケーションインスタンスが 3 回(受信者ごとに 1 回ずつ)配信されます。また、パブリケーションを FTP サーバまたはローカルディスクの出力先に送信し、何人かの受信者が同じパーソナライゼーション値を持っている場合は、[各ユーザにオブジェクトを配信]を無効にすると、処理時間全体を短縮できます。
- ・ [各ユーザにオブジェクトを配信]をオフにした場合は、出力先を設定するときに使用するすべてのプレースホルダに、受信者ではなく公開者の情報が含まれます。

8.3.5 形式

形式は、パブリケーションのドキュメントを公開する際のファイルの種類を定義します。1 つのドキュメントを複数の形式で公開したり、これらのインスタンスを複数の出力先に配信することができます。複数のドキュメントを含むパブリケーションの場合、それぞれのドキュメントに異なる形式を指定できます。Web Intelligence ドキュメン

トを含むパブリケーションの場合は、ドキュメント全体またはドキュメント内の 1 つのレポートタブをさまざまな形式に公開できます。

ドキュメントに対して選択したすべての形式は、パブリケーションのすべての受信者に適用されます。たとえば、1 つのドキュメントを、ある受信者には Microsoft Excel ファイル形式で公開し、別の受信者には PDF 形式で公開することはできません。受信者がそれらの形式でインスタンスを受信する必要がある場合、受信者は、Microsoft Excel ファイルと PDF を 1 つずつ受信します。

関連項目

- ・ 122 ページの[Crystal レポートの形式を指定する」](#)
- ・ 127 ページの[Web Intelligence ドキュメントの形式を指定する」](#)

8.3.5.1 指定可能な形式

ドキュメントの種類	形式	説明
すべての種類	mHTML	ドキュメントは mHTML 形式で公開されます。ドキュメントの内容を電子メールに mHTML として埋め込むこともできます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Crystal レポートの場合は、1 つのレポートの内容を電子メールに埋め込むことができます。 ・ Web Intelligence ドキュメントの場合は、1 つのレポートタブの内容を電子メールに埋め込むことができます。
	PDF形式 (.pdf)	ドキュメントは静的な PDF として出力されます。
	Microsoft Excel ファイル (.xls)	ドキュメントは Microsoft Excel ファイルとして公開されて、ドキュメントの元の形式ができる限り保持されます。

ドキュメントの種類	形式	説明
Crystal レポート	データのための Microsoft Excel ファイル (.xls)	Crystal レポートは、データのみを含む Microsoft Excel ファイルとして公開されます。
	XML	Crystal レポートは XML 形式で公開されます。
	Crystal レポート (.rpt)	Crystal レポートは元の形式で公開されます。
	Crystal レポート読み取り専用 (.rptr)	Crystal レポートは読み取り専用形式で公開されます。
	Microsoft Word ファイル (.doc)	Crystal レポートは Microsoft Word ファイルとして公開され、Crystal レポートの元の形式が保持されます。このオプションは、受信者がパブリケーションに多くの変更を加えずに表示する場合に推奨されます。
	編集可能 Microsoft Word ファイル (.rtf)	Crystal レポートは簡単に編集できる Microsoft Word ファイルとして公開されます。このオプションは、受信者がパブリケーションを表示し、その内容を編集する場合に推奨されます。
	リッチ テキスト (.rtf)	Crystal レポートはリッチ テキスト形式で公開されます。
	テキスト (.txt)	Crystal レポートはテキスト形式で公開されます。
	ページ区切り付きテキスト (.txt)	Crystal レポートはテキスト形式で公開され、パブリケーションの内容がページで区切られます。
	タブ区切りテキスト (.txt)	Crystal レポートはテキスト形式で公開され、タブを使用して各列の内容が区切られます。
	文字区切り値 (.csv)	Crystal レポートは文字区切り値ファイルとして公開されます。
Web Intelligence ドキュメント	Web Intelligence ドキュメント (.wid)	Web Intelligence ドキュメントは元の形式で公開されます。

8.3.6 パーソナライゼーション

パーソナライゼーションとは、パブリケーションの受信者に対して関連するデータのみが表示されるように、ソースドキュメントのデータをフィルタする処理です。パーソナライゼーションはデータのビューを変更しますが、必ずしもデータソースからクエリーされたデータが変更されたり保護されるわけではありません。

図パーソナライゼーションは、この作用を示しています。パーソナライゼーションされないレポートには、データの種類 1、2、および 3 が含まれます。そのレポートにパーソナライゼーションが適用されると、ユーザは自分に関連するデータのみを受け取ります。つまり、ユーザ 2 は種類 2 のデータ、ユーザ 1 は種類 1 のデータ、ユーザ 3 は種類 3 のデータのみを受け取ります。

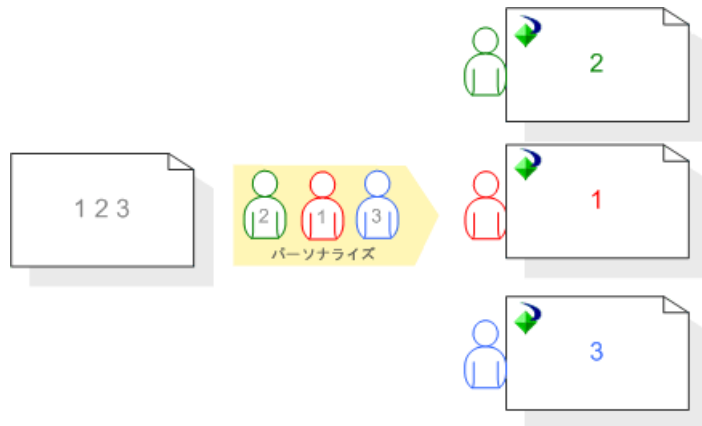


図 8-3: パーソナライゼーション

受信者に対してソースドキュメントをパーソナライゼーションすると、次のようなことができます。

- ・ 受信者が Enterprise 受信者の場合、パブリケーションを設計するときにプロファイルを適用できます。
- ・ 受信者が動的受信者の場合、ソースドキュメントのデータ フィールドまたは列を動的受信者ソースのデータにマップできます。たとえば、ソースドキュメントの“顧客 ID”フィールドを動的受信者ソースの “受信者 ID”フィールドにマップできます。

Crystal レポートパブリケーションの場合は、[パーソナライゼーション]セクションで使用されるパーソナライゼーションを指定します。パーソナライゼーションが指定されず、レポートにパラメータが含まれる場合、公開機能はパーソナライズされたパラメータ値を使用します。それらのパーソナライズされたパラメータ値が存在しない場合は、公開機能はデフォルトのパラメータ値を使用します。これらの設定のいずれも存在しない場合、受信者に対してパーソナライゼーションは行われません。

ヒント

パーソナライゼーションの完了後、パーソナライズされていないパブリケーションインスタンスを受信する受信者の一覧を表示するには、ナビゲーション一覧で [詳細] をクリックし、[パーソナライゼーションが適用されない完全なパブリケーションを受信するユーザを表示します。] を選択します。

関連項目

- ・ [120 ページの パラメータ値を使用して Crystal レポートをパーソナライズする](#)
- ・ [121 ページの フィールドをフィルタリングして Crystal レポートをパーソナライズする](#)
- ・ [127 ページの グローバルプロファイルターゲットを使用して Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズする](#)
- ・ [128 ページの フィールドをフィルタリングして、Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズする](#)

8.3.7 パブリケーション拡張

パブリケーション拡張とは、ビジネスロジックをパブリケーションに適用するコードを動的にロードしたライブラリです。パブリケーション拡張は、処理または配信後に、パブリケーションの自動カスタマイズを追加する必要がある場合に便利です。

たとえば、パブリケーション拡張を使用して、処理後に次のようなタスクを実行できます。

- ・ 同じタイプのドキュメントをマージする。たとえば、複数の Excel スプレッドシートを 1 つの Excel ワークブックにマージできます。
- ・ ドキュメントにパスワード保護を追加する、またはドキュメントを暗号化する。
- ・ ドキュメントを別の形式に変換する。
- ・ パブリケーションジョブ用のカスタムログファイルを作成する。

注

パブリケーション拡張は、CMC でのみ指定できます。BI 起動パッド でパブリケーションを作成している場合は、この機能を使用できません。

パブリケーション拡張の詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Java SDK 開発者ガイド』を参照してください。

関連項目

- ・ 133 ページの [パブリケーション拡張を指定する](#)

8.3.8 購読

パブリケーションの受信者に指定されていないユーザは、購読によって、パブリケーションの実行時にパブリケーションインスタンスを受信できます。ユーザは、パブリケーションを購読して最新のインスタンスを表示したり、パブリケーションを購読解除してパブリケーションの受信をやめたりできます。適切な権限を持っているユーザは、他のユーザの購読または購読解除を行うことができます。

パブリケーションの購読または購読解除を行うには、ユーザには次のものがが必要です。

- ・ 適切なアクセス権 (次の権限を含む)
 - ・ パブリケーションに対する表示権限
 - ・ Enterprise 受信者に対するユーザアカウントでの購読権限
- ・ BI 起動パッド または CMC へのアクセス権
- ・ BI プラットフォームのアカウント

注

動的な受信者は、自動的に購読または購読解除を行うことができません。

関連項目

- ・ 138 ページの [パブリケーションを購読または購読解除する](#)

8.3.9 Crystal レポート向け PFD のマージ

Crystal レポートの PDF インスタンスと静的 PDF ドキュメントは、受信者の利便性を高めるために 1 つの PDF にマージすることができます。PDF ファイル以外の静的ソースドキュメントは、マージされた PDF から除外されます。すべての静的 PDF ソースドキュメントは、マージされた PDF に格納されます。

マージされた PDF では、次の操作も可能です。

- ・ 目次を追加および書式設定する。
- ・ 実行中のページ番号を挿入する。
- ・ PDF の表示および編集に必要なユーザ パスワードと所有者パスワードを追加する。
- ・ 受信者が PDF で実行できる処理に対して制限を設定する。

8.4 公開に必要な権限

ロール	タスク	必要な権限
ドキュメントデザイナー	パブリケーションに基づくドキュメントを作成する。	なし
ドキュメントデザイナー	ドキュメントを BI プラットフォームに追加する。	・ ドキュメントを追加するフォルダまたはカテゴリに対する表示および追加権限
ドキュメントデザイナー	動的受信者ソースとして使用するドキュメントを作成する。	・ ドキュメントを追加するフォルダまたはカテゴリに対する表示および追加権限
Publisher	パブリケーションを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ パブリケーションが保存されるフォルダに対する追加権限 ・ 受信者となるユーザおよびグループに対する表示権限 ・ パーソナライゼーションに使用されるプロファイルに対する表示権限 ・ ドキュメントおよびパブリケーション用のその他のドキュメントに対する表示権限 ・ ドキュメントに対するスケジュール権限 ・ Enterprise 受信者に対する購読権限

ロール	タスク	必要な権限
Publisher	パブリケーションをスケジュールする。	<p>注 これらの権限は、公開者だけが持つことをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パブリケーションに対する表示、スケジュール、追加、およびセキュリティの変更権限 ・パブリケーションに対するインスタンスの削除権限 ・受信者となるユーザおよびグループに対する表示権限 ・パーソナライゼーションに使用されるプロファイルに対する表示権限 ・ドキュメントに対する表示およびスケジュール権限 ・動的受信者ソースに対する表示および最新表示権限 ・配信ルールが設定されるドキュメントに対する表示および最新表示権限 ・パブリケーションのオブジェクトで使用するすべてのユニバースに対するデータアクセス権限 ・使用されるすべてのユニバース接続に対するデータアクセス権限 ・受信者の BI 受信ボックスに対する追加および表示権限 (受信ボックスをスケジュールした場合) ・受信者に対する購読権限 ・公開者がパブリケーションインスタンスを印刷する場合は、Crystal レポートソースドキュメントに対する印刷権限 ・Enterprise 受信者に対する [他のユーザの代理としてスケジュール] 権限 ([受信者ごとのデータベースフェッチ] を使用している場合)
公開者	失敗したパブリケーションインスタンスを再試行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリケーションをスケジュールするための権限と同じ権限が必要 ・パブリケーションインスタンスに対する編集権限

ロール	タスク	必要な権限
公開者	パブリケーションインスタンスを再配布する。	<ul style="list-style-type: none"> パブリケーションに対する表示、スケジュール、追加、およびセキュリティの変更権限 受信者の BI 受信ボックスに対する追加および表示権限 パブリケーションインスタンスに対するインスタンスの表示および編集権限
受信者	パブリケーションを表示する。	<ul style="list-style-type: none"> パブリケーションに対する表示権限 パブリケーションに対するインスタンスの表示権限 <p>注 これらの権限は、BI プラットフォームでパブリケーションオブジェクトを表示するために必要です。これらの権限は、BI 受信ボックスに送信された内容を表示する場合は必要ありません。</p>
受信者	パブリケーションを購読および購読解除する。	<ul style="list-style-type: none"> パブリケーションに対する表示権限 Enterprise 受信者に対する購読権限

8.4.1 公開者と受信者: 表示する内容とアクセス権

通常、公開者（パブリケーションを所有し、スケジュールするユーザ）は、すべての受信者のすべてのパブリケーションインスタンスを表示できます。受信者は、自分用にパーソナライズされたパブリケーションインスタンスを表示できます。このアクセス権の設定では、パブリケーションをスケジュールするためのアクセス権と、公開者のみにすべてのパブリケーションインスタンスを表示するアクセス権が保留されるため、パブリケーション データのセキュリティを最大にすることができます。

ヒント

公開者が自身をパブリケーションに受信者として追加する場合は、自分用に、公開者アカウントと受信者アカウントの2つのユーザアカウントを使用します。公開者アカウントでは、パブリケーションを作成およびスケジュールするときに必要なアクセス権が付与され、受信者アカウントでは通常の受信者のアクセス権が付与されます。

パブリケーションの使用

9.1 パブリケーションのデザイン

新しいパブリケーションをデザインするには、BI プラットフォーム内の公開機能にアクセスします。公開機能には、BI プラットフォーム内の Web ベースアプリケーションへのアクセス権に応じて、セントラル管理コンソール (CMC) または BI 起動パッドでアクセスできます。

パブリケーションデザインプロセス全体に渡って、変更を保存してパブリケーションを閉じるか、再度開いて変更を加えることができます。

9.1.1 SAP BusinessObjects Live Office で使用するためのパブリケーションのデザイン

SAP BusinessObjects Live Office で使用するためのパブリケーションをデザインする場合は、次の点に注意してください。

- ・ 動的なコンテンツのドキュメントは、元の形式の Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメントでのみ構成できます。
- ・ 動的受信者はサポートされません。
- ・ 使用できる出力先オプションは、デフォルトの Enterprise の場所だけです。
- ・ 受信者がパーソナライゼーションの後に複数のパブリケーションインスタンスを受信した場合、最初のパブリケーションインスタンスだけが、SAP BusinessObjects Live Office クライアントから表示できます。この問題は、受信者がグループのメンバーシップから複数のプロファイルを継承している場合に発生する可能性があります。この問題を解決するには、受信者に明示的にプロファイル値を割り当てます。

関連項目

- ・ 107 ページの [「パーソナライゼーション」](#)

9.1.2 SAP 受信者用パブリケーションの設計

通常、SAP 受信者用パブリケーションは、Enterprise および動的受信者用のパブリケーションと同じ方法で動作します。ただし、公開ワークフローには大きな相違点が 2 つあります。

- ・ SAP 受信者用にソースドキュメントをパーソナライズする場合、[パーソナライゼーション]セクションの設定は使用しません。SAP 受信者には、BI プラットフォームの外側でユーザアカウントにマップされているプロフィール値が設定されています。この値が、SAP 受信者の組み込みのパーソナライゼーション方法として機能します。BI プラットフォームで SAP 受信者のプロフィールおよびプロフィール値を作成したり、ソースドキュメントフィールドにプロフィールをマップしたりする必要はありません。
- ・ SAP 受信者用のパブリケーションに関して機能するレポートバースト方法は、[受信者ごとのデータベースフェッチ]のみです。この方法はセキュリティを最大化し、各パブリケーション受信者のデータベースログオン認証情報を個別に処理します。

シングルサインオン設定および認証の詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

9.1.3 CMC で新しいパブリケーションを作成する

このタスクでは、CMC で公開機能にアクセスし、パブリケーションの作成を開始できます。

- 1 CMC の[フォルダ]エリアを表示します。
- 2 ツリー パネルで、パブリケーションを作成するフォルダを探します。
- 3 フォルダを選択して、その内容が詳細パネルに表示されるようにします。
- 4 [管理] > [新規] > [パブリケーション]の順にクリックします。
[新規パブリケーション]ページが表示されます。

[新規パブリケーション] ページで、ソースドキュメント、受信者、配信形式と配信先、およびドキュメントのパーソナライズ方法など、パブリケーションに必要なすべての情報を指定できます。

9.1.4 BI 起動パッドで新しいパブリケーションを作成する

このタスクでは、BI 起動パッド で公開機能にアクセスし、パブリケーションの作成を開始できます。

- 1 [ドキュメント] タブを開きます。
- 2 [フォルダ] ドロワを展開し、パブリケーションを作成するフォルダを探します。
- 3 フォルダを選択して、その内容が一覧パネルに表示されるようにします。
- 4 [新規] > [パブリケーション]をクリックします。
[新規パブリケーション]ページが表示されます。

[新規パブリケーション] ページで、ソースドキュメント、受信者、配信形式と配信先、およびドキュメントのパーソナライズ方法など、パブリケーションに必要なすべての情報を指定できます。

9.1.5 既存のパブリケーションを開く

この手順では、既存のパブリケーションを開いてそのメタデータを編集します。

- 1 パブリケーションを選択します。
 - ・ BI 起動パッドを使用している場合は、ドキュメントタブで、[フォルダ]ドロワを展開し、パブリケーションを参照します。
 - ・ CMC を使用している場合は、[フォルダ]領域に移動し、パブリケーションを参照します。
- 2 パブリケーションのプロパティを開きます。
 - ・ BI 起動パッドを使用している場合は、パブリケーションを選択し、[ビュー] > [プロパティ] をクリックします。
 - ・ CMC を使用している場合は、パブリケーションを選択し、[管理] > [プロパティ] をクリックします。

これでパブリケーションのメタデータが編集可能になりました。

9.1.6 新規パブリケーションに一般プロパティを入力する

- 1 [一般プロパティ] をクリックします。
- 2 [タイトル]フィールドに、パブリケーションのタイトルを入力します。

注

残りのパブリケーション デザイン プロセスを続行するには、タイトルを入力する必要があります。

- 3 [説明]フィールドに、パブリケーションの説明を入力します。
- 4 [キーワード]フィールドに、パブリケーションの内容に関連するキーワードを入力します。

9.1.7 ソースドキュメントを選択する

パブリケーションの一般オプションを入力したら、パブリケーションに含めるソースドキュメントを選択します。それ以降のオプションは、動的コンテンツドキュメントの種類によって異なります。

- 1 [ソースドキュメント] をクリックします。
- 2 [追加]をクリックします。
[ソースドキュメントの選択]ダイアログボックスが開きます。
- 3 パブリケーションに含めるソースドキュメントを探し、選択します。

注

動的コンテンツドキュメントは、同じドキュメントタイプである必要があります。

ヒント

Ctrl + クリックまたは Shift + クリックを使用して複数のソースドキュメントを選択するか、1 つのソースドキュメントをダブルクリックして選択します。

- 4 [OK]をクリックします。
[ソースドキュメントの選択]ダイアログボックスが閉じます。選択したソースドキュメントが[選択]一覧に表示されます。
- 5 ソースドキュメントの横にある[実行時に最新表示]チェックボックスを選択または選択解除します。
この選択によって、パブリケーションの実行時に、個々のソースドキュメントがデータソースを反映して最新表示されるかどうかが決まります。ソースドキュメントを最新表示する必要がない場合は、パブリケーションのパフォーマンスを向上させるために、そのドキュメントの[実行時に最新表示]チェックボックスをオフにすることをお勧めします。

ソースドキュメントを添付ファイルまたはマージされた PDF として送信する場合は、ドキュメントの表示順序を変更できます。順序を変更するには、[選択]一覧からドキュメントを選択し、[上へ移動]または[下へ移動]をクリックします。

9.1.8 Enterprise 受信者を選択する

Enterprise 受信者がパブリケーションを受信できるようにするには、このタスクを実行します。

- 1 [Enterprise 受信者] をクリックします。
- 2 [利用可能]領域で、受信者に含める、または受信者から除外するユーザまたはグループを探します。
 - a [ユーザー一覧] をクリックすると、BI プラットフォームの全ユーザの一覧が表示されます。[グループリスト] をクリックすると、全グループの一覧が表示されます。
 - b ユーザとグループを選択します。

ヒント

複数のユーザまたはグループを選択するには、Shift + クリックまたは Ctrl + クリックを使用します。

- 3 選択したユーザを受信者に含める場合は、それらのユーザを[選択]一覧に移動します。
- 4 選択したユーザを受信者から除外するには、それらのユーザを[除外する]一覧に移動します。

9.1.9 動的受信者を指定する

動的受信者を指定するには、動的受信者ソースがすでに作成されており、使用可能な状態であることが必要です。動的受信者ソースには受信者のデータを格納し、Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、またはカスタムコーディングされたデータプロバイダを使用できます。

カスタムコーディングされた動的受信者ソースの作成については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Java SDK 開発者ガイド』を参照してください。

ヒント

パブリケーションの処理効率を高めるには、受信者データを受信者 ID フィールドに基づいて並べ替えることをお勧めします。

BI プラットフォームユーザ以外の受信者がパブリケーションを受信できるようにする場合は、このタスクを実行します。

- 1 [動的受信者] をクリックします。
- 2 [動的受信者のソースの選択] 一覧から動的受信者ソースの形式を選択します。

注

Crystal レポート動的受信者のソースを、RPTR 形式にすることはできません。

- 3 右側の枠で、動的受信者ソースとして使用するオブジェクトを探して選択し、[OK] をクリックします。
- 4 動的受信者ソースとして Web Intelligence ドキュメントを使用する場合は、[ドキュメントのデータソース名の選択] 一覧からドキュメントに表示されるクエリを選択します。

注

動的受信者データはクエリから取得され、ドキュメントを表示すると表示されるデータと一致していない場合があります。クエリの作成方法によっては、Web Intelligence コンポーネントで作成された動的受信者ソースには、パブリケーションのソースドキュメント内のデータに対応しない値が含まれる場合があります。たとえば、レポート内のフィルタで関連の値を除外したり、クエリが重複行を取得するように設定されているために重複するレコードが表示される場合があります。パブリケーションの作成中に、動的受信者の完全な一覧を確認することをお勧めします。

- 5 [受信者の識別子] 一覧から、受信者の ID 値が含まれるフィールドを選択します。
- 6 必要に応じて、[フルネーム] 一覧から受信者のフルネームが含まれるフィールドを選択します。
- 7 パブリケーションを電子メールアドレスに配信する場合は、[電子メール] 一覧から受信者の電子メールアドレスが含まれるフィールドを選択します。
- 8 動的受信者ソース別に一覧表示された動的受信者全員にパブリケーションを配信するかどうかを決定します。
 - ・ パブリケーションを動的受信者全員に配布するには、[完全リストの使用] を選択します。
 - ・ 一部の動的受信者を含める、または除外するには、次の手順を実行します。
 - a [完全リストの使用] をオフにします。
 - b [利用可能] 一覧で、含める、または除外する受信者の横にあるチェックボックスを選択します。
 - c 選択したユーザを受信者を含める場合は、それらのユーザを[選択] 一覧に移動します。
 - d 選択したユーザを受信者から除外するには、それらのユーザを[除外する] 一覧に移動します。

パブリケーションの動的受信者を指定したら、ソースドキュメントのフィールドを動的受信者ソースの列にマップして、パブリケーションを動的受信者向けにパーソナライズできます。

関連項目

- ・ 101 ページの [動的受信者](#)
- ・ 121 ページの [フィールドをフィルタリングして Crystal レポートをパーソナライズする](#)
- ・ 128 ページの [フィールドをフィルタリングして、Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズする](#)

9.1.10 パブリケーションの出力先を指定する

- 1 [出力先] をクリックします。
- 2 [送信先の選択] 領域で、目的の出力先の横にあるチェックボックスを選択します。

ヒント

システムでパブリケーションインスタンスを保持しない場合は、パブリケーションの作成時にデフォルトの Enterprise の場所を選択解除し、パブリケーション オブジェクトに対するインスタンス制限を低く設定します。オブジェクトへのインスタンス制限の設定については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームユーザガイド』を参照してください。

- 3 [選択した出力先のオプションを表示] 一覧で、選択した出力先オプションをクリックします。
出力先のその他の設定オプションが表示されます。
- 4 追加情報を入力し、その出力先へのパブリケーションの配信をカスタマイズします。

ヒント

パブリケーションをデフォルトの Enterprise の場所と受信者の電子メールアドレスに送信している場合は、電子メールの本文に Enterprise の場所へのリンクを埋め込むことができます。それには、カーソルを[メッセージ]フィールドに置き、[メッセージ]フィールドの下にある[プレースホルダの追加] 一覧で[ビューアのハイパーリンク] をクリックします。プレースホルダ %SLVIEWER_URL% が電子メールに挿入されます。このプレースホルダは、パブリケーションが実行されるとリンクに置換されます。ただし、リンクを埋め込む場合は次の制限があることに注意してください。

- ・ 動的受信者は、BI プラットフォームアカウントを所持していないため、パブリケーションインスタンスにアクセスできません。
- ・ Enterprise 受信者がパブリケーションインスタンスを表示するには、そのパブリケーションの表示権限を所持している必要があります。

関連項目

- ・ 102 ページの[出力先](#)
- ・ 102 ページの[指定可能な出力先](#)

9.1.11 動的コンテンツ ソースドキュメントを電子メールに埋め込む

動的コンテンツドキュメントから、電子メールの本文にコンテンツを埋め込むことができます。Crystal レポートの場合は、レポートのコンテンツを埋め込むことができます。Web Intelligence ドキュメントの場合は、ドキュメント全体または 1 つのレポートタブを埋め込むことができます。

- 1 [形式] をクリックします。
[形式] セクションが表示されます。

- 2 電子メールに埋め込む動的コンテンツドキュメントを選択します。

ドキュメントの種類	選択方法
Crystal レポート	[タイトル] 一覧からレポートを選択します。
Web Intelligence ドキュメント	[ドキュメント] 一覧でドキュメントを選択します。

- 3 選択した動的コンテンツドキュメントのパブリケーション形式として、mHTML を選択します。

ドキュメントの種類	選択方法
Crystal レポート	[形式オプション] 一覧で、[mHTML] の横にあるチェックボックスを選択します。
Web Intelligence ドキュメント	[出力形式] 一覧で、[mHTML] の横にあるチェック ボックスを選択します。

- 4 Web Intelligence ドキュメントの場合は、ドキュメント全体を公開するか、ドキュメント内のレポートタブの 1 つを公開するかを選択します。
- [出力形式] 一覧の [mHTML] が強調表示されていることを確認します。
 - ドキュメント全体を公開する場合は、[すべてのレポート] が選択された状態にしておきます。単一のレポートタブを公開する場合は、[1 つのレポートを選択] をクリックし、一覧からレポートタブを選択します。
- 5 ナビゲーション一覧で [出力先] をクリックします。
[出力先] セクションが表示されます。
- 6 [送信先の選択] 領域で、[電子メール] を選択します。
- 7 [オプションの表示] 一覧で、[電子メール] をクリックします。
電子メール送信先オプションの追加の設定オプションが表示されます。
- 8 [送信元] フィールドに、名前または電子メールアドレスを入力します。
たとえば、「Robert」、「公開者」、「publisher@sap.com」などを入力できます。名前を入力すると、Publisher@emailserver のように、その名前が電子メールサーバに追加されます。
- 9 件名を [件名] フィールド、電子メールに含めるテキストを [メッセージ] フィールドにそれぞれ入力します。
- 10 ドキュメントコンテンツを埋め込む [メッセージ] フィールドにカーソルを置き、[メッセージ] フィールドの下にある [プレースホルダの追加] 一覧で [レポート HTML コンテンツ] をクリックします。
[メッセージ] フィールドに、%SI_DOCUMENT_HTML_CONTENT% と表示されます。パブリケーションが実行されると、このプレースホルダはユーザが指定した動的コンテンツドキュメントのパーソナライズ済みコンテンツに置換されます。
- 11 パブリケーションに他のソースドキュメントが含まれている場合は、[添付ファイルを追加する] が選択され、その下のオプションが正しく設定されていることを確認してください。
パブリケーションの実行時、パブリケーション内のその他のソースドキュメントは、添付ファイルとして電子メールに追加されます。

9.1.12 スケジュール情報を指定する

このタスクは、パブリケーションのスケジュール情報を指定する場合に実行します。ここで指定したスケジュール情報は、パブリケーションの実行をスケジュールするときに変更できます。

- 1 [追加オプション] を展開し、[定期] をクリックします。
- 2 [オブジェクトの実行] 一覧で、パブリケーションを実行する頻度について、定期的スケジュールのパターンを選択します。
- 3 必要に応じて、定期的スケジュールパターンの実行オプションとパラメータを設定します。

関連項目

- ・ 69 ページの [オブジェクトのスケジュール](#)
- ・ 71 ページの [定期スケジュールパターンを選択する](#)

9.1.13 Crystal レポートパブリケーションの設計タスク

9.1.13.1 パラメータ値を使用して Crystal レポートをパーソナライズする

注

このタスクを実行するには、Crystal レポートにパラメータが含まれている必要があります。

[パーソナライゼーション] セクションでは、各受信者に対して事前に定義されたパラメータ値に基づいて、受信者の Crystal レポートをパーソナライズできます。

パラメータ値に基づくパーソナライゼーションは、他のパーソナライゼーション方法で上書きされる場合があります。たとえば、プロファイルがパラメータにマップされ、Enterprise 受信者のプロファイル値がパラメータ値と競合する場合は、パブリケーションが実行されると、プロファイル値によってパラメータ値が上書きされます。同様に、動的受信者ソースの値が動的受信者のパラメータ値と競合する場合、パブリケーションが実行されるとパラメータ値は上書きされます。

注

可能な場合は、Crystal レポートをローカルプロファイルターゲットでパーソナライズすることをお勧めします。パラメータがレコード選択式、コマンド、テーブル、またはストアードプロシージャで使用される場合、パラメータベースのパーソナライゼーションでは受信者ごとにデータベースフェッチを 1 回行う必要があります。このため、パブリケーションの処理時間が増加する場合があります。

- 1 [パーソナライゼーション] をクリックします。

- 2 [パラメータ]領域で、リストされているパラメータのデフォルト値が正しいことを確認します。
デフォルト値を変更する場合は、パラメータ値の横にある[値の編集] ボタンをクリックします。パラメータ値を選択または入力し、[OK]をクリックします。
- 3 デフォルトのパラメータのパーソナライゼーションを、Enterprise 受信者のプロファイル値で上書きする場合は、[Enterprise 受信者のマッピング]列の一覧からプロファイルを選択します。

注

- ・ このオプションは、お使いのパブリケーションが Enterprise 受信者向けの場合にのみ表示されます。
 - ・ デフォルトのパラメータ値のみを使用してレポートをパーソナライズする場合は、[Enterprise 受信者のマッピング] を [すべての受信者のデフォルト値・] に設定することをお勧めします。
- 4 デフォルトのパラメータのパーソナライゼーションを動的受信者のパーソナライゼーション値で上書きする場合は、[動的受信者のマッピング]列の一覧から動的受信者ソースの列を選択します。

注

- ・ このオプションは、お使いのパブリケーションが動的受信者向けの場合にのみ表示されます。
- ・ デフォルトのパラメータ値のみを使用してレポートをパーソナライズする場合は、[動的受信者のマッピング]を[指定なし]に指定することをお勧めします。

9.1.13.2 フィールドをフィルタリングして Crystal レポートをパーソナライズする

Crystal レポートのフィールドをフィルタリングして Crystal レポートをパーソナライズする場合は、このタスクを実行します。フィルタを使用すると、ViewTime 選択式がレポートに追加され、データがフィルタリングされます。この式は、パブリケーションが実行され、レポートに保存されていない場合に適用されます。Crystal レポートでは、複数のフィールドをフィルタリングできます。

注

- ・ 静的な値のプロファイル値は、Crystal レポートの文字列フィールドだけをフィルタ処理できます。他の種類のフィールドをフィルタ処理する場合は、式のプロファイル値を使用します。不適切なタイプのフィールドをプロファイルにマップすると、パーソナライゼーションは失敗します。
- ・ この機能は、RPTR 形式の Crystal レポートでは使用できません。

- 1 [パーソナライゼーション] をクリックします。
- 2 [フィルタ]領域で、[レポートフィールド]列の一覧から Crystal レポートフィールドを選択します。
使用可能なフィールドの一覧には、メイン レポートまたは非オンデマンド型サブレポートのすべてのデータベースフィールドおよび繰り返し式が含まれています。
- 3 [Enterprise 受信者のマッピング]列の一覧からプロファイルを選択します。
この設定により、レポートフィールドが Enterprise 受信者に定義されたプロファイル値にマップされます。

注

このオプションは、お使いのパブリケーションが Enterprise 受信者向けの場合にのみ表示されます。

- 4 [動的受信者のマッピング]列の一覧から動的受信者ソースの列を選択します。
この設定により、レポートフィールドが対応する値を持つ動的受信者ソースの列にマップされます。

注

このオプションは、お使いのパブリケーションが動的受信者向けの場合にのみ表示されます。

- 5 フィルタリング対象の各レポートフィールドに対し、手順 2 ～ 4 を繰り返します。

関連項目

- ・ 107 ページの[パーソナライゼーション](#)

9.1.13.3 Crystal レポートの形式を指定する

- 1 [形式] をクリックします。
- 2 [ドキュメント] 一覧から Crystal レポートを選択します。
[形式オプション]が表示され、選択した Crystal レポートのパブリケーション形式を選択できます。
- 3 [形式オプション] 一覧で、目的の受信者の横にあるチェックボックスを選択します。
形式が選択されます。
- 4 [形式オプション] 一覧で、指定した形式名をクリックします。

注

形式オプションによっては、次の手順が適用されない場合があります。

追加オプションが表示され、形式をカスタマイズできます。一部のオプションについては、122 ページの[「Crystal レポート形式向けの追加カスタマイズオプション」](#)を参照してください。

- 5 ソースドキュメントに定義されているデフォルトのエクスポートオプションを使用するには、[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]が選択された状態にしておきます。それ以外の場合は、[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]をオフにします。
 - 6 追加情報を入力し、選択した形式の表示をカスタマイズします。
 - 7 Crystal レポートを公開する各形式に対し、手順 4 ～ 6 を繰り返します。
- 終了後、パブリケーションの各 Crystal レポートに対し、手順 2 ～ 7 を繰り返す必要があります。

関連項目

- ・ 105 ページの[形式](#)
- ・ 106 ページの[指定可能な形式](#)

9.1.13.3.1 Crystal レポート形式向けの追加カスタマイズオプション

ここでは、追加カスタマイズオプションを使用できる形式を示します。

Microsoft Excel(97-2003)

次のオプションは、Excel ファイル形式で公開される Crystal レポートに使用できます。

- ・ ページ範囲

[すべて]をクリックすると、レポート全体を Excel ファイル形式で公開できます。特定のレポートページを公開するには、[ページ] をクリックし、[公開元] および [公開先] フィールドにページ範囲の数字を入力します。

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]をオフにすると、次のオプションも使用できます。

- ・ 列幅の設定

[列幅を次のオブジェクトに合わせる]をクリックし、一覧からオプションを選択すると、レポートのオブジェクトの列幅を定義できます。[列幅を一定にする(ポイント単位)]をクリックし、フィールドに数値を入力すると、すべての列に一定の列幅を定義できます。

- ・ ページヘッダとページフッタをエクスポートする

一覧からオプションを選択して、Excel ファイルでのヘッダとフッタの表示頻度を設定できます。

- ・ ページごとにページ区切りを作成

このオプションを選択すると、レポートのページ区切りを反映するページ区切りを作成できます。

- ・ 日付の値を文字列に変換する

このオプションを選択すると、データ値をテキスト文字列に変換できます。

- ・ グリッドラインの表示

このオプションを選択すると、Excel ファイルにグリッドラインを表示できます。

Microsoft Excel(97-2003) (データのみ)

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]をオフにすると、次のオプションを使用できます。

- ・ 列幅の設定

[列幅を次のオブジェクトに合わせる]をクリックして、レポートのオブジェクトに相対的な列幅を定義し、隣接する一覧からオプションを選択します。または、[列幅を一定にする(ポイント単位)]をクリックして、すべての列に一定の列幅を定義し、隣接するフィールドに数値を入力します。

- ・ オブジェクトの書式設定をエクスポートする

オブジェクトの書式設定を維持するには、このオプションを設定します。

- ・ 画像をエクスポートする

Excel ファイルでレポート画像を公開するには、このオプションを選択します。

- ・ 集計にワークシートの関数を使用する

レポートの集計を使用して Excel ファイルのワークシート関数を作成するには、このオプションを選択します。

- ・ オブジェクトの相対位置を維持する

レポートオブジェクトの相対位置を維持するには、このオプションを選択します。

- ・ 列の配置を維持する

レポートの列の配置を維持するには、このオプションを選択します。

- ・ ページヘッダとページフッタをエクスポートする
Excel ファイルにヘッダとフッタを含めるには、このオプションを選択します。
- ・ ページヘッダを簡略化する
ページヘッダを簡略化する場合は、このオプションを選択します。
- ・ グループのアウトラインを表示する
レポートのグループ アウトラインを表示するには、このオプションを選択します。

Microsoft Excel ワークブックデータのみ

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] をオフにすると、Excel 2007 ファイル形式で公開する Crystal レポートに次のオプションを使用できます。

- ・ 列幅の設定
[列幅を次のオブジェクトに合わせる]をクリックして、レポートのオブジェクトに相対的な列幅を定義し、隣接する一覧からオプションを選択します。または、[列幅を一定にする(ポイント単位)]をクリックして、すべての列に一定の列幅を定義し、隣接するフィールドに数値を入力します。
- ・ オブジェクトの書式設定をエクスポートする
オブジェクトの書式設定を維持するには、このオプションを設定します。
- ・ 画像をエクスポートする
Excel ファイルでレポート画像を公開するには、このオプションを選択します。
- ・ 集計にワークシートの関数を使用する
レポートの集計を使用して Excel ファイルのワークシート関数を作成するには、このオプションを選択します。
- ・ オブジェクトの相対位置を維持する
レポートオブジェクトの相対位置を維持するには、このオプションを選択します。
- ・ 列の配置を維持する
レポートの列の配置を維持するには、このオプションを選択します。
- ・ ページヘッダとページフッタをエクスポートする
Excel ファイルにヘッダとフッタを含めるには、このオプションを選択します。
- ・ ページヘッダを簡略化する
ページヘッダを簡略化する場合は、このオプションを選択します。
- ・ グループのアウトラインを表示する
レポートのグループ アウトラインを表示するには、このオプションを選択します。

Microsoft Word(97-2003)

次のオプションは、Word ファイル形式で公開される Crystal レポートに使用できます。

- ・ ページ範囲

[すべて]をクリックすると、レポート全体を Word ファイル形式で公開できます。特定のレポートページを公開するには、[ページ]をクリックし、[公開元] および [公開先] フィールドにページ範囲の数字を入力します。

PDF

次のオプションは、PDF ファイル形式で公開されるソースドキュメントに使用できます。

- ・ ページ範囲

[すべて]をクリックすると、ソースドキュメント全体を PDF ファイル形式で公開できます。特定のページを公開するには、[ページ]をクリックし、[公開先]および[公開元]フィールドにページ範囲の数字を入力します。

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]をオフにすると、次のオプションも使用できます。

- ・ グループツリーからブックマークを作成

注

目次が含まれた、マージ済みの PDF 形式で Crystal レポートを公開する場合は、このオプションを選択する必要があります。

リッチ テキスト形式 (RTF)

次のオプションは、リッチテキストファイル形式で公開される Crystal レポートに使用できます。

- ・ ページ範囲

[すべて]をクリックすると、ソースドキュメント全体を PDF ファイル形式で公開できます。特定のページを公開するには、[ページ]をクリックし、[公開先]および[公開元]フィールドにページ範囲の数字を入力します。

Microsoft Word – 編集可能 (RTF)

次のオプションは、編集可能な Word ファイル形式で公開される Crystal レポートに使用できます。

- ・ ページ範囲

[すべて]をクリックすると、レポート全体を Word ファイル形式で公開できます。特定のレポートページを公開するには、[ページ]をクリックし、[公開元] および [公開先] フィールドにページ範囲の数字を入力します。

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]をオフにすると、次のオプションも使用できます。

- ・ レポートのページごとに改ページする

このオプションを選択すると、レポートのページ区切りを反映するページ区切りを作成できます。

テキスト

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、テキストファイル形式で公開する Crystal レポートに次のオプションを使用できます。

- ・ インチあたりの文字数

値を入力し、テキストファイルに表示する 1 インチ当たりの文字数を定義します。

ページ区切り付きテキスト

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]チェックボックスをオフにすると、ページ区切り付きテキストファイル形式で公開する Crystal レポートに次のオプションを使用できます。

- ・ 1 ページあたりの行数

値を入力し、ページ区切り付きテキストファイルの各ページにおける行数を定義します。

- ・ インチあたりの文字数

値を入力し、ページ区切り付きテキストファイルに表示する 1 インチあたりの文字数を定義します。

カンマ区切り値 (CSV)

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]をオフにすると、カンマ区切り値ファイル形式で公開する Crystal レポートに次のオプションを使用できます。

- ・ 囲み文字

囲み文字として使用する文字を入力します。

- ・ 区切り文字

値を区切るために使用する文字を入力するか、[タブ]を選択します。

- ・ モード

標準モードかレガシー モードを選択します。標準モードでは、CSV 出力におけるレポート ページとグループ ヘッダ およびフッタの表示方法を制御できます。標準モードはデフォルトのオプションです。

- ・ レポートセクションとページ セクション

この領域のオプションを使用して、レポートおよびページ セクションをエクスポートするかどうか、また、これらのセクションを切り離すかどうかを設定します。

- ・ グループ セクション

この領域のオプションを使用して、グループ セクションをエクスポートするかどうか、また、切り離すかどうかを設定します。

XML

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]をオフにすると、XML 形式で公開する Crystal レポートに次のオプションを使用できます。

- ・ XML エクスポート形式

一覧からオプションを選択して、XML 形式を指定します。

9.1.14 Web Intelligence ドキュメントパブリケーションの設計タスク

9.1.14.1 Web Intelligence ドキュメントの形式を指定する

- 1 [形式] をクリックします。
 - 2 [ドキュメント]一覧でドキュメントを選択します。
 - 3 [出力形式]一覧で、ドキュメントを公開する形式を 1 つまたは複数選択します。
 - 4 [出力形式]一覧の形式オプションが強調表示された状態にし、[出力形式の詳細]領域で、ドキュメント全体またはドキュメント内の 1 つのレポートタブのいずれを公開するかを選択します。
 - ・ ドキュメント全体を公開する場合は、[すべてのレポート]が選択された状態のままにしておきます。
 - ・ 1 つのレポートタブを公開する場合は、[1 つのレポートを選択]をクリックし、一覧からレポートタブを選択します。
 - 5 ドキュメントを公開する形式ごとに、手順 4 を繰り返します。
- 1 つのドキュメントに対してこのタスクを完了したら、パブリケーションのその他の動的コンテンツ ソースドキュメントに対して手順 2 ～ 5 を繰り返す必要があります。

9.1.14.2 グローバルプロファイルターゲットを使用して Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズする

注

このパーソナライゼーションオプションを使用するには、指定するプロファイルにグローバルプロファイルターゲットがある必要があります。

[パーソナライゼーション]セクションの[グローバル プロファイル]領域では、グローバル プロファイル ターゲットをフィルタリングすることで、Web Intelligence ドキュメントを Enterprise 受信者用にパーソナライズできます。

ヒント

[グローバルプロファイル]領域でパーソナライゼーションオプションを使用する場合、[フィルタ]領域でパーソナライゼーションオプションを使用する必要はありません。

- 1 [パーソナライゼーション] をクリックします。
- 2 [グローバルプロファイル]領域で、[Enterprise 受信者のマッピング]列の一覧からプロファイルを選択します。

この設定により、ドキュメントが、Enterprise 受信者でフィルタリングされたユニバースフィールド (グローバルプロファイルターゲット) にマップされます。

関連項目

- ・ 107 ページの [パーソナライゼーション](#)

9.1.14.3 フィールドをフィルタリングして、Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズする

ドキュメントのフィールドをフィルタリングして Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズするには、このタスクを実行します。

注

静的な値のプロファイル値は、ソースドキュメントの文字列フィールドだけをフィルタ処理できます。他の種類のフィールドをフィルタ処理する場合は、式のプロファイル値を使用します。不適切なタイプのフィールドをプロファイルにマップすると、パーソナライゼーションは失敗します。

- 1 ナビゲーション一覧で[パーソナライゼーション]をクリックします。
- 2 [ローカルプロファイル]領域で、[レポートフィールド]列の一覧からフィールドを選択します。
- 3 [Enterprise 受信者のマッピング]列の一覧からプロファイルを選択します。
この設定により、レポートフィールドが Enterprise 受信者に定義されたプロファイル値にマップされます。
- 4 [動的受信者のマッピング]列の一覧から動的受信者ソースの列を選択します。
この設定により、ソースドキュメントのフィールドは、対応する値を持つ動的受信者ソースの列にマップされます。
- 5 フィルタリング対象の各フィールドに対し、手順 2 ～ 4 を繰り返します。

関連項目

- ・ 107 ページの [パーソナライゼーション](#)

9.1.15 追加のパブリケーション機能の使用

この節のタスクはオプションであり、パブリケーションのデザインおよびスケジュールには必要ありません。ただし、これらのタスクを実行すると、パブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

9.1.15.1 Crystal レポートパブリケーションの追加パブリケーション機能

9.1.15.1.1 パブリケーションの Crystal レポートに印刷オプションを設定する

デフォルトのプリンタを使用する場合は、そのプリンタがインストールされ、正しく設定されていることを確認してください。

注

Crystal Reports Job Server は、指定したプリンタにアクセスする権限を持つアカウントによって実行される必要があります。詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

Crystal Reports Job Server のデフォルトプリンタまたはその他のプリンタを使用してパブリケーションを実行するたびに、Crystal レポート形式のインスタンスの印刷を選択できます。BI プラットフォームは、パブリケーションがパーソナライズされた後、それが配信される前にインスタンスを印刷します。

- 1 [追加オプション] を展開し、[出力設定] をクリックします。
- 2 [ドキュメント] 一覧で、パブリケーションの実行時に印刷する Crystal レポートを選択します。
- 3 [スケジュール時に Crystal レポートを印刷する] を選択します。
- 4 Job Server のデフォルトプリンタで印刷する場合は、[デフォルトプリンタ]を選択したままにしておきます。それ以外は、[プリンタを指定する]を選択します。
- 5 プリンタのパスと名前を入力します。
 - ・ Job Server が Windows で実行されている場合には、[プリンタを指定する]フィールドに次のように入力します。

```
¥¥printserver¥¥printername
```

ここで、printserver はプリンタ サーバの名前、printername はプリンタの名前を表します。

- ・ Job Server が UNIX で実行されている場合には、[プリンタを指定する]フィールドに、通常使用している印刷コマンドを入力します。たとえば、次のように入力します。

```
lp -d printername
```

注

(UNIX で)使用しているプリンタが非表示ではなく表示になっていることを確認してください。

- 6 印刷部数と印刷ページ範囲を選択します。
- 7 部単位の印刷およびページの縮小/拡大オプションを設定します。
- 8 レポートのコンテンツをページ中央に配置するには、[ページの中央揃え]を選択します。
- 9 Crystal レポートの幅が広く、印刷時にレポートをページの大きさに合わせるには、[横方向のページを 1 ページに合わせる]を選択します。

9.1.15.1.2 Crystal レポートの受信者配信ルールを設定する

受信者配信ルールでは、処理およびパーソナライゼーションの後、各受信者にパブリケーションを配信するかどうかを決定します。

- 1 [追加オプション] を展開し、[配信ルール] をクリックします。
- 2 [受信者配信ルール]領域で、[条件に一致するときに個々のドキュメントを配信する]または[すべての条件が一致する場合のみすべてのドキュメントを配信する]をクリックします。
- 3 各レポートの横にある一覧で、パブリケーションを配信する場合に一致すべき条件を指定します。

配信ルールデフォルト設定を次の表に示します。レポートにアラートが含まれる場合は、アラート値に基づくオプションも使用できます。

配信ルールオプション	説明
常に配信する	レポートは常に受信者に配信されます。
配信しない	レポートは受信者に配信されません。このオプションは、パブリケーション全体を再作成せずに、特定のパブリケーション実行から Crsyal レポートを除外する場合に便利です。
レポートにデータが含まれる場合のみ配信する	パーソナライゼーションの後、レポートに受信者向けのデータが含まれる場合にのみ、レポートが受信者に配信されます。このオプションは、高ボリュームのパブリケーションの処理負荷を低減する必要がある場合に便利です。

関連項目

- ・ 99 ページの[配信ルール](#)
- ・ 130 ページの[Crystal レポートのグローバル配信ルールを設定する](#)

9.1.15.1.3 Crystal レポートのグローバル配信ルールを設定する

注

グローバル配信ルールを設定する Crystal レポートには、アラートが含まれている必要があります。

グローバル配信ルールでは、パブリケーションを処理してすべての受信者に配信するかどうかを決定します。グローバル配信ルールは、BI プラットフォームの任意の Crystal レポートで設定できます。

- 1 [追加オプション] を展開し、[配信ルール] をクリックします。
- 2 [グローバル配信ルール] 領域で[参照]をクリックします。
ダイアログ ボックスが開き、グローバル配信ルールを設定する Crystal レポートを選択できます。
- 3 目的の Crystal リポートを探して選択し、[OK]をクリックします。
ダイアログ ボックスが閉じます。
- 4 [条件]一覧で、グローバル配信ルールに従ってレポートに含める必要があるアラート値を選択します。

関連項目

- ・ 99 ページの[配信ルール](#)
- ・ 129 ページの[Crystal レポートの受信者配信ルールを設定する](#)

9.1.15.1.4 マージされた PDF を書式設定する

このタスクを開始する前に、次のことを確認してください。

- ・ マージされた PDF に含める Crystal レポートにはタイトルがあります。レポートのタイトルを設定するには、SAP Crystal Reports でレポートを開き、[ファイル] > [プロパティ] を選択します。[概要]タブの[タイトル]フィールドに、レポートのタイトルを入力します。レポートを保存し、リポジトリに再エクスポートします。

- ・ [ソースドキュメント]セクションで、マージする Crystal レポートおよび PDF が正しい順序で表示されている。
- ・ [書式設定]セクションで、マージされた PDF に含める各 Crystal レポートの形式として PDF が選択されている。
- ・ [出力先]セクションで、マージされた PDF を送信する各出力先に対し、[エクスポートされた PDF をマージ]が選択されている。

[結合 PDF オプション]セクションのオプションを使用すると、Crystal レポートのパブリケーションで生成されたマージ済み PDF をカスタマイズできます。

- 1 [追加オプション]を展開し、[結合 PDF オプション]をクリックします。
- 2 マージされた PDF の目次を作成し、書式設定します。

注

この書式設定オプションを有効にするには、[形式]セクションの[ドキュメント]一覧で Crystal レポートを選択します。[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]をオフにし、[グループツリーからブックマークを作成]を選択します。これを、一覧の各 Crystal レポートで実行します。この操作をしなかった場合、マージされた PDF の目次に Crystal レポートは表示されません。

- a [目次の作成]を選択します。
目次の書式設定オプションが使用可能になります。
 - b [タイトル]フィールドに、目次のタイトルを入力します。
 - c 目次のタイトルおよび項目に使用するフォント、ポイント単位のフォントサイズ、フォントの色を設定します。
- 3 マージされた PDF のページ番号の書式設定オプションを指定します。
 - a [実行中のページ番号を適用]を選択します。
ページ番号の書式設定オプションが使用可能になります。
 - b [数値の形式]フィールドに、ページ番号の表示形式を入力します。
デフォルトでは、Page &p of &P が設定されています。この形式は変更できます。ただし、現在のページ番号のプレースホルダには &p、ページ総数のプレースホルダには &P を使用する必要があります。
 - c [数値の場所]一覧で、マージされた PDF のページ番号の向きを選択します。
 - d ページ番号に使用するフォント、ポイント単位のフォントサイズ、フォントの色を設定します。
 - e 目次にページ番号を含める場合は、[目次ページにページ番号を適用]を選択します。
 - 4 受信者のログオン認証情報と受信者アクションに関する許可を設定します。
 - a [ユーザ パスワード]フィールドに、マージされた PDF を受信者が表示する場合に必要なパスワードを入力します。
 - b [所有者パスワード]フィールドに、マージされた PDF を受信者が編集する場合に必要なパスワードを入力します。
 - c 適切なチェックボックスを選択または選択解除し、ユーザアクションの許可を設定します。
これらの許可について、次の表に示します。

オプション	説明
印刷を許可	受信者に PDF の印刷を許可するには、このオプションを選択します。
コンテンツの変更を許可	受信者に PDF の変更を許可するには、このオプションを選択します。
コピーと貼り付けを許可	受信者に PDF コンテンツのコピーと貼り付けを許可するには、このオプションを選択します。
注釈の変更を許可	受信者に PDF の注釈の変更を許可するには、このオプションを選択します。

9.1.15.1.5 Crystal レポートのデータベースログオン情報を設定する

このタスクを開始する前に、Crystal レポートのデータベース設定が適切かどうか確認することをお勧めします。CMC の[フォルダ]領域で Crystal レポートを選択し、[マージ] > [デフォルト設定] > [データベース設定]に移動し、データベース情報を確認するか、新しい情報を入力します。

場合によっては、Crystal レポートが内部的に参照するデータソース情報を修正する必要があります。その場合は、[SAP Crystal Reports] で Crystal レポートを開き、[データベース] > [データソースの保存場所の設定]に移動します。[データソースの保存場所の設定]ダイアログ ボックスで、接続を選択するか、新しい接続を作成します。

このタスクでは、受信者がデータベースにログオンしたり、Crystal レポートのデータを最新表示したりする場合に必要なデータベース ログオン情報を変更できます。

- 1 [追加オプション] を展開し、[データベースログオン] をクリックします。
- 2 [タイトル]一覧から Crystal レポートを選択します。
Crystal レポートのデータベース情報が[タイトル]一覧の下に表示されます。
- 3 [データベース サーバー]および[データベース]フィールドに表示されている情報が正しいことを確認してください。
- 4 [ユーザー]フィールドに、受信者がログオンに使用するユーザー名を入力します。
- 5 [パスワード]フィールドにパスワードを入力します。

9.1.15.2 Web Intelligence ドキュメントパブリケーションの追加パブリケーション機能

9.1.15.2.1 Web Intelligence ドキュメントのプロンプト値を変更する

注

ドキュメントには、すでにプロンプトが含まれている必要があります。

このタスクはオプションです。ユーザは、ドキュメントに含まれる定義済みプロンプト値をそのまま使用したり、プロンプト値の一覧を編集したりすることができます。

- 1 [追加オプション] を展開し、[プロンプト] をクリックします。

注

プロンプトが含まれた Web Intelligence ドキュメントだけが表示されます。

- 2 [変更] をクリックします。
[プロンプト] ダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 [値の最新表示] をクリックします。
左側に、指定可能なプロンプト値の一覧が表示されます。
- 4 プロンプト値を左側の一覧から右側の一覧に移動します。
- 5 [適用] をクリックします。
[プロンプト] ダイアログ ボックスが閉じ、プロンプト値の一覧が更新されます。

9.1.15.3 パブリケーション拡張を指定する

パブリケーション拡張を使用する前に、拡張機能が、Adaptive Processing Server が動作するマシンにデプロイされている必要があります。場所は、オペレーティングシステムによって変わります。

オペレーティングシステム	場所
Windows	INSTALL DIR¥SAP BusinessObjects¥SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0¥java¥lib¥
UNIX	INSTALLDIR/sap_bobj/enterprise_xi40/java/lib/

拡張機能が配布されたら、Adaptive Processing Server と、公開サービスをホストするその他のサーバを再起動する必要があります。

パブリケーション拡張の詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Java SDK 開発者ガイド』を参照してください。

- 1 [追加オプション] を展開し、[パブリケーション拡張] をクリックします。
- 2 [パブリケーション拡張名] フィールドに、拡張の名前を入力します。
- 3 [クラス名] フィールドに、拡張の完全修飾クラス名を入力します。
- 4 必要に応じて、[パラメータ] フィールドにパラメータを入力します。
- 5 処理の後、パブリケーションを配信する前に拡張を使用する場合は、[パブリケーション配信前] の上にある [追加] ボタンをクリックします。
拡張が [パブリケーション配信前] 一覧に追加されます。
- 6 パブリケーションの配信後に拡張を使用する場合は、[パブリケーション配信後] の上にある [追加] ボタンをクリックします。

拡張が[パブリケーション配信後]一覧に追加されます。

- 7 追加するすべての拡張に対し、それぞれ手順 2 ～ 6 を繰り返します。

ヒント

拡張の実行順序を設定するには、各一覧の下にある[上へ移動]または[下へ移動]をクリックします。

9.1.15.4 成功または失敗したパブリケーションジョブに関する電子メール通知を設定する

電子メール通知に Adaptive Job Server のデフォルトを使用する場合は、Adaptive Job Server を正しく設定する必要があります。

パブリケーションジョブの実行後に電子メール通知を受信するには、次のタスクを実行します。

注

この機能は CMC のみで使用できます。

- 1 [追加オプション] を展開し、[通知] をクリックします。
- 2 [電子メール通知:無効]を展開します。
- 3 成功したパブリケーションジョブに関する電子メール通知を受信するには、[ジョブの実行の成功]を選択し、下に表示されるオプションを設定します。
 - ・ Adaptive Job Server のデフォルトを使用するには、[Job Server のデフォルト値を使用する] をクリックします。
 - ・ ユーザ独自の設定を使用するには、[ここで使用する値を設定する]をクリックし、適切なフィールドに独自の設定を入力します。
 - ・ [差出人]フィールドに、電子メールアドレスまたは名前を入力します。
 - ・ [宛先]フィールドに、電子メールの送信先アドレスを入力します。
 - ・ [CC]フィールドに、電子メール通知を受信するユーザの電子メールアドレスを入力します。
 - ・ [件名]フィールドに、電子メールの件名を入力します。
 - ・ [メッセージ]フィールドに、電子メール通知に添付するメッセージを入力します。
- 4 失敗したパブリケーションジョブに関する電子メール通知を受信するには、[ジョブの実行の失敗]を選択し、下に表示されるオプションを設定します。
 - ・ Adaptive Job Server のデフォルトを使用するには、[Job Server のデフォルト値を使用する] をクリックします。
 - ・ ユーザ独自の設定を使用するには、[ここで使用する値を設定する]をクリックし、適切なフィールドに独自の設定を入力します。
 - ・ [差出人]フィールドに、電子メールアドレスまたは名前を入力します。
 - ・ [宛先]フィールドに、電子メールの送信先アドレスを入力します。
 - ・ [CC]フィールドに、電子メール通知を受信するユーザの電子メールアドレスを入力します。
 - ・ [件名]フィールドに、電子メールの件名を入力します。
 - ・ [メッセージ]フィールドに、電子メール通知に添付するメッセージを入力します。

9.1.15.5 パブリケーションジョブ用の監査通知を有効化する

パブリケーションジョブ用の監査通知を有効にする場合は、このタスクを実行します。監査の詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

注

この機能は CMC のみで使用できます。

- 1 [追加オプション] を展開し、[通知] をクリックします。
- 2 [監査通知:無効]を展開します。
- 3 成功したパブリケーションジョブを監査する場合は、[ジョブの実行の成功]を選択します。
- 4 失敗したパブリケーションジョブを監査する場合は、[ジョブの実行の失敗]を選択します。

9.1.15.6 イベントを指定する

イベントベースのスケジュールを使用すると、パブリケーションのスケジュールをより詳細に制御できます。たとえば、指定したイベントが発生した後にのみパブリケーションが処理されるように、イベントを設定できます。

イベントの発生後にパブリケーションジョブを実行する場合、または、パブリケーションジョブの完了時に他のイベントを呼び出す場合には、このタスクを実行します。

イベントの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームユーザガイド』を参照してください。

- 1 [追加オプション] を展開し、[イベント] をクリックします。
- 2 パブリケーションにファイルベースのカスタムイベントを指定する場合は、それらのイベントを[利用可能なイベント]一覧から[待機するイベント]一覧に移動します。
これらのイベントにより、パブリケーションジョブが起動されます。
- 3 パブリケーションにスケジュールイベントを指定する場合は、それらのイベントを[利用可能なスケジュールイベント]一覧から[完了時に発生させるイベント]一覧に移動します。
パブリケーションジョブの実行後、これらのイベントが発生します。

9.1.15.7 サーバグループオプションを設定する

特定のサーバを使用してパブリケーションを処理する場合、このタスクを実行します。サーバグループの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

注

フェデレーションのサイトをまたいでパブリケーションをスケジュールすることはできません。

- 1 [追加オプション] を展開し、[スケジューリングサーバグループ] をクリックします。
- 2 サーバグループオプションを選択します。

オプション	説明
最初に見つかった利用可能なサーバを使用する	パブリケーションジョブは、十分な処理能力を持ち、最初に見つかった利用可能なサーバによって処理されます。このオプションは、デフォルトで選択されています。 注 CMC にサーバグループが存在しない場合は、このオプションのみを使用できます。
選択したグループに所属するサーバを優先して使用する	パブリケーションジョブは、まず指定されたサーバグループのサーバを使用して試行されます。これらのサーバの処理能力が不足している場合、他のサーバグループを使用してジョブが試行されます。このオプションを選択する場合は、利用可能なサーバグループの一覧からもサーバグループを選択する必要があります。
選択したグループに所属するサーバだけを使用する	パブリケーションジョブには、指定されたサーバグループのサーバだけが使用されます。このオプションを選択する場合は、利用可能なサーバグループの一覧からもサーバグループを選択する必要があります。

9.1.15.8 プロファイルの解決方法を指定する

プロファイルの競合が発生した場合、インスタンスを個別のドキュメントとしてマージまたは配信するかどうかは、ユーザが指定したプロファイルの解決方法によって決定されます。

- 1 [追加オプション] を展開し、[詳細設定] をクリックします。
- 2 [プロファイルの解決方法] の下で、[マージする] または [マージしない] をクリックします。

9.1.15.9 レポートバースト方式を指定する

ユーザが指定したレポートバースト方式により、ソースドキュメントのパーソナライゼーション、処理、および配信方法が決定されます。

- 1 [追加オプション] を展開し、[詳細設定] をクリックします。
- 2 [レポートバースト方法] の下にあるオプションのいずれか 1 つを選択します。

注

パブリケーションが動的受信者のみを対象にしている場合、[受信者ごとのデータベースフェッチ] は使用できません。

警告

パブリケーションが以下の基準を満たしている場合は、レポートバーストの方法を慎重に選択します。

- ・ パブリケーションには BI プラットフォーム受信者向けの Web Intelligence ドキュメントが含まれます。
- ・ パーソナライゼーションに使用されるプロファイルには、フィルタ式があります。

レポートバースト方法が異なる場合は、ドキュメントのパーソナライゼーションと処理の際に異なるフィルタタイプが使用されます。[すべての受信者のデータベースフェッチ]はレポートフィルタを使用し、[受信者ごとのデータベースフェッチ]はクエリフィルタを使用します。各フィルタタイプは同様に、異なる演算子のセットをサポートします。レポートバーストの方法でサポートされない演算子をフィルタ式が使用する場合は、パブリケーションに失敗することがあります。

関連項目

- ・ 98 ページの[レポートバースト](#)」

9.2 パブリケーションのデザイン後のタスク

この節で説明するタスクはオプションであり、パブリケーション デザイン プロセスの後に実行することができます。

9.2.1 パブリケーションの最終処理

デザイン プロセス中または完了後のいずれかの時点で、[要約]ページを使用すると、パブリケーションのプロパティの要約を表示できます。[要約]ページには、パブリケーションのタイトル、場所、ソースドキュメントが表示されます。また、受信者のタイプ別、すなわち Enterprise 受信者または動的受信者のパブリケーションの受信者数、パブリケーションのパーソナライズ方法、配信形式、出力先も表示されます。

[要約] ページにアクセスするには、[要約]をクリックします。ナビゲーション一覧の他のオプションを使用して、プロパティの変更や、パブリケーションの保存およびスケジュールを実行できます。

9.2.2 パブリケーションをテストする

テスト モードを使用すると、受信者への送信前にパブリケーションを自分自身に送信し、テストすることができます。テストでは、受信者と同じ情報を受信できます。パブリケーションの受信者ではなく、ユーザの BI 受信ボックスまたは電子メールアドレスが使用されるよう、出力先は自動的に更新されます。テスト モードでは、元の受信者グループから一部の受信者を除外することもできます。

- 1 [テストモード] をクリックします。
- 2 必要に応じて Enterprise 受信者の一覧を変更します。
 - a [Enterprise 受信者] をクリックします。
 - b [電子メール受信者] の下の [宛先] フィールドに、所有している電子メールアドレスを入力します。
このフィールドは、パブリケーションが電子メール出力先向けである場合にのみ表示されます。BI プラットフォームでは、テストモード中に生成されたすべての電子メールパブリケーションインスタンスを、ここで指定した電子メールアドレスに送信します。
 - c ユーザまたはグループを [利用可能] 一覧から [選択] または [除外する] 一覧に移動します。
- 3 必要に応じて動的受信者の一覧を変更します。
 - a [動的受信者] をクリックします。
 - b [電子メール受信者] の下の [宛先] フィールドに、所有している電子メールアドレスを入力します。
このフィールドは、パブリケーションが電子メール出力先向けである場合にのみ表示されます。BI プラットフォームでは、テストモード中に生成されたすべての電子メールパブリケーションインスタンスを、ここで指定した電子メールアドレスに送信します。
 - c 受信者 ID、フルネーム、および電子メールアドレスにマップされる列が正しいことを確認します。
 - d [完全リストの使用] を選択または選択解除します。
 - e [完全リストの使用] をオフにした場合は、[利用可能] 一覧に含める、あるいは一覧から除外するユーザまたはグループを、[選択] または [除外する] 一覧に移動します。
- 4 [テスト] をクリックします。
パブリケーションがテスト モードで実行されます。

9.2.3 パブリケーションを購読または購読解除する

適切な権利を所持する受信者は、パブリケーションを購読または購読解除することができます。パブリケーションインスタンスの購読または購読解除も可能です。たとえば、パブリケーションが週 2 回実行されるようスケジューリングされている場合、受信者は最初のパブリケーションインスタンスを購読し、2 回目のインスタンスは購読しないよう指定できます。

注

動的な受信者は、自動的に購読または購読解除を行うことができません。

- 1 パブリケーションを参照し、選択します。
- 2 パブリケーションを購読する、または購読を解除するには、以下の 1 つを実行します。
 - ・ CMC を使用している場合は、[アクション] > [購読] または [アクション] > [購読解除] をクリックします。
 - ・ BI 起動パッドを使用している場合は、[その他のアクション] > [購読] または [その他のアクション] > [購読解除] をクリックします。

ヒント

パブリケーションインスタンスの購読または購読解除を行うには、CMC を使用している場合は、パブリケーションを選択して、[アクション] > [履歴] をクリックします。または、BI 起動パッドを使用している場合は、[その他のアクション]、[履歴] をクリックします。[履歴] ダイアログボックスで、インスタンスを選択し、購読または購読解除します。

9.2.4 パブリケーションの実行をスケジュールする

パブリケーションをデザインおよび保存した後、それを実行するスケジュールを設定できます。

パブリケーションをスケジュールする場合は、[定期]セクションで行った設定を使用するか、あるいは新しい設定を入力することができます。パブリケーションをスケジュールするたびに、受信者を変更することもできます。

- 1 パブリケーションデザイン ページを閉じます。
- 2 パブリケーションを選択します。
- 3 CMC を使用している場合は、[アクション] > [スケジュール] をクリックします。または、BI 起動パッドを使用している場合は、[その他のアクション] > [スケジュール] をクリックします。
- 4 定期的なスケジュールの情報が正しいことを確認します。
- 5 [スケジュール] をクリックします。
パブリケーションが指定どおり実行されます。

ヒント

実行中にパブリケーションジョブの進捗状況を表示する場合、CMC を使用している場合は、[アクション] > [履歴] をクリックします。または、BI 起動パッドを使用している場合は、[その他のアクション] > [履歴] をクリックします。[ステータス]列で、ステータス([成功]、[失敗]、[実行中])をクリックし、[パブリケーションの履歴]ダイアログボックスの下にある[ログファイルの表示]リンクをクリックします。

9.2.5 パブリケーション結果の表示

公開者によるパブリケーション結果の表示

パブリケーションの結果はさまざまな方法で表示できます。パブリケーションを実行すると、パブリケーション履歴が表示されます。パブリケーション履歴には、パブリケーションのインスタンス、実行時間、およびその成否が一覧表示されます。[インスタンスの日時]列でパブリケーションインスタンスのリンクをクリックすると、その日時にパブリケーションが実行されたときに受信者全員に対して生成されたインスタンスを表示できます。

ヒント

任意の時間にパブリケーション履歴にアクセスするには、CMC でパブリケーションを選択し、[アクション] > [履歴] または BI 起動パッドで [その他のアクション] > [履歴] に移動します。

パブリケーションジョブ用のログファイルの表示

ログファイルは、パブリケーションをトラブルシューティングしたり、パブリケーションインスタンスを受信しなかった受信者を特定する場合に便利です。BI プラットフォームでは、パーソナライズされたパブリケーションインスタンスの各バッチが処理されると、パブリケーションジョブの詳細をログに記録し、これらの詳細を1つまたは複数のログファイルにまとめます。ログファイルの最大サイズは10 MBで、この値は変更できません。多数の詳細を含む大容量のパブリケーションを実行している場合、パブリケーションインスタンスのログファイルが複数になる場合があります。

パブリケーションインスタンスのログファイルを表示するには、次の 2 つの方法があります。

- ・ 一連のログファイルの最後のログファイルを表示するには、[アクション] > [履歴] をクリックします。[ステータス] 列で、ステータス ([成功]、[失敗]、[実行中]) をクリックし、[パブリケーションの履歴] ダイアログ ボックスの下にある [ログファイルの表示] リンクをクリックします。

ヒント

この操作は、パブリケーションの実行中にも実行できます。

- ・ すべてのログファイルを表示するには、[アクション] > [履歴] をクリックします。[インスタンスの日時] 列で、パブリケーションインスタンスのリンクをクリックします。パーソナライズされたインスタンスの後にログファイルがリストされます。

ログファイルは、2 分おきに新しい詳細で更新されます。パブリケーションジョブが 2 分未満しか実行されなかった場合、ログファイルのステータスは“待機”になります。

受信者によるパブリケーション結果の表示

パブリケーションの表示方法を次の表に示します。

出力先	パブリケーション結果の表示方法
デフォルトの Enterprise の場所	<p>受信者は、自身のパーソナライズ済みパブリケーションインスタンスのみを BI プラットフォームで表示できます。他の受信者向けにパーソナライズされたパブリケーションインスタンスは表示できません。</p> <p>注 動的受信者が BI プラットフォームにログインしてパブリケーション結果を表示することはできません。</p> <ol style="list-style-type: none"> CMC を起動します。 <ul style="list-style-type: none"> Windows で、[スタート] > [すべてのプログラム] > [SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0] > [SAP BusinessObjects Enterprise] > [SAP BusinessObjects Enterprise セントラル管理コンソール] を選択します。 あるいは、お使いの Web ブラウザを開いて次のように入力します。 <code>http://servername:connectionport/CMC</code> <p>ここで、servername はお使いの CMS 名、connectionport はインストール時に指定された接続ポート番号を表します。デフォルトの接続ポート番号は 8080 です。</p> ログオン認証情報を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> [システム] フィールドで、CMS 名と CMS ポートが正しいことを確認します。 ユーザ名とパスワードを入力します。 [認証] 一覧から認証タイプを選択します。 [ログオン] をクリックします。 [フォルダ] 領域に移動し、目的のパブリケーションを探して選択します。 [アクション] > [履歴] をクリックします。 [インスタンスの日時] 列のリンクをクリックします。 表示するインスタンスをダブルクリックします。
BI 受信ボックス	

出力先	パブリケーション結果の表示方法
	<p>注 動的受信者が BI 起動パッドにログオンしてパブリケーション結果を表示することはできません。</p> <ol style="list-style-type: none"> BI 起動パッド を起動します。 <ul style="list-style-type: none"> Windows で、[スタート] > [すべてのプログラム] > [SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0] > [SAP BusinessObjects Enterprise] > [SAP BusinessObjects Enterprise Java BI 起動パッド] を選択します。 あるいは、お使いの Web ブラウザを開いて次のように入力します。 http://servername:connectionport/BOE/BI ここで、servername はお使いの CMS 名、connectionport はインストール時に指定された接続ポート番号を表します。デフォルトの接続ポート番号は 8080 です。 ログオン認証情報を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> [システム]フィールドで、CMS 名が正しいことを確認します。 ユーザ名とパスワードを入力します。 [認証]一覧から認証タイプを選択します。 [ログオン]をクリックします。 [マイ受信ボックス]をクリックします。 表示するインスタンスをダブルクリックします。
電子メール	電子メールにログオンし、埋め込まれたパブリケーションコンテンツを表示するか、添付ファイルをダウンロードします。
FTP サーバ	FTP ホストにログオンします。
ローカルディスク	パブリケーションのデザイン時に指定された場所に移動します。

9.2.6 パブリケーションインスタンスを再配布する

成功したパブリケーションインスタンスは、最初のパブリケーション実行時に指定された Enterprise 受信者および動的受信者に再配布できます。この機能は、パブリケーション全体を再実行せずに受信者にインスタンスを送信する場合に便利です。

- パブリケーションを参照し、選択します。
- CMC を使用している場合は、[アクション] > [履歴] をクリックします。または、BI 起動パッドを使用している場合は、[その他のアクション] > [履歴] をクリックします。
パブリケーションの履歴が表示されます。
- 成功したパブリケーションインスタンスを選択します。

- 4 CMC を使用している場合は、[アクション] > [再配布] をクリックします。または、BI 起動パッドを使用している場合は、[その他のアクション] > [再配布] をクリックします。
- 5 再配布されたインスタンスを受信する受信者を選択します。

注

再配布されたインスタンスを受信できるのは、パブリケーションが最初に行われたときに指定された受信者だけです。

- ・ Enterprise 受信者にインスタンスを再配布する手順は、次のとおりです。
 - a [Enterprise 受信者]を展開します。
 - b Enterprise 受信者を[利用可能]一覧から[選択]一覧に移動します。
 - ・ 動的受信者にインスタンスを再配布する手順は、次のとおりです。
 - a [動的受信者]を展開します。
 - b 受信者 ID、フルネーム、および電子メールアドレスにマップされる列が正しいことを確認します。
 - c 動的受信者全員にパブリケーションを再配布する場合は、[完全リストの使用]を選択します。それ以外の場合は、[完全リストの使用]をオフにします。
 - d 動的受信者を[利用可能]一覧から[選択]一覧に移動します。
- 6 [再配布]をクリックします。

パブリケーションの履歴が表示され、再配布の対象として選択したインスタンスのステータスが“実行中”になります。[インスタンスの日時]列に表示される日付は、再配布の日時に合わせて更新されます。

9.2.7 失敗したパブリケーションを再試行する

このタスクを開始する前に、失敗したパブリケーションインスタンスのログファイルを確認し、エラーを修正し、パブリケーションを再スケジュールすることをお勧めします。

- 1 失敗したパブリケーションインスタンスが含まれるパブリケーションを選択します。
- 2 CMC を使用している場合は、[アクション] > [履歴] をクリックします。または、BI 起動パッドを使用している場合は、[その他のアクション] > [履歴] をクリックします。

パブリケーションの履歴が表示されます。
- 3 失敗したパブリケーションインスタンスを選択します。
- 4 CMC を使用している場合は、[アクション] > [再試行] をクリックします。または、BI 起動パッドを使用している場合は、[その他のアクション] > [再試行] をクリックします。

インスタンスのステータスが“実行中”になります。

パブリケーションが再び失敗した場合は、新しいログファイルを参照し、発生したエラーを修正してください。

9.3 パブリケーションパフォーマンスの向上

この節では、パブリケーションパフォーマンスの改善とパブリケーションのトラブルシューティングのための推奨事項について説明します。

全般の推奨事項

次の作業を行うことで、パブリケーションのパフォーマンスを改善し、処理および配信をより迅速に行うことができます。

- ・ 高ボリュームの Crystal レポートパブリケーションの場合は、レポートバースト方式を[受信者のバッチごとのデータベースフェッチ]に設定し、受信者の小規模なバッチを同時に処理できるようにする。
- ・ 可能であれば、パラメータではなくフィルタを使用して Crystal レポートをパーソナライズする。
- ・ 動的コンテンツのドキュメントを、元の形式ではなく静的ドキュメント形式(PDF など)で公開することを検討する。これにより、Web Intelligence ドキュメントのパブリケーションや[すべての受信者のデータベースフェッチ]を使用するパブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

メモリ不足エラーの解決

高ボリュームのパブリケーションを実行中、`java.lang.OutOfMemoryError: 新しいネイティブ スレッドを作成できません`というエラー メッセージが表示された場合は、Adaptive Processing Server と公開サービスに、生成された公開スレッドを処理できるだけの十分なスタック メモリがないことが原因です。このエラーは、管理者がスタック メモリを Java ヒープ スペースとして指定した場合に発生する可能性があります。このエラーが発生する場合は、システム管理者に連絡してください。

9.3.1 ソースドキュメントの追加に関する推奨事項

この節では、パブリケーションに動的コンテンツドキュメントを追加する際の推奨事項について説明します。

パブリケーションログファイルを使用して、失敗したパブリケーションをトラブルシューティングする。

パブリケーションの実行をスケジュールすると、ログファイルが生成され、パブリケーションの実行時に発生したエラーが記録されます。パブリケーションインスタンスのログファイルをすべて表示するには、[アクション] > [履歴]をクリックします。[履歴]ページで、インスタンスの[インスタンスの日時]列にあるリンクをクリックします。

Crystal レポートでパラメータを使用したパーソナライゼーションを使用する場合は、パラメータをデフォルトに設定する。

パラメータ ベースのパーソナライゼーションを実行すると、パブリケーションのパフォーマンスが低下する場合があります。Enterprise 受信者のプロファイルまたは動的受信者のパーソナライゼーション値にフィールドをマップして、Crystal レポートのパブリケーションをパーソナライズすることを強くお勧めします。ただし、パラメータを使用して Crystal レポートをパーソナライズする必要がある場合は、[パーソナライゼーション]セクションのパラメータを[デフォルト]に設定します。

動的コンテンツドキュメントをパブリケーションに追加する前に、それらを表示してスケジュールする。

動的コンテンツドキュメントを正しく表示およびスケジュールできた場合は、データソース接続が正しく機能し、パブリケーションをスケジュールするときにソースドキュメントデータを最新表示できます。動的コンテンツドキュメントを正しく表示およびスケジュールできない場合は、データソース接続の設定が間違っています。設定の確認方法を次の表に示します。

ドキュメントの種類	データソース接続の設定の確認方法
Crystal レポート	CMC で Crystal レポートを選択し、[管理] > [デフォルト設定]に移動します。[デフォルト設定]ダイアログ ボックスで、ナビゲーション一覧の[データベース設定]をクリックします。
Web Intelligence ドキュメント	CMC で Web Intelligence ドキュメントを選択し、[管理] > [デフォルト設定]に移動します。[デフォルト設定]ダイアログ ボックスで、ナビゲーション一覧の[レポートユニバース]をクリックします。

場合によっては、適切なデザイナーで動的コンテンツドキュメントを開いてデータベース ソース接続を設定し、CMS リポジトリにファイルを再エクスポートして、前のコピーを上書きする必要がある場合があります。動的コンテンツドキュメントのデータソース接続の設定については、デザイナーのマニュアルを参照してください。

不必要なデータの最新表示をしない。

動的コンテンツドキュメントのデータを最新表示する必要がない場合は、[ソースドキュメント]セクションで、そのドキュメントの[実行時に最新表示]チェックボックスをオフにします。これにより、パブリケーションの全体的なパフォーマンスが向上します。

9.3.2 動的受信者ソースの使用に関する推奨事項

この節では、動的受信者ソースを使用する際の推奨事項について説明します。

動的受信者ソースは受信者 ID 列 に従って並べ替える。

一般的に、動的受信者ソースは受信者 ID 列 に従って並べ替えることをお勧めします。特に、高ボリュームのパブリケーションを実行している場合、または[受信者のバッチごとのデータベースフェッチ]を有効にしている場合は、複数のパーソナライゼーション値を持つ受信者への配信数を低減できるため、この並べ替えは重要です。

Crystal レポートの動的受信者ソースの場合は、データベースの設定情報が正しいことを確認する。

CMC で動的受信者ソースを選択し、[管理] > [デフォルト設定]に移動し、次のことを確認します。

- ・ [データベース設定]セクションで、データベースログオン情報が正しく設定されており、[レポート実行時と同じデータベースログオン情報を使用する]が選択されている。
- ・ [パラメータ]セクションで、すべてのパラメータに値が指定されており、パラメータのすべての[表示時にプロンプトを表示]チェックボックスがオフになっている。

Crystal レポートの動的受信者ソースを使用する場合は、Report Application Server(RAS)が正しく設定されていることを管理者に確認する。

RAS は、少なくとも動的受信者ソースの受信者と同数のデータベースレコードを読み込むよう設定する必要があります。たとえば、100,000 人の受信者のデータを持つ動的受信者ソースを処理するには、100,000 件以上のデータベースレコードを読み込むよう RAS を設定する必要があります。

9.3.3 電子メールのパブリケーションインスタンスの送受信に関する推奨事項

この節では、電子メールパブリケーションインスタンスに関する推奨事項について説明します。

可能であれば、電子メールパブリケーションインスタンスに埋め込まれたコンテンツを Outlook 2003 で表示する。

電子メールパブリケーションインスタンスに埋め込まれたコンテンツを Outlook 2007 や、Hotmail、Gmail などの Web 電子メールアカウントで表示すると、形式上の問題が発生する場合があります。

Destination Job Server で電子メールが正しく設定されているか管理者に確認する。

電子メールで送信するパブリケーションは、Adaptive Job Server の出力先が正しく設定されていないことが原因で失敗する場合があります。詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

アラートの使用

10.1 アラート

アラートは、さまざまなアプリケーションを対象とし、イベントがトリガされた場合のユーザおよび管理者への通知に使用される機能です。BI プラットフォームでは、ユーザと管理者がアラートを購読することができます。イベントがトリガされると、通知が購読者の電子メールアドレスまたは BI システム送信先 (BI 起動パッドアカウントなど) に送信されます。

与えられたロールと権限に応じて、アラートの処理方法は異なります。レポート作成者は、各ドキュメントデザイナーにおける新規ドキュメントの作成時にアラートを有効化するコンポーネントを設計します。ユーザはセントラル管理コンソール (CMC) または BI 起動パッドでアラートを購読し、BI 起動パッドまたは電子メールで通知を表示することができます。コンテンツ管理者とパワーユーザは、CMC または BI 起動パッドでアラートを管理します。システム管理者は、CMC でアラートアプリケーションを管理し、権限を割り当ててユーザアクセスを制御します。

アラートを使用し、例外に基づいてオブジェクトとイベントを管理することができます。オブジェクトとイベントを定期的にチェックし、変更が行われていないことを確認するのではなく、変更が行われた場合にのみ通知が行われます。

例 アラートおよび Crystal レポート

Julie は自動車保険会社で働いており、Crystal レポートを使用して提出された保険金請求を監視しています。Julie は保険金請求数アラートを購読しており、アラート通知を電子メールで受け取ることを選択しました。レポートは毎日実行されます。1 週間後、自動車保険の保険金請求数が 10,000 件に達し、アラートの条件が満たされて、イベントがトリガされました。Julie は電子メール通知を受け取り、自動車保険の保険金請求数が大幅に増加していることに気付きます。Julie はマネージャに通知し、安全運転を呼びかけるキャンペーンの開始を推奨します。

10.1.1 利用可能なアラートソース

下の表は、アラートをサポートするオブジェクトを一覧にしたもので、各オブジェクトタイプに関する追加情報が含まれています。

オブジェクト	説明
SAP Crystal Reports for Enterprise で作成された Crystal レポート	<p>Crystal レポートには、複数のアラートを含めることができます。アラートを含むレポートをリポジトリに追加すると、BI プラットフォームはレポートの各アラートに対応するイベントオブジェクトを自動的に作成します。セントラル管理コンソールでは、これらのイベントが [イベント] エリアの [Crystal Reports のイベント] フォルダで一覧にされます。また、コンテンツ検索を使用してイベントを検索することもできます。</p> <p>注</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SAP Crystal Reports for Enterprise で作成されたレポートのみがアラートをサポートし、レポートが BI プラットフォームに追加された場合にユーザがアラート通知を購読することができます。 ・ 購読するには、レポートにナビゲートして、レポートオブジェクトで購読タスクを実行します。
イベント (ファイルベース、スケジュールベース、カスタム)	任意のイベントに対して、アラートを有効化することができます。

注

- ・ モニタリングでは、アラートを使用して、システムの全体的な状態の変化をシステム管理者に通知します。モニタリングプローブに基づくアラートは、[監視イベント] フォルダの [イベント] エリアで見つけることができます。モニタリングの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』(<http://help.sap.com>) を参照してください。
- ・ Information Steward および Event Insight などのアプリケーションで作成されたオブジェクトにも、アラートが使用されます。詳細については、アプリケーションのマニュアルを参照してください。

関連項目

- ・ 152 ページの [BI 起動パッドにおけるアラートソースオブジェクトの検索](#)

10.1.2 アラートと Crystal レポートアラート通知の相違点

旧バージョンの BI プラットフォームでは、Crystal レポートのスケジュール時に Crystal レポートのアラート通知を設定することができました。BI プラットフォームは、SAP Crystal Reports で作成されたレポートについては、この機能を引き続きサポートします。下の表は、旧アラート通知機能とアラートの主な相違点をまとめたものです。

主な相違点	Crystal レポートアラート通知	アラート
サポートされるオブジェクト	SAP Crystal Reports で作成されたレポート	<ul style="list-style-type: none"> ・ SAP Crystal Reports for Enterprise で作成されたレポートのみ ・ イベント ・ モニタリングプローブ ・ Information Steward アラート ・ Event Insight アラート
サポートされる送信先	電子メールのみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ BI 起動パッドの [マイアラート] ・ 電子メール
用法	この機能は、Crystal レポートのスケジュールの設定時に設定します。すべての受信者の電子メールアドレスを、手動で入力する必要があります。受信者には、BI プラットフォームユーザと BI プラットフォームアカウントを持たないユーザを含めることができます。	アラートソースからのアラート通知を自分で購読するか、ほかのユーザを購読者として指定し、必要に応じて自分の購読を修正します。受信者には、BI プラットフォームユーザと BI プラットフォームアカウントを持たないユーザを含めることができます。ユーザの電子メールアドレスを、アカウントなしで手動で入力する必要があります。

10.1.3 アラートワークフロー

アラートワークフローには、さまざまなステップ、アプリケーション、およびユーザが関与します。

Crystal レポートのアラートワークフロー

- 1 レポート作成者が、SAP Crystal Reports for Enterprise においてアラートを含むレポートを作成します。
- 2 レポート作成者またはコンテンツ管理者が、セントラル管理コンソール (CMC) の [フォルダ] または [個人用フォルダ] エリアのフォルダに Crystal レポートを追加します。レポートが追加されると、レポートのアラートに基づいてレポートイベントオブジェクトが自動的に作成されます。
- 3 ユーザが CMC または BI 起動パッドにログオンし、Crystal レポートに移動して、アラートを購読します。
- 4 レポート作成者またはコンテンツ管理者が、Crystal レポートの実行をスケジュールします。アラート条件が満たされた場合、アラートがトリガされ、購読設定に基づいてユーザに通知が送信されます。

イベントのアラートワークフロー

- 1 コンテンツ管理者が CMC でイベントを作成し、新規イベントに対してアラートを有効化します。
- 2 ユーザが CMC の [イベント] エリアでアラートを確認するか、BI 起動パッドで名前によってアラートを検索して、アラートを購読します。
- 3 イベントが発生し、アラートがトリガされます。
- 4 イベントが発生したことを示す通知が、購読設定に基づいてユーザに送信されます。

10.1.4 アラートに必要な権限

アラートワークフローにおけるロールと責任によって、必要な権限は変化する可能性があります。下の表は、一般的なアラートタスクで必要とされる権限をまとめたものです。

表 10-2: ドキュメントアラートの処理

ロール	タスク	必要な権限
ユーザ	ドキュメントアラートの購読	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメントに対する表示権限 関連イベントに対する表示権限 ユーザ自身のアカウントに対する購読権限 <p>注 アラート通知に含まれるドキュメントリンクを使用してインスタンスを表示する場合は、ドキュメントに対するインスタンス表示権限も必要です。</p>
ユーザ	ドキュメントアラートの購読解除	<ul style="list-style-type: none"> 関連イベントに対する表示権限 ユーザ自身のアカウントに対する購読権限
ユーザ	ドキュメントアラートの通知受信	<ul style="list-style-type: none"> 関連イベントに対する表示権限 ドキュメントに対する表示権限
コンテンツ管理者	ドキュメントアラートの送信先およびパラメータ設定の管理	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメントの権限の編集 イベントの編集権限
コンテンツ管理者	ドキュメントのアラート設定の管理	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメントに対する表示および編集権限 関連イベントに対する表示および編集権限 購読者に追加されるすべてのユーザまたはグループに対する表示およびスケジュール権限 <p>注 購読者のリストにユーザグループを追加する場合、ユーザグループオブジェクトに対する表示および購読権限が必要です。グループ内の個別ユーザに対する表示および購読権限では不十分です。</p>
コンテンツ管理者	ユーザのドキュメントアラートの購読解除	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメントに対する表示権限 関連イベントに対する表示権限 ユーザに対する表示および購読権限

ロール	タスク	必要な権限
コンテンツ管理者	ドキュメントアラートのトリガ	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメントに対する表示およびスケジュール権限 関連イベントに対する表示およびトリガ権限

表 10-3: イベントアラートの処理

ロール	タスク	必要な権限
ユーザ	イベントアラートの購読	<ul style="list-style-type: none"> イベントに対する表示権限 ユーザ自身のアカウントに対する購読権限 <p>注 デフォルトでは、購読権限は個人のアカウントを持つユーザに対して付与されます。</p>
ユーザ	イベントアラートの購読解除	<ul style="list-style-type: none"> イベントに対する表示権限 ユーザ自身のアカウントに対する購読権限 <p>注 デフォルトでは、購読権限は個人のアカウントを持つユーザに対して付与されます。</p>
コンテンツ管理者	イベントのアラート設定の管理	<ul style="list-style-type: none"> イベントに対する表示および編集権限 購読者に追加されるすべてのユーザまたはグループに対する表示およびスケジュール権限 <p>注 購読者のリストにユーザグループを追加する場合、ユーザグループオブジェクトに対する表示および購読権限が必要です。グループ内の個別ユーザに対する表示および購読権限では不十分です。</p>
コンテンツ管理者	イベントのトリガ	<ul style="list-style-type: none"> イベントに対する表示およびトリガ権限

表 10-4: アラート通知の処理

ロール	タスク	必要な権限
ユーザ	アラート通知の受信	<ul style="list-style-type: none"> 関連イベントに対する表示権限
ユーザ	アラート通知の既読または未読への設定	<ul style="list-style-type: none"> アラート通知に対する表示権限 ユーザアカウントに対する購読権限

ロール	タスク	必要な権限
ユーザ	アラート通知の再読	・ アラート通知に対する表示権限
ユーザ	BI 起動パッドにおけるアラート通知の削除	・ アラート通知に対する表示権限 ・ ユーザアカウントに対する購読権限

10.2 アラートタスク

10.2.1 BI 起動パッドにおけるアラートソースオブジェクトの検索

アラートソースは、オブジェクトタイプによって表示方法が異なります。次の表は、アラートソースの格納場所をまとめたものです。

オブジェクトタイプ (アラートソース)	オブジェクトの格納場所
SAP Crystal Reports (Enterprise 向け) で作成された Crystal レポート	Crystal レポートは、個人用フォルダまたはパブリックフォルダに格納されます。レポートの格納場所に応じて、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> 個人用フォルダにある Crystal レポートを表示するには、ドキュメントタブのナビゲーションパネルで [マイドキュメント] ドロワをクリックし、[お気に入り] ノードをクリックします。リストパネルに Crystal レポートが表示されます。 パブリックフォルダにある Crystal レポートを表示するには、ドキュメントタブの [フォルダの参照] ドロワをクリックし、レポートを含むフォルダに移動します。
イベント (ファイルベース、スケジュールベース、カスタム)	アラートが有効化されたイベントは、名前で検索することができます。

ヒント

すでにアラートを購読している場合、ドキュメントタブに移動し、[マイドキュメント] ドロワを展開して、[購読済みアラート] ノードをクリックすることにより、アラートをすばやく表示することができます。

10.2.2 アラートを購読する

アラートを購読するには、このタスクを実行します。

- 1 アラートソースに移動します。

詳細については、152 ページの「[BI 起動パッドにおけるアラートソースオブジェクトの検索](#)」を参照してください。

- 2 [その他のアクション] > [購読] をクリックします。

[購読] ダイアログボックスが表示されます。

- 3 送信先を選択します。

オプション	説明
マイアラート	アラート通知をビジネスインテリジェンスシステム (BI 起動パッドなど) の送信先に送信します。
電子メール	アラート通知を BI プラットフォームのユーザアカウントに対して指定された電子メールアドレスに送信します。 注 <ul style="list-style-type: none"> 送信先は、ユーザアカウントに対して電子メールアドレスが指定されている場合にのみ使用することができます。 電子メールアドレスが有効であり、正しく入力されていることを確認します。電子メールアドレスが正しくない場合、アラート通知を受け取ることができません。

- 4 複数のアラートを含む Crystal レポートの場合、購読するアラートを選択します。

注

アラートソースによっては、追加の設定を行う必要がある場合があります。

- 5 [保存して閉じる]をクリックします。

次回アラートがトリガされると、通知が選択した送信先に送信されます。アラート通知の送信先を変更するには、ドキュメントタブで [マイドキュメント] ドロワを展開し、[購読済みアラート] ノードをクリックします。リストパネルでアラートソースを選択し、[その他のアクション] > [購読の変更] をクリックします。また、[その他のアクション] > [購読の変更] をクリックして、同じレポートの複数の Crystal レポートに対する購読の変更、または EDBI アラートのパラメータの編集を行うこともできます。

アラートソースのカスタム設定を指定しない場合、通知は、セントラル管理コンソールにおいてアラートアプリケーションに対して設定された送信先デフォルトを使用して送信されます。

10.2.3 アラートを購読解除する

このタスクは、アラートの購読を解除するために実行します。

- 1 ドキュメントタブで [マイドキュメント] ドロワを展開し、[購読済みアラート] ノードをクリックします。
- 2 購読を解除するアラートを選択します。
- 3 [その他のアクション] > [購読解除] をクリックします。
- 4 確認を求めるメッセージが表示されたら、[購読解除] をクリックします。

10.2.4 ほかのユーザをアラートの購読者として指定する

このタスクは、ほかのユーザをアラートの購読者として指定する場合に実行します。

- 1 アラートソースに移動します。
詳細については、152 ページの [「BI 起動パッドにおけるアラートソースオブジェクトの検索」](#) を参照してください。
- 2 [その他のアクション] > [購読者の管理] をクリックします。
[購読者の管理] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 ナビゲーションペインで、[受信者一覧] が選択されていることを確認します。
- 4 新しい購読者を追加するには、以下を実行します。
 - a [追加] をクリックします。
 - b [追加] ダイアログボックスで、ユーザおよびグループを [利用可能] リストから [購読済み] リストに移動させ、[デフォルト購読の追加] をクリックします。
 - c 必要に応じてその他のアラート設定を行います。
たとえば、購読するアラート (アラートソースに複数のアラートが含まれる場合) および送信先を変更することができます。アラートソースによっては、その他の設定も行うことができます。
- 5 購読者の設定を編集する場合、以下の操作を行います。
 - a [受信者一覧] で購読者を選択し、[編集] をクリックします。
[購読の編集] ダイアログボックスが表示されます。
 - b 購読者が受け取るアラートを編集する場合、ナビゲーションリストで [アラート] をクリックし、関連するアラートを選択します。
アラートソースに複数のアラートが含まれている場合、すべてのアラートがここに一覧にされます。複数のアラートが含まれていない場合は、1 つのアラートのみが表示されます。
 - c アラートの送信先を編集する場合、ナビゲーションリストで [送信先] をクリックし、関連する送信先を選択します。

電子メール送信先は、Adaptive Job Server で有効化および設定されている場合に使用することができます。それ以外の場合、[マイアラート] のみを使用することができます。

注

アラートソースによっては、追加の設定を行う必要がある場合があります。

- d [保存して閉じる] をクリックして、[受信者一覧] に戻ります。
- 6 すべての変更を実行した後、[購読者の管理] ダイアログボックスで [保存して閉じる] をクリックします。

10.2.5 ユーザをアラートから除外する

このタスクは、ユーザをアラートから除外するために実行します。

ユーザの除外は、グループの一部のユーザのみを購読者として指定する場合に有用です。購読ユーザを個別に指定するのではなく、グループ全体を購読者として指定し、アラート通知を受け取る必要がないユーザのみを除外することができます。

注

[除外する] リストに含まれると、ユーザのその他すべての購読設定が無効化されます。

- 1 アラートソースに移動します。
詳細については、152 ページの [「BI 起動パッドにおけるアラートソースオブジェクトの検索」](#) を参照してください。
- 2 [その他のアクション] > [購読者の管理] をクリックします。
[購読者の管理] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 ナビゲーションペインで [除外リスト] が選択されていることを確認します。
- 4 ユーザを [利用可能] リストから [除外する] リストに移動させます。
- 5 [保存して閉じる] をクリックします。

10.2.6 アラートソースのアラート設定を管理する

通常、通知はアラートアプリケーションに対して設定されたデフォルト送信先設定を使用して送信されます。このタスクは、アラートソースに対してカスタム設定を指定する場合に実行します。

- 1 アラートソースに移動します。
このタスクの詳細については、152 ページの [「BI 起動パッドにおけるアラートソースオブジェクトの検索」](#) を参照してください。
- 2 [その他のアクション] > [アラート設定の管理] をクリックします。
[アラート設定の管理] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 BI 起動パッドを送信先として有効化し、[マイアラートの有効化] を選択します。

このオプションを選択して、アラート通知が購読者の BI 起動パッドアカウントに送信され、購読者がアラート通知を [マイアラート] で表示できるようにすることができます。

- 4 送信先として電子メールを有効化するには、[電子メールを有効にする]を選択し、デフォルト電子メール設定とカスタム電子メール設定のどちらを使用するかを選択します。

[アプリケーション] エリアの [アラート] に対する設定がデフォルト設定です。カスタム電子メール設定については、必要に応じて以下のオプションを設定します。

- ・ 差出人
- ・ 宛先
- ・ CC
- ・ 件名
- ・ メッセージ
- ・ 添付ファイルの追加
- ・ [ファイル名] ([自動生成される名前] または [指定の名前])

- 5 [保存して閉じる]をクリックします。

10.2.7 アラート通知の表示

アラート通知は、ビジネスインテリジェンスシステム (BI 起動パッドなど) の送信先または購読者の電子メールアドレスに送信することができます。BI 起動パッドでは、アラート通知を以下の方法で表示することができます。

- ・ 管理者がホームタブをデフォルトビューに設定している場合は [未読警告] モジュールをチェックします。このモジュールには、最新の未読警告通知 10 件が一覧表示されます。
- ・ または、ドキュメントタブのナビゲーションペインで [マイドキュメント] ドロワを展開し、[マイアラート] ノードをクリックします。アラート通知がリストパネルで一覧にされます。

アラート通知の詳細を表示するには、[未読警告] アナリティクスまたはリストパネルで通知をダブルクリックします。詳細が新しいダイアログボックスで表示されます。

アプリケーションの使用

11.1 BI 起動パッドでのアプリケーションの使用

BI 起動パッドは、リポジトリとさまざまな SAP BusinessObjects アプリケーションの統合ポイントを提供します。BI 起動パッドからアプリケーションを起動し、関連するオブジェクトを作成、表示または編集して、変更または新しいオブジェクトを直接リポジトリに保存することができます。BI 起動パッドと統合されるアプリケーションには、以下があります。

- ・ BI ワークスペース
- ・ SAP Crystal Reports for Enterprise
- ・ SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP
- ・ Web Intelligence

アクセスできるアプリケーションと実行できるタスクは、システム管理者から割り当てられたライセンスの種類と権限に依存します。

11.2 BI 起動パッドでアプリケーションを起動する

- ・ ホームタブで [マイアプリケーション] モジュールのアプリケーションをクリックします。
- ・ [ヘッダ] パネルで、[アプリケーション] をクリックし、アプリケーションをクリックします。

選択したアプリケーションが新しいダイアログボックスで開きます。

11.3 BI 起動パッドでの BEx Web アプリケーション

BEx Web アプリケーションは、データ分析、レポートティンク、および Web 上の分析アプリケーションのための SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) の Business Explorer (BEx) に含まれている Web ベースのアプリケーションです。

Business Explorer は、SAP NetWeaver Business Intelligence Suite の一部で、ビジネスにおける戦略的分析および意思決定をサポートする柔軟性の高いレポートティンクおよび分析ツールを提供します。これらのツールには、クエリ、レポートティンク、および分析の機能が含まれます。アクセス権を持つ従業員は、Web 上および Microsoft Excel にある履歴データまたは現在のデータを、さまざまな詳細レベルそしてさまざまな角度から評

価することができます。ユーザは、SAP NetWeaver Portal、または BI プラットフォームの BI 起動パッドからデータにアクセスします。

BI 起動パッドから BEx Web アプリケーションを開くには、最初にシステム管理者が BI プラットフォームサーバ設定、および BW システムへの接続設定を行う必要があります。BEx Web アプリケーションの作成者は、Web 項目 (分析、フィルタ枠、チャート、マップ、ドキュメントなど) を使用して、BEx Web Application Designer で SAP NetWeaver BW から取得したデータを書式設定します。

その後、ユーザは BI 起動パッドで BEx Web アプリケーションを開いてデータをナビゲートし、BEx Web アプリケーションのナビゲート状態をブックマークとして Web ブラウザのお気に入り保存できます。

ヒント

作成者は、ツールバーの [実行] を選択することにより、BEx Web Application Designer から直接 BI 起動パッドで BEx Web アプリケーションにアクセスできます。

BEx Web アプリケーションの機能の詳細については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com>) にアクセスし、SAP Help Portal の [SAP NetWeaver 7.0 (2004s)] > [SAP NetWeaver Library] > [SAP NetWeaver By Key Capability] > [Information Integration by Key Capability] > [Business Intelligence] > [BI Suite: Business Explorer] > [BEx Web] > [Analysis & Reporting: BEx Web Applications] を参照してください。

11.3.1 BI 起動パッドで Business Explorer Web アプリケーションにアクセスする

- 1 BI 起動パッドにログインします。
- 2 以下のいずれかの方法を使用して BEx Web アプリケーションにアクセスします。
 - ・ ホームタブで [マイアプリケーション] モジュールの [BEx Web アプリケーション] をクリックします。
 - ・ ドキュメントタブで、[新規作成] > [BEx Web アプリケーション] をクリックします。
 - ・ ヘッダ パネルで、[アプリケーション] > [BEx Web アプリケーション] をクリックします。

新しい [BEx Web アプリケーション] タブが作成され、[開く] ダイアログボックスが表示されます。

- 3 BW システムにログインします。
- 4 [開く] ダイアログボックスにアクセスし、必要な BEx Web テンプレートを選択します。

注

データソースが BW マスタシステムに格納されている BEx Web テンプレートだけを選択できます。システム管理者は、BI プラットフォームで BW マスタシステムとして設定する BW システムを定義します。

BEx Web アプリケーションが開き、データをナビゲートできるようになります。

注

BI 起動パッドではインフォメーションブロードキャストリングを使用できません。インフォメーションブロードキャストリングには、Enterprise Portal やナレッジマネジメントなどの SAP NetWeaver コンポーネントが必要です。インフォメーションブロードキャストリングは、SAP NetWeaver ランドスケープで実行されている BEx Web アプリケーションでのみ使用でき、BI プラットフォームでは使用できません。

11.3.2 Business Explorer Web アプリケーションをブックマークとして保存する

BI 起動パッドで BEx Web アプリケーションを開いてデータをナビゲートしたら、後で使用するために特定のナビゲート状態を Web アプリケーションに保存できます。

BEx Web アプリケーションの作成者は、対応する Web テンプレートを以下のように設定済みです。

- ・ BEx Web Application Designer で、[コンテキストメニュー] Web 項目の [ブックマーク] パラメータ (MENU_BOOKMARK) が有効化されています。
 - ・ または、Web テンプレートに [ブックマークの保存] コマンド (SAVE_BOOKMARK) が実装されています。
- 1 BEx Web アプリケーションのコンテキストメニューで、[配布およびエクスポート] > [ブックマーク] をクリックします。

注

[ブックマーク] コマンドは BEx Web アプリケーションの設定に応じ、コンテキストメニュー内にあるか、またはボタンとして見つけることができます。

- 2 Web ブラウザのお気に入りの中の必要なフォルダに、BEx Web アプリケーションを保存します。

BEx Web アプリケーションが、ブックマークとして Web ブラウザのお気に入りに保存されました。ブックマークには後でアクセスしたり、他のユーザにリンクとして送信したりすることができます。

注

このブックマークに再度アクセスするには、BW システムにログオンする必要があります。

BEx Web Application Designer、Web 項目、および Web Design API コマンドの詳細については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com>) にアクセスし、SAP Help Portal の [SAP NetWeaver 7.0 (2004s)] > [SAP NetWeaver Library] > [SAP NetWeaver By Key Capability] > [Information Integration by Key Capability] > [Business Intelligence] > [BI Suite: Business Explorer] > [BEx Web] > [Web Application Design: BEx Web Application Designer] > [Web Design API] を参照してください。

より詳しい情報

情報リソース	場所
SAP BusinessObjects 製品情報	http://www.sap.com
SAP ヘルプ ポータル	<p>http://help.sap.com/businessobjects/ へアクセスし、[SAP BusinessObjects Overview] サイドパネルから [All Products] をクリックします。</p> <p>SAP ヘルプ ポータルでは、すべての SAP BusinessObjects 製品とそのデプロイメントについて扱った最新のドキュメンテーションにアクセスできます。PDF 版またはインストール可能な HTML ライブラリのダウンロードが可能です。</p> <p>一部のガイドは SAP サービス マーケットプレイスに格納されており、SAP ヘルプ ポータルからは入手できません。ヘルプ ポータルのガイド一覧で、そのようなガイドには SAP サービス マーケットプレイスへのリンクが付いています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。</p>
SAP サービス マーケットプレイス	<p>http://service.sap.com/bosap-support > ドキュメンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インストール ガイド: https://service.sap.com/bosap-instguides ・ リリース ノート: http://service.sap.com/releasenotes <p>SAP サービス マーケットプレイスには、一部のインストール ガイド、アップグレードおよび移行ガイド、デプロイメント ガイド、リリース ノート、サポート対象プラットフォームに関するドキュメントが格納されています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。SAP ヘルプ ポータルから SAP サービス マーケットプレイスにリダイレクトされた場合は、左側のナビゲーション ペインのメニューを使用して、アクセスするドキュメンテーションが含まれているカテゴリを探します。</p>
Docupedia	<p>https://cw.sdn.sap.com/cw/community/docupedia</p> <p>Docupedia は追加のドキュメンテーションリソース、協調的なオーサリング環境、および対話型のフィードバックチャネルを提供します。</p>

情報リソース	場所
開発者向けリソース	https://boc.sdn.sap.com/ https://www.sdn.sap.com/irj/sdn/businessobjects-sdklibrary
SAP Community Network 上の SAP BusinessObjects に関する記事	https://www.sdn.sap.com/irj/boc/businessobjects-articles これらの記事は、以前はテクニカル ペーパーという名称でした。
ノート	https://service.sap.com/notes これらのノートは、以前はナレッジ ベース記事という名称でした。
SAP Community Network 上のフォーラム	https://www.sdn.sap.com/irj/scn/forums
トレーニング	http://www.sap.com/services/education 弊社では、従来のクラス型の学習から目標を定めた eラーニング セミナーまで、学習ニーズや好みの学習スタイルに合わせたトレーニング パッケージを提供しています。
オンライン カスタマー サポート	http://service.sap.com/bosap-support SAP サポート ポータルには、カスタマー サポート プログラムとサービスに関する情報が含まれています。また、さまざまなテクニカル情報およびダウンロードへのリンクも用意されています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。
コンサルティング	http://www.sap.com/services/bysubject/businessobjectsconsulting コンサルタントは、初期の分析段階からデプロイメントプロジェクトの実現まで一貫したサポートを提供します。リレーショナル データベースと多次元データベース、接続、データベース設計ツール、カスタマイズされた埋め込みテクノロジーなどのトピックに関する専門的なサポートを行います。

索引

A

ActiveX ビューア 39
Adaptive Job Server 146

B

BEx Web アプリケーション 157
BI 起動パッド 9
 アクセス 20
 新しい機能 10
 基本設定 23
 パブリケーション結果の表示 139
 パブリケーションの作成 114
BI 起動パッドにアップロード 52
BI 受信ボックス
 スケジュール先 78
 パブリケーションの送信先 102
 ファイルのスケジュール先 80
BI ワークスペース、基本設定 27

C

CMC
 パブリケーション結果の表示 139
 パブリケーションの作成 114
Crystal Reports
 SAP Crystal Reports ビューア 2011 42
 基本設定 26
 警告 43
 公開形式 106
 スケジュール形式 74
 データベース ログオン の設定 132
 配信ルール 129, 130
Crystal レポート
 PDF のマージ 110
 書式設定 130
 印刷 44, 129
 インスタンスの形式 73
 エクスポート 45
 形式
 指定 122
 追加のオプション 122
 スケジュール 69
 ツールバー 41
 動的受信者ソースのトラブルシューティング 145
 トラブルシューティング 144
 ドリル 43

Crystal レポート (続き)
 パーソナライゼーション
 パラメータを使用した 120
 ローカルプロファイルターゲット 121
 配信ルール 99
 ビューア 37
 表示 37
Crystal レポートのエクスポート 45
CSV、スケジュール形式 74

E

Enterprise 受信者の追加 116
Enterprise の場所とパブリケーション 102
Excel、スケジュール形式 74

F

FTP サーバ、スケジュール先 80
FTP(出力先)
 パブリケーション 102
FTP(出力先)
 スケジュール先 78

J

Java ビューア 40

M

mHTML 118

O

OpenDocument リンク 57

P

PDF
 結合 110
 スケジュール形式 74

R

Report Application Server 145

S

SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP 28
SAP BusinessObjects Enterprise 9
SAP BusinessObjects Live Office 113

T

TXT、スケジュール形式 74

W

Web Intelligence ドキュメント
 Excel 形式 33
 インスタンスの形式 73
 基本設定 28
 形式の指定 127
 公開形式 106
 スケジュール 69
 ツールバー 47
 デフォルトユニバース 30
 トラブルシューティング 144
 ドリル 31, 49
 ナビゲーション マップ 48
 パーソナライゼーション 127, 128
 表示 47
 表示ロケール 30
 変更インタフェース 29
 ユーザ プロンプト 49
Web ビューア 37
Word、スケジュール形式 74

X

XML、スケジュール形式 74

あ

アカウント設定 23
 パスワード 24
アクセス権
 アラート 150
 公開 110, 112
アプリケーション 157
アラート 43, 147
 アラートソース 147, 148
 必要な権限 150
 ワークフロー 149

アンマネージドディスク、スケジュール先
80

い

一覧パネル 19
イベント 85
 パブリケーション 135
印刷
 Crystal レポートパブリケーション 129
 スケジュール設定 84
 レポート 44
インスタンス 89
 一時停止 87
 再開 87
 再配布 142
 送信 56
 タイトル 70
 表示 89
インデックスの一時停止 87
インデックスの再開 87

お

オブジェクト 51
 BI 起動パッドに追加 52
 検索 58, 59, 64
 コピー 55
 削除 58
 作成 52
 スケジュール 69
 送信 56
 ディスカッション 93
 並べ替え 53
 オブジェクト 53
 ファイル 53
 表示 35
 フィルタ処理 53
 オブジェクト 53
 ファイル 53
 割り当て
 カテゴリに 66
 フォルダに 66
オブジェクトのコピー 55
オブジェクトの並べ替え 53
オブジェクトパッケージ 88

か

会社用カテゴリ 66
外部受信者 101
カテゴリ 65
 会社用と個人用 66
 削除 58
 プロパティ 66

カレンダー 71
監査通知 135

き

キーワード 54
基本設定 23
 BI ワークスペース 27
 Crystal レポート 26
 SAP BusinessObjects Analysis,
 edition for OLAP 28
 概要 23
 タイムゾーン 25
 パスワード 24
 ロケール 25

く

区切り値、スケジュール形式 74
繰り返し 71
グループ選択式 84
グローバル配信ルール 130
グローバルプロファイルターゲット 127

け

形式 127
 Crystal レポート 122
 mHTML 118
 Web Intelligence ドキュメント 127
 インスタンス 73
 パブリケーション 105, 106
検索
 オブジェクト 58
 機能 59
 混合言語 59
 コンテンツ 64
 順位 59
 テクニック 62
 ファイルの種類 60

こ

公開 97
 SAP 統合 113
 アクセス権 110, 112
 インスタンスの形式 73
購読 109, 138
高ボリュームのパブリケーション 144
大容量パブリケーション 98
個人用カテゴリ 66

さ

サーバ
 トラブルシューティング 144
サーバグループ 86
最新表示
 ソースドキュメントデータ 98, 144

し

失敗したパブリケーションの再試行 143
受信者
 インスタンスの再配布 142
 動的 101
 配信ルール 129
 パブリケーションのパーソナライゼー
 ション 107
出力先
 指定 118
 スケジュール 80
 スケジュールの場所 79
 送信 56
 電子メール 118
 パブリケーション 102
詳細パネル 19
処理サーバ 144
新規オブジェクト 52

す

スケジュール 69
 イベント 85, 135
 キャッシング 86
 形式 72, 74
 サーバグループ 135
出力先の場所 78
設定
 印刷 84
 サーバグループ 86
選択式 84
データベースログオン 72
パブリケーション 120, 139
パラメータ 85
 実行時 71
 フィルタ 84
スケジュール中のキャッシング 86
スケジュール用サーバグループ 135

せ

選択
 Enterprise 受信者 116
選択式 84

そ

ソースドキュメント、トラブルシューティング
144

た

タイムゾーン 25
タブ 20, 36

つ

ツールバー 17

て

ディスカッション 93, 94, 95
データの最新表示 98, 144
データベース
 ログオン、Crystal レポート 132
データベースのフェッチ 98, 136
テスト モード 137
電子メール
 スケジュール先 78, 80
 通知 134
 パブリケーションインスタンスのトラブル
 シューティング 146
 パブリケーションコンテンツの埋め込
 み 118
 パブリケーションの送信先 102

と

統合された PDF、書式設定 130
動的受信者 101
 ソース 101
 追加 116
 トラブルシューティング 145
ドキュメントタブ 17
 一覧パネル 19
 詳細パネル 19
 ツールバー 17
 ドロワ 19
 ナビゲーションパネル 18
トラブルシューティング
 失敗したパブリケーション 143
 ソースドキュメント 144
 電子メールパブリケーションインスタ
 ンス 146
 動的受信者ソース 145
 パフォーマンス 144
ドリル
 Crystal レポート 43
 Web Intelligence ドキュメント 49
 ドリルオプション 31

ドロワ 19

な

ナビゲーションパネル 18

は

パーソナライゼーション
 Crystal レポート 120, 121
 Web Intelligence ドキュメント 127, 128
 パブリケーション 107
配信ルール 99
 グローバル 130
 受信者 129
パスワードの変更 24
パフォーマンスの向上 144
パブリケーション 97, 113
 Enterprise 受信者の追加 116
 SAP BusinessObjects Live Office 113
 一般プロパティ 115
 インスタンスの再配布 142
 形式 105, 106
 結果の表示 139
 購読と購読解除 109, 138
 最終処理 137
 作成
 BI 起動パッド 114
 CMC 114
出力先 102
スケジュール 120, 139
ソースドキュメントの追加 115
追加のオプション 128
テスト 137
電子メールへのコンテンツの埋め込
 み 118
動的受信者 101, 116
パーソナライゼーション 107
配信ルール 99
パブリケーション拡張 108
開く 115
レポートバースト 98
パブリケーションインスタンスの再配布
 142
パブリケーション拡張 108, 133
パラメータ
 Crystal レポート 120
 スケジュール 85

ひ

ピン留め 36

ふ

ファイル 51
 検索 58
 並べ替え 53
 表示 35
 フィルタ処理 53
ファイル場所、スケジュール先 80
フィルタ
 オブジェクト 53
 パブリケーションデータ 107
フィルタによるスケジュール 84
フォルダ 65
 オブジェクトの追加 66
 削除 58
 プロパティ 66
プラットフォーム検索 58, 64
プレーンテキスト、スケジュール形式 74
プロパティ 54
プロファイル
 プロファイルの解決 136
プロンプト 85, 132

へ

ヘッダパネル 15

ほ

ホームタブ 15

ゆ

優先表示ロケール 25
ユニバース 30

よ

要約ページ、パブリケーション 137

り

リッチテキスト、スケジュール形式 74

れ

レコード選択式 84
レポートタブの公開 127
レポートバースト 98, 136
レポートビューア
 ActiveX 39
 Crystal レポート 26
 Java 40

レポートビューア (続き)

SAP Crystal Reports ビューア 2011
42

Web 37

ろ

ローカルディスク 102

スケジュール先 78

ローカルプロファイルターゲット

Crystal レポート 121

Web Intelligence ドキュメント 128

ログオン 20

ロケール 25

わ

ワークフロー

アラート 149